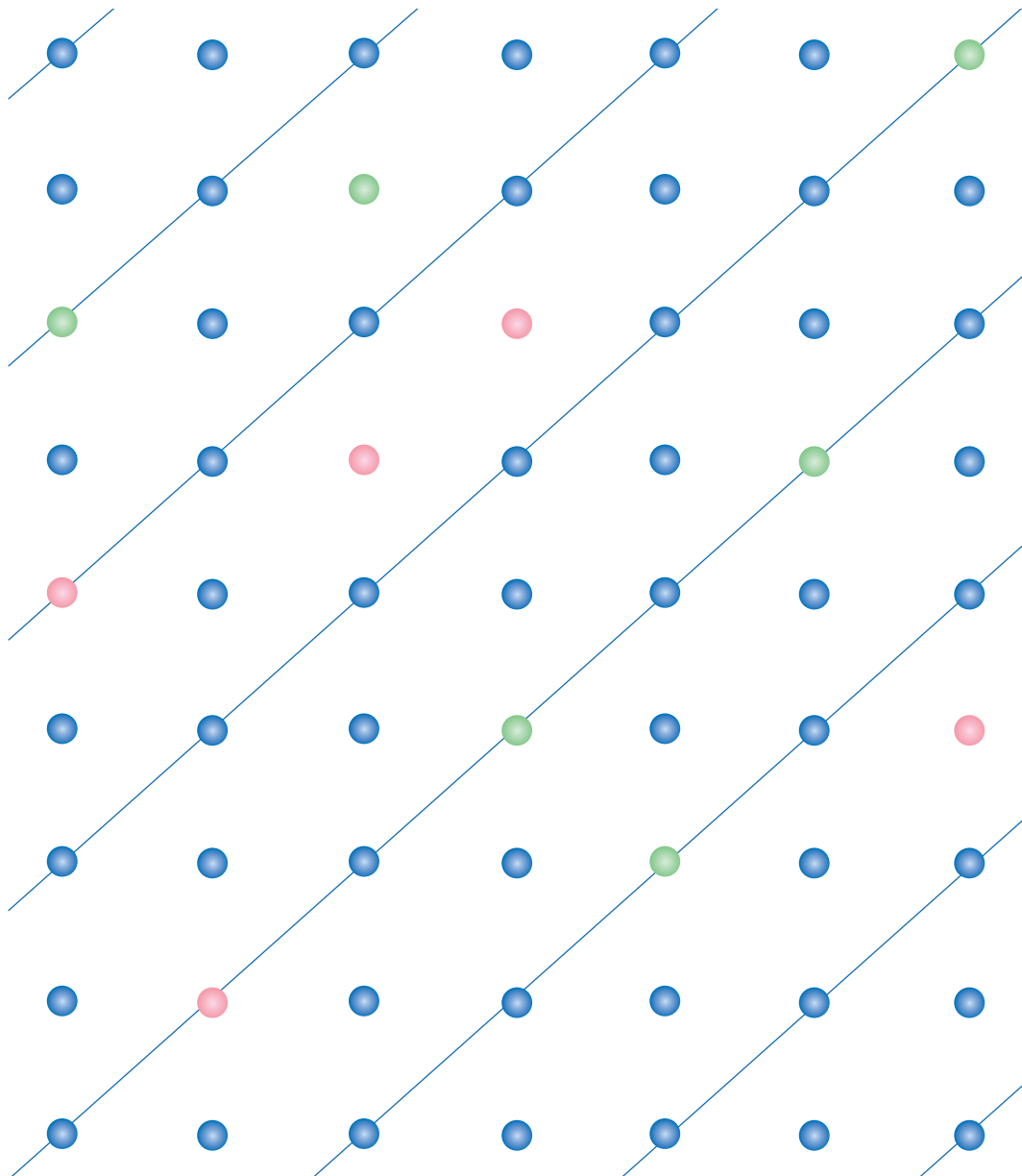


# シラバス

2018年度

看護学科



平成医療短期大学  
Heisei College of Health Sciences



# 建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

## 教育の目的

### 1 全学の目的

建学の精神を理念として、豊かな一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。

### 2 看護学科

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。

- (1) 一般教養と看護領域の専門知識、技術及び実践力を養う。
- (2) 高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を養う。
- (3) 生命の尊重と人間愛に基づく行動とチームと協働する良好な人間関係を築ける能力を養う。

### 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ理学療法士を養成する。

- (1) 一般教養と理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を養う。
- (2) 高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を養う。
- (3) 生命の尊重と人間愛に基づく行動とチームと協働する良好な人間関係を築ける能力を養う。

### 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ作業療法士を養成する。

- (1) 一般教養と作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を養う。
- (2) 高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を養う。
- (3) 生命の尊重と人間愛に基づく行動とチームと協働する良好な人間関係を築ける能力を養う。

### 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ視能訓練士を養成する。

- (1) 一般教養と作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を養う。
- (2) 高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を養う。
- (3) 生命の尊重と人間愛に基づく行動とチームと協働する良好な人間関係を築ける能力を養う。

# 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

## 1 全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

- (1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
- (2) 学修を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉に貢献できる力を身につける。
- (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学修を通して、人間、医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。

## 2 看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、お互いの立場を尊重した人間関係を構築できる。
- (2) 一般教養と看護領域の専門知識、技術及び実践力をもつ。
- (3) 良識、倫理観と責任感をもち、患者、患者家族、チームを尊重し、責任をもって職務を実践できる。
- (4) 向上心と探究心をもって職務を実践できる。

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、理学療法を実践する。
- (2) 一般教養と理学療法領域の専門知識、技術及び実践力をもつ。
- (3) 良識、倫理観と責任感をもち、患者、患者家族、チームを尊重し、責任をもって職務を実践できる。
- (4) 向上心と探究心をもって職務を実践できる。

## 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、作業療法を実践する。
- (2) 一般教養と作業療法領域の専門知識、技術及び実践力をもつ。
- (3) 良識、倫理観と責任感をもち、患者、患者家族、チームを尊重し、責任をもって職務を実践できる。
- (4) 向上心と探究心をもって職務を実践できる。

## 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、お互いの立場を尊重した人間関係を構築して、作業療法を実践する。
- (2) 一般教養と作業療法領域の専門知識、技術及び実践力をもつ。
- (3) 良識、倫理観と責任感をもち、患者、患者家族、チームを尊重し、責任をもって職務を実践できる。
- (4) 向上心と探究心をもって職務を実践できる。

# 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

## 1 全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

- (1) 社会生活に求められる教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
- (2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

## 2 看護学科

### 専門教育科目

- (1) 看護の基礎知識と能力を修得するため、人体の理解、疾病及び社会構造などの科目を配置する。
- (2) 看護の領域の系統別に科目を配置し、それぞれの専門知識・技術を発展的に高めるようにする。
- (3) 看護の領域ごとに、知識応用力、専門職コミュニケーション能力を修得し、実践能力を高める実習科目を年次段階的に配置する。

## 3 リハビリテーション学科理学療法専攻

### 専門教育科目

- (1) 理学療法の基礎知識と能力を修得するため、人体の理解、疾病及び社会構造などの科目を配置する。
- (2) 理学療法の領域の系統別に科目を配置し、それぞれの専門知識・技術を発展的に高めるようにする。
- (3) 理学療法の領域ごとに、知識応用力、専門職コミュニケーション能力を修得し、実践能力を高める実習科目を年次段階的に配置する。

## 4 リハビリテーション学科作業療法専攻

### 専門教育科目

- (1) 作業療法の基礎知識と能力を修得するため、人体の理解、疾病及び社会構造などの科目を配置する。
- (2) 作業療法の領域の系統別に科目を配置し、それぞれの専門知識・技術を発展的に高めるようにする。
- (3) 作業療法の領域ごとに、知識応用力、専門職コミュニケーション能力を修得し、実践能力を高める実習科目を年次段階的に配置する。

## 5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

### 専門教育科目

- (1) 視機能療法の基礎知識と能力を修得するため、人体の理解、疾病及び社会構造などの科目を配置する。
- (2) 視機能療法の領域の系統別に科目を配置し、それぞれの専門知識・技術を発展的に高めるように配置する。
- (3) 視機能療法の領域ごとに、知識応用力、専門職コミュニケーション能力を修得し、実践能力を高める実習科目を年次段階的に配置する。



# 履修要領

看護学科





# 履修要領

## 1. 教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、核専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に拘わるものとしての資質と技術を磨き、専門性ととんだ医療に順応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的に行われるように配慮されています。

## 2. 「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」には、大半の科目についての両学科学生が合同で受講できるよう、科目立てして配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、読み、書き、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

## 3. 「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

看護学科に配置した「専門基礎科目」には、看護の専門領域を学ぶ前段階として基礎医学に関する科目群を配置し、看護学の専門性を高める基盤となり得るよう配慮しています。また、看護を取り巻く環境についても、系統別に科目立てをしています。

「専門科目」には、看護の各領域に関する学問を系統立てて配置し、それぞれの領域が融合しながら看護学を学び、人、健康、環境の面から看護を考え、看護の実践ができるよう考慮しています。

「統合科目」には、各領域を統合させた看護の提供ができる能力を養うために、「看護学の発展」的な位置付けとして捉え、科目立てしています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

◎看護学科

区分		授業科目	単位数		卒業要件	
			必修	選択		
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2
			物理学		2	
			化学		2	
			情報科学		2	
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
	人間と社会	社会学		2	2	
		人間関係論		2		
		ボランティア論		2		
		哲学		2		
		教育学		2		
		心理学		2		
	基礎教育科目	コミュニケーション	生命倫理学	2		2
			基礎演習	1		
			文章表現法	1		
		外国語	コミュニケーション学	1		3
			英語Ⅰ（教養英語）	1		
			英語Ⅱ（日常英会話）		1	
英語Ⅲ（専門英語）	英語Ⅲ（専門英語）		1	1		
	ドイツ語		1			
	中国語		1			
	解剖学Ⅰ（解剖学総論・骨格・筋系等）	2			6	
	解剖学Ⅱ（循環・神経・内分泌・消化器等）	2				
	生化学	1				
栄養学	1					
疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ（神経・病理組織）	1		9		
	疾病論Ⅱ（呼吸と循環・代謝と栄養）	1				
	疾病論Ⅲ（神経と運動・排泄と感覚）	1				
	微生物学	1				
	公衆衛生学	1				
	薬理学	1				
社会の構造と環境	病態心理学	1		6		
	リハビリテーション概論	1				
	カウンセリング論	1				
	保健行政論	1				
	保健統計学	1				
	看護と法律	1				
健康生活を支えるための看護の原理と基礎	障害者と福祉	1		13		
	医療と経済	1				
	社会福祉学	1				
	看護学概論	1				
	基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	2				
	基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄）	2				
	基礎看護技術Ⅲ（診察・処置）	2				
	基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	1				
	フィジカルアセスメント	2				
	基礎看護学実習Ⅰ（基礎）	1				
	基礎看護学実習Ⅱ（発展）	2				
	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学概論	1		40	
		成人看護活動論Ⅰ（基礎）	3			
		成人看護活動論Ⅱ（発展）	2			
		成人看護学実習Ⅰ（慢性・回復期）	3			
		成人看護学実習Ⅱ（手術・急性・終末期）	3			
		高齢者看護学概論	1			
		高齢者看護活動論Ⅰ（基礎）	2			
高齢者看護活動論Ⅱ（発展）		1				
高齢者看護学実習Ⅰ（基礎）		2				
高齢者看護学実習Ⅱ（発展）		2				
小児看護学概論		1				
小児看護活動論Ⅰ（基礎）		2				
小児看護活動論Ⅱ（発展）		1				
小児看護学実習		2				
母性看護学概論		1				
母性看護活動論Ⅰ（基礎）		2				
母性看護活動論Ⅱ（発展）		1				
母性看護学実習		2				
精神看護学概論	1					
精神看護活動論Ⅰ（基礎）	2					
精神看護活動論Ⅱ（発展）	1					
精神看護学実習	2					
課題研究事前演習	1					
課題研究	1					
統合科目	看護の統合と実践	在宅看護概論	1		12	
		在宅看護活動論Ⅰ（基礎）	2			
		在宅看護活動論Ⅱ（発展）	1			
		在宅看護学実習	2			
		安全管理論	1			
		災害管理論	1			
総合判断育成演習	2					
看護の統合実習	2					
合計					99	

## 4. 履修方法等

### 1) 学期

学年は、4月1日から3月31日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期	4月1日から9月30日まで
後学期	10月1日から3月31日まで

### 2) 授業

#### ① 授業時間割

授業は、学期ごとに週単位で編成された授業時間割表により実施します。

授業時間割表は、毎学期の授業開始1週間前に掲示するとともに配布します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度学生用掲示板に掲示しますので始業前等には必ず確認してください。

#### ② 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

#### ③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、その都度掲示等により通知します。

#### ④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合はその都度掲示により通知します。また、休講の掲示がなく、始業時刻から30分を経過しても担当教員が教室に来られない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

#### ⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は掲示によって通知しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

### 3) 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

#### <履修上の注意事項>

ア. 必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。

イ. 同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。

ウ. 既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

### 4) 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

#### <履修登録の上限単位数（CAP制）>

CAP制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において1年間に履修登録できる単位数の上限を55単位としています。

## 5) 授業の出・欠席の取り扱い

- ① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。
- ② 出欠席の取り扱いは次の各号によりますが、遅刻・早退・欠課・欠席等の該当事項が生じた場合は、本学所定の用紙により、「遅刻・早退・欠課・欠席届及び公認願」を提出しなければなりません。
  - ア. 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。
  - イ. 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。
  - ウ. 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。
  - エ. 遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあつては定められた登校時刻又は集合時刻の20分以内の遅れをいいます。
  - オ. 早退は、授業終了前、本学行事の日にあつては定められた解散時刻前20分以内に退出した場合をいいます。
  - カ. 同一科目において遅刻、早退2回をもって1時限の欠課となります。
- ③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限ります。
  - ア. 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合
  - イ. 忌引きによる場合

父母	兄弟姉妹	祖父母	伯叔父母
7日	5日	3日	2日

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

- ウ. 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。
  - エ. 本人の責めによらない不可抗力の場合
- ※公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。  
なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。
- ④ 各届・願は、本学所定の用紙により、原則として事前に事務室へ提出し、学長の承認を受けなければなりません。やむを得ない場合には、事後速やかに届け出るものとし、遅くとも3日以内（土・日・祝等含まず）に事務室へ提出しなければなりません。なお、②の遅刻・早退届けについては、当日教員に直接提出してください。

## 5. 選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

科目名	制限の人数
情報科学	40名
英語Ⅱ（日常英会話）A	40名
英語Ⅱ（日常英会話）B	60名
英語Ⅱ（日常英会話）C	40名

## 6. 臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

看護学科実習科目の履修前提条件 <平成 29 年度以降入学生に適用>

区分	授業科目	時期	履修条件		
			単位修得済み科目	当年度履修登録済み科目	
専 門 科 教 育 科 目	と基礎 健康生活を支える ための看護の原理	基礎看護学実習Ⅰ	1 前		看護学概論 基礎看護技術Ⅰ
		基礎看護学実習Ⅱ	2 前	1 年次の「専門基礎」科目全て 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ フィジカルアセスメント
	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学実習Ⅰ	2 後* ～ 3 前	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ
		成人看護学実習Ⅱ	2 後* ～ 3 前	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ
		高齢者看護学実習Ⅰ	2 後*	【看護の原理と基礎】全科目 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護活動論Ⅱ
		高齢者看護学実習Ⅱ	3 前	高齢者看護活動論Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ	
		小児看護学実習	2 後*	【看護の原理と基礎】全科目 小児看護学概論 小児看護活動論Ⅰ	小児看護活動論Ⅱ
		母性看護学実習	2 後*	【看護の原理と基礎】全科目 母性看護学概論 母性看護活動論Ⅰ	母性看護活動論Ⅱ
	精神看護学実習	3 前	【看護の原理と基礎】全科目 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ	精神看護活動論Ⅱ	
	統 合 科 目	看護の統合と実践	在宅看護論実習	3 前	【看護の原理と基礎】全科目 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ
看護の統合実習			3 後	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習	総合判断育成演習

※表中の【看護の原理と基礎】とは、「専門科目」の「健康生活を支えるための看護の原理と基礎」の科目を示す。

\* 「健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動」の2 年次後期にある実習については、2 年次前期までの「専門基礎」科目すべてを単位履修済みであること。



## 7. 試験、成績評価及び単位の授与

### 1) 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席した者とします。

#### ① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に1週間行います。

#### ② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

#### ③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポートの提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

#### ④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

#### ⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は1回に限り再試験を行うことができます。

### 2) 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から1週間以内に追試験願を事務室に提出しなければなりません。

なお、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）の添付が必要です。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

### 3) 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（1科目につき3,000円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

### 4) 受験上の注意

ア. 座席は、別途指定された席についてください。

イ. 学生証は、写真の面を上にして通路側の机の上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は1,000円です。

ウ. 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机の上に置かないでください。

エ. 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ. 遅刻は、試験開始後30分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ. 退室は、試験開始後30分経過するまでは認めません。

キ. 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク. 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は、決して行わないでください。

5) 成績評価

成績の評価は次のとおりです。(学則第 26 条第 2 項)

(平成 27 年度以前入学者)

成績は、本人に優、良、可、不可の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、 及びレポート試験等	追試験	再試験
優	100 点～ 80 点	なし	なし
良	79 点～ 70 点	100 点～ 70 点	なし
可	69 点～ 60 点	69 点～ 60 点	100 点～ 60 点
不可	59 点以下	59 点以下	59 点以下

(平成 28 年度以降入学者)

成績は、本人に秀、優、良、可、不可の評価をもって通知します。

成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、 及びレポート試験等	追試験	再試験
秀	100 点～ 90 点	なし	なし
優	89 点～ 80 点	なし	なし
良	79 点～ 70 点	100 点～ 70 点	なし
可	69 点～ 60 点	69 点～ 60 点	100 点～ 60 点
不可	60 点未満	60 点未満	60 点未満

<実習科目>

出席が当該実習科目の授業時間数の 5 / 6 以上を対象とし、成績評価は、秀 (平成 28 年度入学者から適用)、優、良、可、不可とします。出席が当該実習科目の授業時間数の 5 / 6 に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

< GPA > \*グレード・ポイント・アベレージ

GPA とは、各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA 算出方法] \*小数第三位四捨五入

(平成 27 年度以前入学者)

$$\frac{([\text{優}] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([\text{良}] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([\text{可}] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([\text{不可}] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\text{総修得単位数} + (\text{不可} \cdot \text{失格}) \text{ 単位数}}$$

(平成 28 年度以降入学者)

$$\frac{([\text{秀}] \text{ 修得単位数} \times 4) + ([\text{優}] \text{ 修得単位数} \times 3) + ([\text{良}] \text{ 修得単位数} \times 2) + ([\text{可}] \text{ 修得単位数} \times 1) + ([\text{不可}] \text{ 修得単位数} \times 0)}{\text{総修得単位数} + (\text{不可} \cdot \text{失格}) \text{ 単位数}}$$

\* GPA には、各期の GPA と入学からその時点までの通算 GPA があり、各期の成績表には両方の GPA が掲載

されます。

- \* 不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算 GPA には算入されません。
- \* GPA は履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。
- \* 入学前既修得単位（単位認定科目）は GPA 対象外です。

#### < GPA に基づく個別指導、退学勧告 > （平成 28 年度入学者から適用）

成績不振の基準を、学期 GPA1.5 未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

- ① 学期 GPA が 1.5 未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。
- ② 2 期連続 GPA が 1.5 未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。
- ③ 3 期連続または通算 4 学期の GPA が 1.5 未満の場合は、学長が退学勧告できます。

#### 6) 成績発表

成績を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は掲示によりお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は掲示によりお知らせします。

## 8. 単位について

### 1) 単位の計算方法

学則第 24 条により、次のように定めています。

第 24 条 授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- 一 講義については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、別に定める授業科目については、15 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 三 実験、実習及び実技については、45 時間の授業をもって 1 単位とする。ただし、別に定める授業科目については、30 時間の授業をもって 1 単位とする。
- 四 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が 45 時間となる授業をもって 1 単位とする。

授業の種類	授業 1 時間当たりの換算時間
講義	3 時間
演習	1.5 時間
実習・実験・実技	1 時間

### 2) 単位の考え方

1) に記載されているように、1 単位の学修時間を 45 時間としながら、実際の講義については 15 時間（30 時間）で 1 単位としています。これは、45 時間の中に講義以外の予習・復習等の時間が含まれるとする考え方によるものです。

## 9. 卒業要件、学位の授与及び国家試験

### 1) 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に 3 年以上在学し、本学学則の別表 1 に定める授業科目の次の表に示す単位を修得しなければなりません。



<看護学科の卒業要件単位数>

		区 分	必 修	選 択	合 計
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	2 単位	2 単位以上	4 単位以上
		人間と社会	2 単位	2 単位以上	4 単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	3 単位	—	3 単位
		外国語	1 単位	1 単位以上	2 単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	人体の理解	6 単位	—	6 単位
		疾病の成り立ちと回復の促進	9 単位	—	9 単位
		社会の構造と環境	6 単位	—	6 単位
	専門科目	健康生活を支えるための 看護の原理と基礎	13 単位	—	13 単位
		健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動	40 単位	—	40 単位
	統合科目	看護の統合と実践	12 単位	—	12 単位
		合 計	94 単位	5 単位以上	99 単位以上

2) 学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、看護学科は「短期大学士（看護学）」（英訳名：Associate of Science in Nursing）の学位が授与され、看護師国家試験の受験資格が得られます。

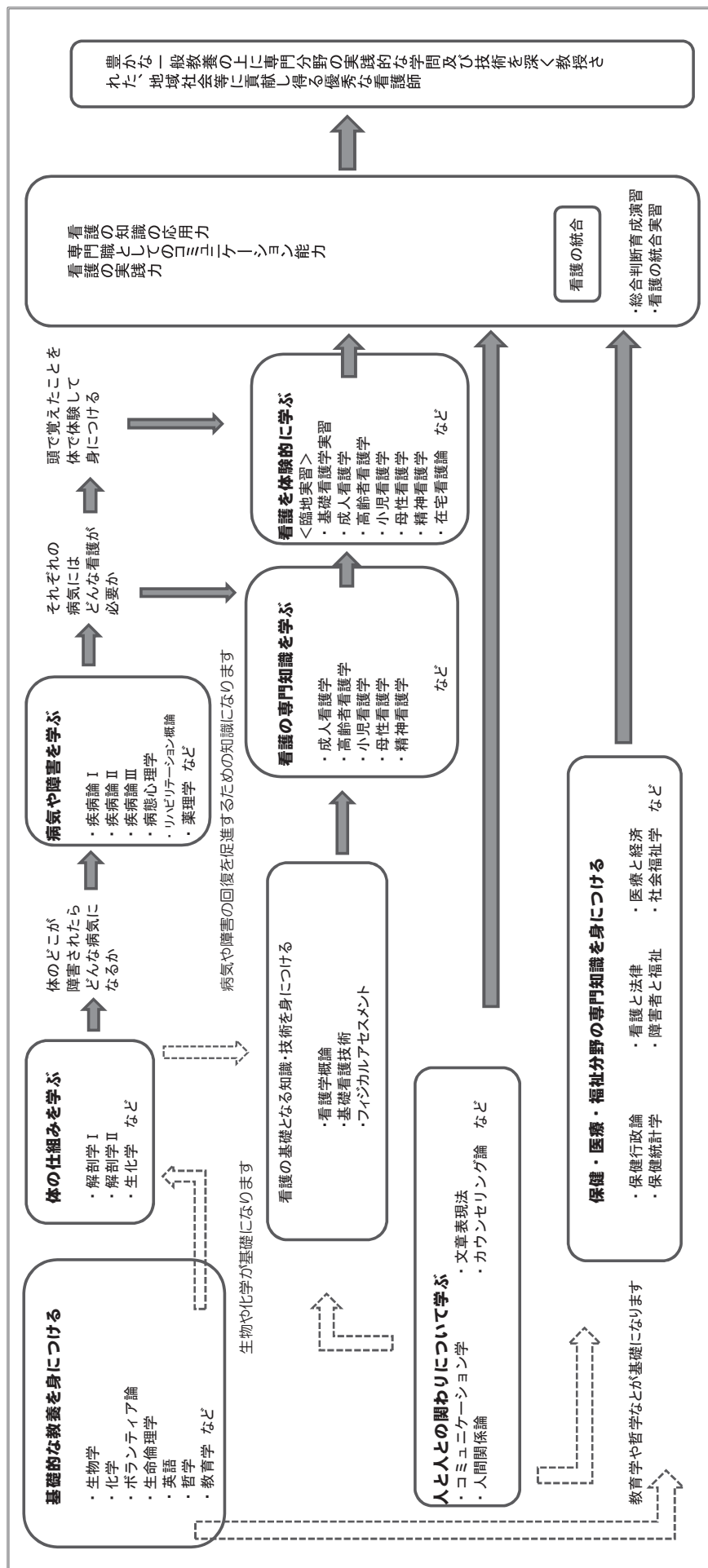
国家試験は、厚生労働省により年1回実施されます。



# 科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

## <看護学科>



## 到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

### <看護学科>

評価項目 学習成果	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
教養・倫理・責任感 及びコミュニケーション能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 物理学 化学 情報科学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。
看護の基礎知識・能 力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学 微生物学 疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論 社会福祉学 保健統計学 病態心理学 保健行政論 看護と法律 障害者と福祉 医療と経済 カウンセリング論	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。
看護の専門知識・技 術の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔) 基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄) 基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習) フィジカルアセスメント 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ(基礎) 成人看護活動論Ⅱ(発展) 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護学概論 母性看護学概論 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅱ(発展) 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護活動論Ⅱ(発展) 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ(基礎) 在宅看護活動論Ⅱ(発展) 安全管理論 災害看護論 課題研究事前演習 課題研究	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。
看護の知識応用力・ 専門職コミュニケー ション能力・実践力 の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	基礎看護学実習Ⅰ(基礎) 基礎看護学実習Ⅱ(発展) 成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) 成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎) 高齢者看護学実習Ⅱ(発展) 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習 総合判断育成演習 看護の統合実習	当該分野の学生のGPA平均 値が左記1～3のいずれに該 当するかにより評価。

# シラバス

看護学科



○看護学科

◆総合教育科目◆

科目区分	科目名	開講時期	教員名	ページ	
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	21
		物理学	1年次前学期	中村 琢	22
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	23
		情報科学	1年次後学期	加藤直樹	24
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	25
		環境と人間	1年次後学期	杉原利治	26
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	27
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	28
		ボランティア論	1年次前学期	森田政裕	29
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	30
		教育学	1年次後学期	森田政裕	31
		心理学	1年次後学期	大井修三	32
		生命倫理学	3年次前学期	塚田敬義（看、視）、近藤邦代、青木郁子	33
基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習（看護学科）	1年次前学期	熊田ますみ、眞田正世、古田弥生、森岡菜穂子	34
		文章表現法	1年次前学期	弓削 繁	35
		コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	36
	外国語	英語Ⅰ（教養英語）	1年次前学期	西澤康夫（看、理）	37
		英語Ⅱ（日常英会話）A	1年次後学期	西澤康夫	38
		英語Ⅱ（日常英会話）B	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	39
		英語Ⅲ（専門英語）	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	40
		ドイツ語	1年次後学期	末永 豊	41
		中国語	1年次後学期	橋本永真子	42

◎看護学科

◆専門教育科目◆

科目区分	科目名	開講時期	教員名	ページ	
専門 基礎 科目	人体の理解	解剖学Ⅰ（循環・骨格・筋系等）	1年次前学期	佐竹裕孝	43
		解剖学Ⅱ（神経・内分泌・消化器等）	1年次前学期	佐竹裕孝	44
		生化学	1年次前学期	坂野喜子	45
		栄養学	1年次前学期	久保和弘	46
	疾病の成り立ちと 回復の促進	疾病論Ⅰ（神経・病理組織） ※	1年次後学期	武内康雄、山本容正	47
		疾病論Ⅱ（呼吸と循環・代謝と栄養） ※	1年次後学期	近藤直実、松井永子、山本容正	48
		疾病論Ⅲ（神経と運動・排泄と感覚） ※	1年次後学期	西本 裕、坂 義人、塩谷滝雄 熊田ますみ、加藤清人	49
		微生物学	1年次前学期	林 将大	50
		公衆衛生学	3年次後学期	永田知里	51
		薬理学	1年次後学期	原 英彰	52
		病態心理学 ※	2年次前学期	深尾、徳丸、中島、杉山、武藤、山本、 鎌谷、松下、野瀬、高井	53
		リハビリテーション概論	1年次後学期	長谷部武久	54
	カウンセリング論	2年次前学期	川上正子	55	
	社会の構造と環境	保健行政論	3年次後学期	鷺見高光	56
		保健統計学	3年次前学期	紀ノ定保臣	57
		看護と法律	3年次後学期	鷺見高光	58
		障害者と福祉	3年次後学期	加藤清人	59
		医療と経済	3年次後学期	木村 茲	60
		社会福祉学	1年次後学期	竹内章郎	61

注) 科目名欄の後ろの※は、オムニバス方式の科目



◎看護学科

◆専門教育科目◆

科目区分	科目名	開講時期	教員名	ページ			
専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論	1年次前学期	長田登美子	63		
		基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）※	1年次前学期	長田登美子、二村美津子、長屋江見、馬淵佳代子、長橋友恵 他	64		
		基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄）※	1年次後学期	長田登美子、二村美津子、長屋江見、馬淵佳代子、長橋友恵	65		
		基礎看護技術Ⅲ（診察・処置）※	2年次前学期	長田登美子、二村美津子、長屋江見、馬淵佳代子、長橋友恵	66		
		基礎看護技術Ⅳ（基礎看護実習Ⅱ事前演習）※	2年次前学期	長田、二村、長屋、馬淵 他	67		
		フィジカルアセスメント※	2年次前学期	吉崎純夫、河合克尚、岩崎淳子	68		
		基礎看護学実習Ⅰ（基礎）	1年次前学期	長田、二村、長屋、眞田、馬淵、岩瀬、長橋	69		
		基礎看護学実習Ⅱ（発展）	2年次前学期	長田、二村、長屋、眞田、馬淵、岩瀬、長橋、中村 他	70		
	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学概論※	1年次後学期	足立久子、松田好美	71		
		成人看護活動論Ⅰ（基礎）※	2年次前学期	眞田、古田、吉崎、青木、森岡、林 他	72		
		成人看護活動論Ⅱ（発展）※	2年次後学期	眞田、古田、吉崎、青木、森岡、林 他	73		
		成人看護学実習Ⅰ（慢性・回復期、終末期）	2年次後学期～3年次前期	眞田、古田、吉崎、青木、森岡、林	74		
		成人看護学実習Ⅱ（手術・急性）	2年次後学期～3年次前期	眞田、古田、吉崎、青木、森岡、林	75		
		高齢者看護学概論	1年次後学期	熊田ますみ	76		
		高齢者看護活動論Ⅰ（基礎）※	2年次前学期	熊田ますみ、加藤清人、山本容正 他	77		
		高齢者看護活動論Ⅱ（発展）	2年次後学期	熊田ますみ	78		
		高齢者看護学実習Ⅰ（基礎）	2年次後学期	熊田ますみ 他	79		
		高齢者看護学実習Ⅱ（発展）	3年次前学期	熊田ますみ 他	80		
		小児看護学概論	1年次後学期	今井七重	81		
		小児看護活動論Ⅰ（基礎）※	2年次前学期	岩瀬桃子、遠渡絹代、河村昌子、中川みのり	82		
		小児看護活動論Ⅱ（発展）※	2年次後学期	近藤富雄、岩瀬桃子、岡本知美、白木大輔	83		
		小児看護学実習	2年次後学期	岩瀬桃子 他	84		
		母性看護学概論	1年次後学期	近藤邦代	85		
		母性看護活動論Ⅰ（基礎）※	2年次前学期	近藤邦代、平野聡子、山内久美子	86		
		母性看護活動論Ⅱ（発展）※	2年次後学期	近藤邦代 他	87		
		母性看護学実習	2年次後学期	近藤邦代、清水ゆかり 他	88		
		精神看護学概論	2年次前学期	三品弘司	89		
		精神看護活動論Ⅰ（基礎）※	2年次後学期	三品弘司、白田成之	90		
		精神看護活動論Ⅱ（発展）※	3年次前学期	三品弘司、白田成之	91		
		精神看護学実習	3年次前学期	三品弘司、白田成之	92		
		課題研究事前演習	3年次前学期	熊田ますみ 他	93		
		課題研究	3年次後学期	熊田ますみ 他	94		
		統合科目	看護の統合と実践	在宅看護概論	2年次前学期	小林和成	95
				在宅看護活動論Ⅰ（基礎）※	2年次後学期	小林美奈子、堀信宏、井奈波秀 他	96
在宅看護活動論Ⅱ（発展）※	3年次前学期			小林美奈子、篠田晃子	97		
在宅看護論実習	3年次前学期			小林美奈子 他	98		
安全管理論	1年次後学期			伊川順子	99		
災害管理論※	3年次後学期			松田好美、瀬藤朋弥	100		
総合判断育成演習	3年次後学期			熊田ますみ 他	101		
看護の統合実習	3年次後学期			熊田ますみ 他	102		

注) 科目名の後ろの※印は、オムニバス方式の科目



# 看 護 学 科

教養教育科目

基礎教育科目



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目 人間と科学		生物学			江村 正一	教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○	○	○	○	1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; すべての生物の基本構造である「細胞」についての理解をもとに、遺伝、発生、生命の進化と多様性などについて学び「生命」とは何かを考える。生物学で得た知識と理解が、将来、医療に携わるために修めなければならない、他の多くの科目の基礎となる。特に解剖学と生理学の学習にとって直接関係のある事象が多く出て来ますので、その部分については特に理解を深めてください。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①細胞・組織について理解できる。②遺伝・発生について理解できる。③進化・多様性について理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 教科書の該当する部分を丁寧に読み、それぞれの章で何を学ばよいか、何を学びたいかを、記録しておく。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; 事前学習で疑問に思ったことは理解・納得できたかを確認する。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>細胞とその構造について</li> <li>細胞膜の構造と機能について</li> <li>細胞の増殖について</li> <li>遺伝情報とその伝達について</li> <li>ヒトの遺伝と先天性異常について</li> <li>生殖について</li> <li>発生について</li> <li>呼吸系・消化系について</li> <li>循環系・免疫系について</li> <li>神経系について</li> <li>内分泌系について</li> <li>生命の進化と多様性について</li> <li>ヒトの起源と進化について</li> <li>生物と環境について</li> <li>人体の仕組みを学ぶことから生命とは何かを理解する 定期試験（レポート）</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
定期試験結果（100%）							
使用教科書				参考図書			
高畑・増田・北田 著、系統看護学講座 基礎分野生物学（第9版）2013年2月発行、医学書院				適宜、参考資料を配布する。			
備考							
レポートにコメントを記入し返却する。 E-mail s.emura@heisei-iryuu.ac.jp							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		物理学			中村 琢	非常勤講師	
人間と科学							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; この授業は物理学の様々な分野について短時間で概括的に学習するものである。特に看護やリハビリテーションなど医療・看護の職に就く際には物理学の知識は必須であり、本授業では現場で働く際に役に立つ物理学の原理、原則についても扱う。後半では放射線についても扱い、実習を含める。授業の形態は座学だけでなく、グループワークなど、学習者の主体的な学び（アクティブラーニング）を取り入れる。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①物理学の学習内容について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②学習した内容を活用して計算、思考、探究することができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 毎回の授業で次の授業の内容と予習の方法について指示します。必要に応じて資料を配布するので目を通してください。 &lt;必要時間&gt;各回10分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業でわからなかったことを次の授業で質問できるように復習してください。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物理学の基礎知識 ①</li> <li>2. 自然界の階層性 ①</li> <li>3. 力学の基礎1 ① ②</li> <li>4. 力学の基礎2 ①</li> <li>5. 力学の基礎3 ①</li> <li>6. 波動1 ①</li> <li>7. 波動2 ①</li> <li>8. 光と音の性質 ①</li> <li>9. 電気と磁気 ①</li> <li>10. 電流と電圧 ①</li> <li>11. 原子と原子核 ①</li> <li>12. 放射線の性質 ①、②</li> <li>13. 放射線の利用と被ばく ①、②</li> <li>14. 放射線の測定 ①、②</li> <li>15. 放射線被ばく防護 ①、②</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
<p>知識・理解、思考・判断・表現、技能、関心・意欲・態度の観点を総合的に判断する。 定期試験（50%）、時間内レポート・課題（30%）、授業参加度（20%）</p>							
使用教科書				参考図書			
なし				自然科学の基礎としての物理学、原康夫、学術図書出版社、2014年、体系看護学 基礎科目 物理学、平田雅子、メヂカルフレンド社、2006年			
備考							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オフィスアワー：講義終了後20分程度。</li> <li>2. 質問等：講義時間中に受け付けます。</li> <li>3. 電子メールアドレス :nakamura@gifu-u.ac.jp</li> </ol>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		化学			武藤 吉徳	非常勤講師	
人間と科学							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;            化学は「物質」を理解することを目的とする。医療技術に関わる多くの装置や薬品、そして人体など全てのものが物質で構成されているので、化学の知識は医療分野の基礎として非常に重要である。この講義では、化学の基礎的な内容を無機化学、有機化学の全般に亘ってなるべくわかり易く解説するよう努める。また、医療に関連する事項をできる限り多く取り上げて、専門科目への橋渡しとなるようにしたい。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            ①生体物質や医薬品を構成する元素や化学結合の特徴が理解できる。            ②主要な有機化合物について、その構造や性質を説明できる。            ③医療の場で出会う様々な物質、薬品について科学的特性を把握できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            高校で学んだ理系科目（生物、化学、物理等）があれば、その復習をする。また、教科書を予習する。            &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;            教科書とノートを再読することにより、基礎事項や専門科目との関連性を再確認する。            &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授 業 計 画							
1. 物質の特性 ① 2. 原子と分子 ① 3. 化学結合 ① 4. 物質の三態・溶液とコロイド ①③ 5. 塩化物 ①③ 6. 酸・アルカリ ①③ 7. 無機化合物 ①③ 8. 放射性元素 ①③ 9. 有機化合物概要 ② 10. 脂肪族炭化水素 ② 11. 酸素、窒素を含む有機化合物 ② 12. カルボン酸、その他 ② 13. 芳香族化合物 ② 14. 脂環・複素環化合物 ② 15. 生体物質 ① 定期試験 筆記							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
定期試験（100%）							
使用教科書				参考図書			
奈良雅之著 系統看護学講座 基礎分野 化学(第7版) 2018年1月(医学書院) ISBN978-4-260-03181-3				舟橋弥益男・渡辺昭次 著 「炭素化合物の世界」 東京教学社			
備 考							
授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		情報科学			加藤 直樹	非常勤講師	
人間と科学							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;  社会で活躍する人として、医療をはじめとした情報化に対する知識・技能を身に付けることが重要となっている。情報科学において基礎となるデジタル化とネットワークによる情報の蓄積・交換を中心として、情報システムを活用した仕事の効率化、質の向上について検討するとともに、情報システム活用における動向について調査する。また、問題解決に情報手段を活用するための能力を向上させるためのグループワークを行う。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;  情報通信技術の要素を基にして、知識基盤社会について、その特徴を説明できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;  必要に応じて事前に購読しておくべき資料や、調査による考えの整理等を行うこと。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt;  学習を振り返りながらジャーナルを記述することを求めます。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報科学の基礎を学ぶために</li> <li>2. 情報技術の技能とタッチタイピング</li> <li>3. 情報社会の特徴をコンビニエンスストアから読み解く</li> <li>4. 情報革命と呼ばれる理由を考える</li> <li>5. 情報社会において活躍できる人の能力を検討する</li> <li>6. 情報手段を活用した学びについて考える</li> <li>7. いろいろな情報のデジタル化の手順を説明する</li> <li>8. デジタル化による社会の変革を事例をもとにして考える</li> <li>9. 知識基盤社会における知的所有権について説明する</li> <li>10. 情報社会に特有となる問題を列挙して整理する</li> <li>11. 情報社会における倫理について考える</li> <li>12. 情報社会における医療の可能性を例示する</li> <li>13. 第4次産業革命について考える</li> <li>14. 知識基盤社会における人の能力について考える</li> <li>15. 情報通信技術と知識基盤社会の特徴について説明できるように学習を整理する レポート</li> </ol>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
知識・技能は、情報技術に関する基礎的な事項を重視し、授業での操作、発言、レポート等を。思考・判断・表現力は、問題の整理や調査、考えの深まりをレポートにより評価する。(80%) 主体性・多様性・協働性は、授業における態度面から評価する。(20%)							
使用教科書				参考図書			
なし				大内東、岡部成玄、栗原正仁編著、情報学入門 - 大学で学ぶ情報科学・情報活用・情報社会 -、コロナ社、東京			
備 考							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目 人間と科学		人間工学			山田 宏尚	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 人間が普段無意識に行っている身体運動や生命維持活動は、筋肉・骨格・内臓・血管など身体の各部位に働く力やモーメントをはじめとした物理学的メカニズムによって成立している。本講義では、医療行為の具体例に基づいて、身体活動の物理学的なメカニズムを学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①人間の身体活動に関わる物理学の基礎を身につけることができる。 ②実際の医療福祉の現場において、物理学的根拠に基づく治療行為を実践できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 授業計画に沿って教科書の範囲を予習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回40分</p>				<p>&lt;内容&gt; 教科書、授業内容を書き留めたノート、小テストの結果などを用いて復習する。また、必要に応じて参考書を読み、授業内容の理解を深める。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回40分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 重いものを持つにはどうしたらよいか (1)</li> <li>3. 重いものを持つにはどうしたらよいか (2)</li> <li>4. 看護ボディメカニクスの物理 (1)</li> <li>5. 看護ボディメカニクスの物理 (2)</li> <li>6. 身近な圧力 (1)</li> <li>7. 身近な圧力 (2)</li> <li>8. 力・モーメントの応用</li> <li>9. 呼吸器と吸引の物理</li> <li>10. 点滴静脈内注射の物理</li> <li>11. 循環器の物理</li> <li>12. 感覚器の物理 (1)</li> <li>13. 感覚器の物理 (2)</li> <li>14. 体温制御の物理</li> <li>15. 圧力・感覚・熱の応用 (目標①・②への到達)</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価基準：知識の修得度と計算能力（目標①）、応用的思考能力（目標②）</li> <li>・評価方法：定期試験（70%）、小テスト・宿題・授業態度（30%）で評価する。</li> </ul>							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書 名：看護学生のための物理学 第5版</li> <li>・著 者：佐藤和良</li> <li>・出 版 社：医学書院</li> </ul>				適宜紹介する			
備 考							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で小テストを実施し、随時宿題を課す。</li> <li>・オフィスアワー：講義前後の時間に非常勤講師室で待機する。</li> <li>・質問：講義中やオフィスアワーに直接、それ以外にメール（yamada@gifu-u.ac.jp）で随時受け付ける。</li> </ul>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		環境と人間			杉原 利治	非常勤講師	
人間と科学							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 資源・環境問題を解決し、持続可能な社会を構築することが、21世紀最大の課題である。しかし、そのためのアプローチの方法は、まだ、見出されていない。この講義では、環境問題は人間の問題であるとの観点に立ち、環境と人間の関係を、生活と情報によってむすびつけ、環境問題を根本的にとらえなおし、環境問題の解決法を考え、持続可能な社会を展望する。また、人間の成長・発達や脳疾患のリハビリ等に対して、環境が果たす重要な役割を考察する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①受講者ひとりひとりが、自分で問題解決の手がかりを、考え、見出すことができる。 ②既存の考え方や方法にとらわれることなく、自分自身の考え方をもち、発展させることができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; それぞれの授業時間で扱う、教科書の各章を事前に読む。 &lt;必要時間&gt;各回20分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業時に配布されたプリントを読む。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>環境問題とは何か？①②</li> <li>環境問題の原点、水俣病の問題を、生産、消費、環境から考える。①</li> <li>家庭生活から環境問題の本質を探る。①②</li> <li>衣生活から環境を考える。①</li> <li>食生活から環境を考える。①</li> <li>簡易生ゴミ分解器を製作し、その活用法を考える。①</li> <li>河川環境と人間の関係を考える。①</li> <li>情報から環境と人間を考える。①②</li> <li>情報環境が人間をつくる。①②</li> <li>脳障害者の発達、脳疾患のリハビリを、環境と情報の観点から捉えなおす。②</li> <li>環境教育のあり方を考える。①②</li> <li>アーミッシュと現代社会を比較する。①②</li> <li>近代のライフスタイルを再考する。②</li> <li>生態学の意味を考える。①②</li> <li>環境と情報から、持続可能な社会を展望する。②</li> </ol> <p>定期試験（レポート）</p>							
評価基準・評価方法							
<p>評価基準は、知識・理解、思考・判断、授業態度の総合であるが、特に、各自のオリジナルな思考を重視する。 評価方法は、レポート（50%）、小テスト（30%）、授業態度等（20%）による。</p>							
使用教科書				参考図書			
『21世紀の情報とライフスタイル』、杉原利治、論創社、2016							
備考							
毎回の授業では、開始時に、前回提出されたレポート数編をプリント配布し、それぞれの論点を評価して、それらを生かして授業を展開する。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		社会学			伊原 亮司	非常勤講師	
人間と社会							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; この講義は、現代社会のあり方について学ぶ。なかでも、ほとんどの人にとって切実なテーマである&lt;働くこと&gt;に焦点をあてて、現代社会のあり方を理解する。わたしたちは、人生の早い段階から&lt;働くこと&gt;を意識させられ、その準備をするように煽られている。しかし、働く場の実態については無知なまま、耳に優しい言葉ばかりを聞かされる。本講義は、現代社会における労働の現実を理解し、自分たちの働き方を見直すことを目的とする。医療関連の仕事に就く予定である受講者は、「就活」にはさほど困らないかもしれない。しかし、働き出してから、「いじめ」、「うつ病」、「過労死」といった様々な問題に直面する。医療従事者は「感情労働者」ともいわれ、専門知識のみならず、コミュニケーションの仕方や感情の表出の仕方など、人格に関わる側面が重視される。感情労働に付随する問題点を理解し、「うつ病」や過労死から自分の身を守る術を習得して欲しい。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 現代社会における働く場の実態を理解できる 2. その際に、いかなる視点から「現実」を切り取ればいいのか、分析枠組みを理解することができる 3. 自分自身で職場の実態を捉えられるようになる 4. &lt;働くこと&gt;に対する自分のスタンスを考えることができる 5. その際、狭義の「能力」の形成に励むだけでなく、自分の「身の守り方」にも留意することができる</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 次回の講義で学ぶ章を指定するので、事前に読んでおくこと。 &lt;必要時間&gt;各回120分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義で学んだことを新聞やテレビのニュースなどと照らし合わせて、他の事例を理解すること &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション-&lt;働くこと&gt;とは</li> <li>2. 従来の社会と働き方-「日本的経営」と「企業社会」</li> <li>3. 労働社会の変容-学校、会社、家庭の関係</li> <li>4. 働く場の実態Ⅰ-過労死・過労自殺</li> <li>5. 組織や役割への過剰適応</li> <li>6. 働く場の実態Ⅱ-「うつ病」</li> <li>7. 感情労働の特質</li> <li>8. 働く場の実態Ⅲ-「ハラスメント」</li> <li>9. 経営合理化と過度のプレッシャー</li> <li>10. 働く場の実態Ⅳ-職場秩序の悪化</li> <li>11. 非正規雇用の増大</li> <li>12. 新しい働き方とは</li> <li>13. 社会貢献という働き方</li> <li>14. 働くということを考え直す</li> <li>15. 労働を規制する、勤勉さを相対化する 定期試験 筆記</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
授業への参加（20%）、レポート（20%）、テスト（60%）などから総合的に評価。							
使用教科書				参考図書			
伊原亮司『私たちはどのように働かされるのか』（こぶし書房、2015年）				講義中に適宜紹介する			
備 考							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		人間関係論			神戸 博一	非常勤講師	
人間と社会							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;この人間関係論では、日常生活や職場、家族、医療の現場などで起こる様々な人間関係のあり方について理解し、より良い人間関係を築くために、まず人間関係の基本的な意義・視点から、職場での人間関係論、生涯の人間発達や学習と人間関係、患者さんと人間として対話する方法などについて学び、さらに人間関係を円滑に進めるための方法として、コミュニケーションの基礎・基本から学びます。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;テキストの内容について、学生自身が考え、十分に理解し、そこから実践できるレベルを目標とします。</p> <p>①人間関係の意義・視点について考えることができる。 ②職場の人間関係と対処法について理解できる。 ③生涯の人間発達や学習と人間関係について知り、応用できる。 ④ケアの共感から同感への展開、援助するための人間観を理解できる。 ⑤患者さんと対話する方法を身に付け、実践できる ⑥コミュニケーションの基礎、基本の理解できる。 ⑦非言語的コミュニケーションの重要性について理解できる。 ⑧いじめ、引きこもりなど人間関係の問題を理解できる。 ⑨患者さんとの接し方について実践できる。 ⑩インターネット、携帯の功罪について知り、日ごろから実践できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 以下の授業計画は、教科書、テキストの節、項目を記しています。講義の実際の進行に従い、前もって読んでおいて欲しい。特に、当日の予定の節、項目の中では「何が問題、課題となっているのか」を念頭に置いて読むこと。 &lt;必要時間&gt;各回10分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義の板書ノートを参照し、「何が問題、課題なのか」、「問題の答えは何か」「問題から答えまでの論理展開は」「キーワードの意味」など理解しよう努めること。板書ノートの◎を付けた箇所は、繰り返し学習することをお勧めします。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<p>教科書『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』（長谷川浩編）を利用し、特にその第1章と第3章を中心に学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスを利用した、成績評価の試験、学習対策、成績評価の基準など、人間関係の意義について ①</li> <li>2. 職場における人間関係について－メーヨーのホーソン実験 ②</li> <li>3. 人間関係のトラブル対処法とモラル調査について ②</li> <li>4. 人間の発達と人間関係について－エリクソンの理論を中心に ③</li> <li>5. 学習と人間関係について ③</li> <li>6. 社会化・個性化と人間関係について ③</li> <li>7. 援助と人間関係について ④</li> <li>8. 看護における人間関係のとらえ方 ④</li> <li>9. 患者さんを援助するのに必要な人間観について ④</li> <li>10. 患者さんとの対話のためのガイドラインについて ⑤</li> <li>11. コミュニケーションの基本概念と基本構造－マスコミとパーソナルコミュニケーション、記号 ⑥</li> <li>12. 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション ⑦</li> <li>13. コミュニケーションのゆがみ－社会問題としてのいじめ、虐待 ⑧</li> <li>14. 援助のためのコミュニケーション－カウンセリング技法 ⑨</li> <li>15. 現代のコミュニケーション－携帯電話（スマホ）の功罪など ⑩</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評価基準・評価方法							
持ち込み物なしの筆記試験（100%）							
使用教科書				参考図書			
『系統看護学講座 基礎分野 人間関係論』（長谷川浩編）3版 医学書院 2018年（以前のものでも可）				特に指摘しない。教科書の章ごとに、その最後に「参考文献」一覧が提示されているので、必要に応じ、利用する。			
備考							
授業の前後の時間帯に非常勤講師室を訪問することをお勧めします。1年後期「コミュニケーション学」がありますが、本講義と内容的なかわりが強く、「事前学習」と位置付けられるでしょう。講義がある程度進展した段階で小テスト（10分ぐらい）を予告し、実施します。この小テストは、持ち込みなしで実施し、次回以降の授業で返却の際、正解や解答について解説します。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		ボランティア論			森田 政裕	非常勤講師	
人間と社会							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;            本講義においては、1990年代中頃より日本社会に普及・定着したボランティア活動について、普及・定着の社会的背景、ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義、ボランティア活動が社会にもつ意味・意義、そしてボランティア活動によって切り拓かれる新たな社会のあり方等について概括的認識を得るとともに、そうした認識に基づいて現代社会の諸問題・課題の解決に主体的・能動的に参画しようとする、ボランティアとしての態度・心構えを形成することを目標とする。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            ①ボランティア活動について理解する。            ②ボランティア活動が現代社会においてもっている意味・意義を理解する。            ③ボランティア活動がボランティア本人にもっている意味・意義を理解する。            ④ボランティア活動を通じて社会に参画しようとする主体的・能動的な市民としての態度・心構えを形成する。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            新聞の地方欄（県内欄）に、県や各市町村レベルで行われているボランティア活動（NPO活動）の記事が載っている。そうした記事に日頃から注意しておいてください。            &lt;必要時間&gt;30分程度</p>				<p>&lt;内容&gt;            参考図書を一読しておくことをお勧めする。             &lt;必要時間&gt;30分程度</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動とは</li> <li>2. ボランティア・ボランティア活動の捉え方の変化</li> <li>3. ボランティア・ボランティア活動の捉え方の変化の背景① - 福祉国家体制の転換 -</li> <li>4. ボランティア・ボランティア活動の捉え方の変化の背景② - 豊かな社会における個人の生き方の変化 -</li> <li>5. ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義① - 社会的存在であることの自覚 -</li> <li>6. ボランティア活動がボランティア本人にもつ意味・意義② - 自己発見・自己実現の場 -</li> <li>7. ボランティア活動が青少年の人間形成にもつ意味・意義① - 多様な人間関係を体験する場 -</li> <li>8. ボランティア活動が青少年の人間形成にもつ意味・意義② - 社会参画の場 -</li> <li>9. ボランティア活動が社会にもつ意味・意義① - 社会的問題・課題への取り組みの先駆性 -</li> <li>10. ボランティア活動が社会にもつ意味・意義② - 「交換」中心社会の見直しの可能性 -</li> <li>11. ボランティア活動と NPO（非営利組織）</li> <li>12. ボランティア活動・NPO活動のソーシャル・ガバナンス</li> <li>13. ボランティア活動の課題① - ボランティアの責任 -</li> <li>14. ボランティア活動の課題② - 社会的評価の難しさ -</li> <li>15. ボランティア活動と自分 - 振り返りと今後の展望 -</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評価基準・評価方法							
<p>出席（20％）と試験（80％）の総合評価による。            なお、試験についてはノート持込可（コピーノート不可）とする。</p>							
使用教科書				参考図書			
使用しない				<ul style="list-style-type: none"> <li>・金子郁容『ボランティア—もうひとつの情報社会—』（岩波新書）</li> <li>・経済企画庁『平成12年度国民生活白書—ボランティアが深める好縁—』（内閣府 HP トップページの白書・年次報告書からダウンロード可能）</li> <li>・尾田雅夫・吉田忠彦『非営利組織論』（2009年、有斐閣アルマ）</li> </ul>			
備 考							
授業終了後、気軽に声をかけてください。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名																																																																																																																																	
教養教育科目		哲学			竹内 章郎	非常勤講師																																																																																																																																	
人間と社会																																																																																																																																							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																																																																																																																																
		理学	作業	視機能																																																																																																																																			
必修					1年次 後学期	2単位 (30時間)	講義																																																																																																																																
選択	○	○	○	○																																																																																																																																			
授業概要・学修の到達目標																																																																																																																																							
<p>&lt;概要及び到達目標&gt; 自由・平等・友愛（共同性）は、近代社会全般の基礎とされるが、この講義では、自由と共同性との関連も重視しながら、平等とはいかなることかの解明を中心に、格差や不平等が広まる現実を根本から（ラディカルに）理解することを目指したい。近代思想史や哲学史の理解も、そのための手段であるという位置づけで、講義をしたと考えている。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 大きな問題を根本から考える姿勢を身に着けるために、抽象度の高い言葉を理解しこれがある程度使えるようにする。 2. 近代思想・近代哲学の基本を一定程度理解できるようにする。</p>																																																																																																																																							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																																																																																																																																		
事前学習				事後学習																																																																																																																																			
<p>&lt;内容&gt; 講義で扱う教科書の部分を事前に読破する</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回90分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義終了ごとに、その部分の教科書に基づいて復習する</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回90分</p>																																																																																																																																			
授業計画																																																																																																																																							
<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス（全体の進行について、教科書の使い方など）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 現代において平等を問うことの意味</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>教科書</td> <td>iii ~ vii頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義</td> <td>(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>1 ~ 14頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 〃</td> <td>(2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>14 ~ 31頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史</td> <td>(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>33 ~ 44頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 〃</td> <td>(2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>44 ~ 54頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 〃</td> <td>(3)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>54 ~ 68頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 〃</td> <td>(4)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>54 ~ 68頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題</td> <td>(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>教科書</td> <td>63 ~ 93頁</td> <td>ここまですを振り返って</td> </tr> <tr> <td>10. 〃</td> <td>(2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>93 ~ 117頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. 新たな能力論的平等論と新たな機会平等論</td> <td>(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>119 ~ 143頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 〃</td> <td>(2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>143 ~ 166頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. 新たな平等論の体系の構築に向けて</td> <td>(1)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>167 ~ 185頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 〃</td> <td>(2)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>185 ~ 200頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. 〃</td> <td>(3)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>〃</td> <td>200 ~ 215頁</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="8">定期試験</td> </tr> </table>								1. ガイダンス（全体の進行について、教科書の使い方など）								2. 現代において平等を問うことの意味					教科書	iii ~ vii頁		3. 平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義	(1)				〃	1 ~ 14頁		4. 〃	(2)				〃	14 ~ 31頁		5. 平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史	(1)				〃	33 ~ 44頁		6. 〃	(2)				〃	44 ~ 54頁		7. 〃	(3)				〃	54 ~ 68頁		8. 〃	(4)				〃	54 ~ 68頁		9. 悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題	(1)				教科書	63 ~ 93頁	ここまですを振り返って	10. 〃	(2)				〃	93 ~ 117頁		11. 新たな能力論的平等論と新たな機会平等論	(1)				〃	119 ~ 143頁		12. 〃	(2)				〃	143 ~ 166頁		13. 新たな平等論の体系の構築に向けて	(1)				〃	167 ~ 185頁		14. 〃	(2)				〃	185 ~ 200頁		15. 〃	(3)				〃	200 ~ 215頁		定期試験							
1. ガイダンス（全体の進行について、教科書の使い方など）																																																																																																																																							
2. 現代において平等を問うことの意味					教科書	iii ~ vii頁																																																																																																																																	
3. 平等はなぜ避難されることが多いのか？ 平等の根本的定義	(1)				〃	1 ~ 14頁																																																																																																																																	
4. 〃	(2)				〃	14 ~ 31頁																																																																																																																																	
5. 平等論の深化・拡大、不平等と一体の平等に関する歴史	(1)				〃	33 ~ 44頁																																																																																																																																	
6. 〃	(2)				〃	44 ~ 54頁																																																																																																																																	
7. 〃	(3)				〃	54 ~ 68頁																																																																																																																																	
8. 〃	(4)				〃	54 ~ 68頁																																																																																																																																	
9. 悪平等はなぜ生まれたのか？ 伝統的平等論の意義と問題	(1)				教科書	63 ~ 93頁	ここまですを振り返って																																																																																																																																
10. 〃	(2)				〃	93 ~ 117頁																																																																																																																																	
11. 新たな能力論的平等論と新たな機会平等論	(1)				〃	119 ~ 143頁																																																																																																																																	
12. 〃	(2)				〃	143 ~ 166頁																																																																																																																																	
13. 新たな平等論の体系の構築に向けて	(1)				〃	167 ~ 185頁																																																																																																																																	
14. 〃	(2)				〃	185 ~ 200頁																																																																																																																																	
15. 〃	(3)				〃	200 ~ 215頁																																																																																																																																	
定期試験																																																																																																																																							
評価基準・評価方法																																																																																																																																							
授業への取り組みと定期試験の結果による																																																																																																																																							
使用教科書				参考図書																																																																																																																																			
竹内章郎『平等の哲学：新しい福祉思想の扉をひらく』大月書店				必要に応じて講義中に紹介する																																																																																																																																			
備考																																																																																																																																							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		教育学			森田 政裕	非常勤講師	
人間と社会							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;            本講義においては、様々な社会的場面における周囲の他者等との交渉＝相互作用を通じて諸個人が意図的ないし無意図的に人間形成を行っていく社会化の過程に着目し、社会・文化的存在としての人間は家庭や学校における教育だけで作り上げられるものではなく、家族・仲間・地域社会・学校・職場等の種々の人間・社会関係を通じて一生涯にわたり形成され続けるものであるという認識を明確にするとともに、そうした認識に基づき社会に積極的に関わり、諸世代の人々及び自分自身の社会化の過程について理解を深めることを目標とする。同時に、教育と呼ばれる意図的な社会化の場面に主体的・能動的に関与しようとする態度・心構えを形成し、教育者の立場から社会に参加していこうとする積極的な態度・心構えを形成することをもう一つの目標とする。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            ①教育の概念との対比から、社会化の概念について理解する。            ②社会化の方法について具体的に理解する。            ③ライフ・サイクルの各ライフ・ステージにおいて行われる社会化について理解する。            ④人の一生涯にわたる社会化の過程を通じて人生行路の大筋が定まることの適切な理解の上に、自分自身及び他者の社会化を主体的・能動的にコントロールしようとする態度・心構えを形成する。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            新聞の社会面、家庭面、文化面に子供の人間形成にかかわる各種記事が載ることがある。そうした記事に日頃から注意しておいてください。            &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt;            現代日本の子どもの社会化の状況に対する危機感から、子どもの社会力形成の必要性をうったえた、参考図書を読むことが望ましい。            &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
1. 教育の概念 2. 社会化の概念 3. 教育と社会化の概念の重なりとズレ 4. 社会化の方法① - 学習の型の視角から - 5. 社会化の方法② - 役割の学習・内面化の視角から - 6. 社会化の方法③ - 役割の学習・内面化と自我形成の視角から - 7. 核家族集団における子どもの基礎的社会的化① - 核家族の役割システムの学習・内面化 - 8. 核家族集団における子どもの基礎的社会的化② - 口唇依存期・愛情依存期 9. 核家族集団における子どもの基礎的社会的化③ - 潜在期・成熟期 - 10. 核家族集団における子どもの基礎的社会的化④ - 近代家族の揺らぎと社会全体による子育て - 11. 仲間集団と子どもの社会的化① - 仲間集団の諸類型 - 12. 仲間集団と子どもの社会的化② - 仲間集団が子どもの社会的化にもつ意義 - 13. 学校・学級集団と子どもの社会的化① - 学校の社会的化機能 - 14. 学校・学級集団と子どもの社会的化② - 学校の人材の選別・配分機能 - 15. 生涯学習・生涯教育の理念と生涯学習社会の実現 定期試験							
評価基準・評価方法							
出席（20％）と試験（80％）の総合評価による。 なお、試験についてはノート持込可（コピーノート不可）とする。							
使用教科書				参考図書			
使用しない				・門脇厚司『子どもの社会力』（岩波新書） ・門脇厚司『社会力を育てる－新しい「学び」の構想－』（岩波新書）			
備 考							
授業終了後に、気軽に声をかけてください。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目		心理学			大井 修三	非常勤講師	
人間と社会							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	2単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;心理学を正しく理解していると、人と人が関わる場所では、相手の理解に強力な武器となる。なぜなら、①心理学は他者理解の学問だからである。医療従事者と患者さん、医療従事者同士、日常の人間関係など。しかし、「心理学」という言葉は知っていても、心理学を正しく理解している人はなかなかいない。それは、心理学をきちんと勉強した人がなかなかいないということである(授業1)。そこで本授業では、②相手の心を理解するということはどういうことか(授業2、3、4、5、6、7)、③一人一人違うということはどういうことか(授業8、9、10、11)、④相手に目的に向かって動いてもらうということはどういうことか(授業12、13、14、15)、の3点を中心に、医療現場で他者との関係をうまく成立させることに役に立つ心理学の話をする。なるべく日常の状況に合わせた事例を紹介しながら、他者理解に必要な視点を育む。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;これらの授業を通して、相手の「心」を直接把握することができないこと、相手の「心」は推測でしか扱えないこと、同じ状況でも人によって違う心が推測されること、自分の心を相手にわかってもらうためには推測し易い情報を提供しなければならないこと、その上で相手との人間関係を考えなければいけないことを理解して、人間関係に活用することができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 将来の自らの医療現場における人間関係(患者と自分の仕事、同僚とのやり取り、医師とのやり取りなど)を想定し、その関係の中で必要となる「相手の心」をどう考えることが可能なかを考えておくこと。毎回の授業に臨むにあたって、配布するテキストを読んで理解すると同時に、疑問を作って、授業中に解決するようにする。 &lt;必要時間&gt;各回90分</p>				<p>&lt;内容&gt; 本授業では、相手の「心」を理解すること、一人一人違うこと・同じこと、人に行動させるのに必要なことを学ぶ。したがって、授業で学習した内容を、現実の場における人間関係で実践すること。本授業の内容は、医療現場だけでなく、家族とのやり取り、映画で出てくる人間関係、恋人の考え、すべてに使えるが、唯一苦手なのが「自分の心」だということも、実感する。 &lt;必要時間&gt;各回90分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション:「行動」を説明する「心」:授業の概要、評価の方法①</li> <li>2. 「心」を知る方法:直接覗くことはできない「心」①</li> <li>3. 「心」を知る方法:「行動」から「心」を推測する②</li> <li>4. 「心」を知る方法:「心」の推測には「行動」と「刺激」の情報が必要②</li> <li>5. 「相手の心」は私の中に出来上がる:相手の「心」は主観的解釈②</li> <li>6. 現象の主観的な理解②</li> <li>7. 科学的学問としての心理学②</li> <li>8. 心理学の中心テーマ:個人差③</li> <li>9. 個人差を規定する要因1:遺伝③</li> <li>10. 個人差を規定する要因2:環境③</li> <li>11. 個人差を規定する要因3:遺伝と環境の相互作用③</li> <li>12. 要求・行動とフロイト理論④</li> <li>13. 行動を出現させるもの:動因と誘因④</li> <li>14. 動機づけの機能④</li> <li>15. 要求の生得性と習得性④</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
<p>評価は、毎回授業で紹介される内容を理解し、自らの身近な事象に利用できるようになってきているかで見ると。そのための参考資料は、試験結果(90%)、毎回の授業で提出するコミュニケーションカード(10%)である。</p>							
使用教科書				参考図書			
教科書は特に用いない。 (授業に必要な資料は、授業時間中に配付する。)				適宜、紹介する。			
備 考							
<p>毎回の授業の終わりにコミュニケーションカードを提出してもらう。ここには授業内容のまとめと同時に授業中に解決できなかった質問も書いてよい。その質問には、翌授業回で解説する。</p>							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
教養教育科目 人間と社会		生命倫理学			○塚田 敬義、 近藤邦代、青木郁子	非常勤講師 教授、講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択				○			
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;  バイオエシックス（生命倫理学）の基礎的な事項を学習する。現代の医療においては医師だけではなく、多くの医療に関係する職種が協力し、チーム医療を担っている。それぞれの職種に高い倫理観が求められている。本講義では、バイオエシックスに係る歴史的背景から最新の問題群にいたるまで、デジタル教材を活用しながら講義形式で分かり易く解説するとともに医療の現場を想定した事項のグループワークを行う。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;  医療専門職に不可欠な倫理観を身につけるため、バイオエシックスに係る問題群について、倫理的・法的・社会的問題として捉え、思考し行動に移せる能力を修得する。  ①バイオエシックスの歴史的背景等から、人間の尊厳の尊さを理解し、説明することができる。  ②講義の各論から、問題の本質を見極め、立場の違いを理解したうえで、解決に向けた多角的な思考ができる。  ③医療の現場を想定したグループワークを通じて、患者、家族、看護師のそれぞれの立場から倫理的な思考ができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;  授業計画に記載した各単元について、事前に教科書を読み、分からない単語などを予め調べておくことが望ましい。</p> <p>&lt;必要時間&gt;毎回45分</p>				<p>&lt;内容&gt;  補足資料として配られたプリント、教科書及び演習の内容と照らし合わせて、何が問題になっているかを整理して考えると良い。関連教科として社会学、人間関係論、哲学などがある。</p> <p>&lt;必要時間&gt;毎回45分</p>			
授業計画							
1. バイオエシックス総論①（ガイダンス、基礎概念、歴史的背景 WW II 以前） 2. バイオエシックス総論②（歴史的背景 WW II 以後） 3. 自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）① 4. 自己決定と人間の尊厳（インフォームド・コンセント）② 5. 生殖補助医療の問題①（人工授精、体外受精、代理母） 6. 脳死・臓器移植をめぐる問題（脳死の定義、臓器移植法、移植システム） 7. 生の始まりに関わる倫理問題と生の終わりに関わる倫理問題を考える GW ① 8. 生の始まりに関わる倫理問題と生の終わりに関わる倫理問題を考える GW ② 9. 生の始まりに関わる倫理問題と生の終わりに関わる倫理問題を考える GW ③ 10. 生の始まりに関わる倫理問題と生の終わりに関わる倫理問題を考える GW ④ 11. 生の始まりに関わる倫理問題と生の終わりに関わる倫理問題を考える GW ⑤ 12. 生の始まりに関わる倫理問題と生の終わりに関わる倫理問題を考える GW ⑥ 13. 生の始まりに関わる倫理問題と生の終わりに関わる倫理問題を考える GW ⑦ 14. 終末期をめぐる問題（尊厳死、安楽死、治療中止、鎮静、緩和医療） 15. 広義のバイオエシックス（動物倫理、環境倫理）と研究をめぐる倫理 定期試験 筆記					【塚田】 【塚田】 【塚田】 【塚田】 【塚田】 【塚田】 【近藤・青木】 【近藤・青木】 【近藤・青木】 【近藤・青木】 【近藤・青木】 【近藤・青木】 【近藤・青木】 【塚田】 【塚田】		
評価基準・評価方法							
定期試験（50%）、グループワークでの参加度と発表（50%）を参考に総合的に評価する。							
使用教科書				参考図書			
改訂版 生命倫理・医事法、塚田敬義／前田和彦編、医療科学社（2018年）、3300円 ISBN: 978-4-86003-497-9							
備考							
適宜、補足資料を配布し、理解が深まるよう講義する。 特段、オフィスアワーは設けませんが、講義終了後に質問等について対応する（この時間を活用してください）。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 コミュニケーション		基礎演習			○熊田ますみ、眞田 正世、 古田 弥生、森岡菜穂子	教授、准教授 准教授、助教	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	1単位 (30時間)	演習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 将来、医療人として身につけるべきコミュニケーションスキルと学生生活を実り多いものにするためのコミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①学生生活における受講態度・マナーや他者との関わりを創成し深めるソーシャルスキルを醸成する上でのコミュニケーションスキルを身に付ける。 ②現在の医療現場で求められている、多職種医療者と協働して問題解決にあたるためのスキルを身につける。 ③そのため、「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を訓練し、実践することができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・新聞の要約</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回40～60分</p>				<p>&lt;内容&gt; 各回の内容を振り返り、個人またはグループで実際に実践する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション グループ作り</li> <li>看護におけるコミュニケーション②③</li> <li>看護におけるコミュニケーション②③</li> <li>日々の学習におけるコミュニケーション①③</li> <li>日々の学習におけるコミュニケーション①③</li> <li>実習におけるコミュニケーション②③</li> <li>実習におけるコミュニケーション②③</li> <li>ディスカッションと発表の技法③</li> <li>グループで「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を学ぶ③</li> <li>グループで「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を学ぶ③</li> <li>グループで「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を学ぶ③</li> <li>グループで「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を学ぶ③</li> <li>グループで「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を学ぶ③</li> <li>グループで「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を学ぶ③</li> <li>グループで「聞く力」「話す力」「伝え合う力」を学ぶ③</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
時間内レポート（30%） 時間外レポート（30%） グループワーク（30%） 講義態度（10%）							
使用教科書				参考図書			
よくわかる大学での学び方、前原澄子監修、金芳堂							
備考							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 コミュニケーション		文章表現法			弓削 繁	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○	○	○	○	1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 将来医療や介護等の世界で働く皆さんにとって、的確なことばによるコミュニケーションと、要を得た文章による業務の記録や提言などは大切な職務の一つになります。そこでこの講義では、毎回はじめに自分の国語力を知り基礎力を養うために、「自己診断テスト」を行います。そして教科書に沿って文章表現の基礎を学び、手紙・実用文・作文・論説文・レポートなどの書き方を実践的に身につけていきます。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①国語に関する基礎知識を豊かにし、文章表現の基礎力を養う。 ②専門科目の理解に必要な国語力と、論理的なレポート作成力を身につける。 ③社会人・職業人に求められる国語力・文章表現力の向上を図り、資格試験に対応できるようにする。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 事前に教科書を読み、付されている問題を解いてくること。文章作成問題については時間内に書き上げられるよう、内容と構成を考えてくること。 &lt;必要時間&gt;各回90分</p>				<p>&lt;内容&gt; 返却された自己診断テストの間違いをチェックし、正しく理解しておくこと。学習内容を復習するとともに、宿題になった文章課題を完成させること。 &lt;必要時間&gt;各回90分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>講義の内容と方法についての説明と、ことばと文章に関する概説</li> <li>文章を書くための基礎知識－原稿用紙の使い方 学修目標①に相応</li> <li>文章を書く時の注意点－悪文の種類とその直し方 目標①</li> <li>レポートの様式－頭書き・文献の引用・注記・典拠など 目標①②</li> <li>レポートの用語と文体－話しことばと書きことば、常体と敬体、など 目標①②</li> <li>作文・論作文・論文の書き方 目標②</li> <li>論理的な文章構成－帰納法と演繹法、頭括法と尾括法、三段構成と四段構成、など 目標①②</li> <li>作文または小論文の作成－授業前半の総括として 目標①②</li> <li>敬語の基礎知識－敬語の種類と用法 目標①③</li> <li>敬語使用上の注意点－相手との関係性と場面 目標①③</li> <li>手紙の種類と様式－頭語と結語、時候・安否の挨拶、主文と末文、など 目標①③</li> <li>手紙文の作成－礼状・挨拶状を書く 目標①③</li> <li>公用文の種類と様式－案内状・紹介状・会議録など 目標①③</li> <li>就職等に必要書類の書き方－履歴書・エントリーシートなど 目標①③</li> <li>社会問題をテーマにした小論文の作成－全体の総括として 目標①②③ 定期試験 筆記（国語の基礎知識に関する問題と論述問題から成る） ※毎時はじめに自己診断テストを行い、各自自己採点する。</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
自己診断テストでは学習意欲と理解力を評価し、提出課題では文章作成の基礎力を、また定期試験では国語の基礎学力と論理的な文章構成力を、所期の到達目標に照らして評価する（定期試験直前の勉強では対応できないので、不断の努力を怠らないこと）。評価方法は、定期試験を60%、自己診断テストと提出課題を40%とする。							
使用教科書				参考図書			
『日本語表現法』、改訂第2版、庄司達也ほか編、翰林書房、2016年				必要に応じて講義中に紹介する。			
備 考							
自己診断テストは毎回必ず回収、評価して返却するので、必ず提出すること。また文章作成課題は問題箇所を指摘して返却するので、正しい表現に書き直すこと。 教科書に課題用の原稿用紙が綴じ込まれているので毎回忘れずに持ってくること。 質問や相談などは月曜日と火曜日の授業前後に対応しますが、事前連絡があれば他の日時で構いません。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 コミュニケーション		コミュニケーション学			近藤 ひろえ	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○	○	○	○	1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;コミュニケーションの重要性を理解し、医療現場において、患者さん・利用者さん・医療スタッフとの間でよりよい人間関係を構築するための具体的なコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <p>①非言語コミュニケーションの重要性を理解し、実践できる</p> <p>②年代が違う人への挨拶、返事など、日常的なコミュニケーションができる</p> <p>③自分の気持ち・考えなどを明確に相手に伝えることができる</p> <p>④相手の言葉の背景にある気持ちや考えを想像しコミュニケーションすることができる</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;</p> <p>・前回の授業内容を振り返る</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <p>・授業で学んだこと・気づいたことを実際の生活の中で、試す。</p> <p>・試した上で疑問点を次回授業で質問できるように準備する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
1. ノンバーバルコミュニケーションの重要性	ノンバーバル（非言語）コミュニケーションの重要性を学ぶ						
2. 医療スタッフとして求められるコミュニケーション	医療スタッフとして当たり前求められるコミュニケーションスキルを自分がどの程度できているのか気づく						
3. 価値観の違いを感じる	相手と自分の価値観の違いに気づき、その違いをどのように受け入れてコミュニケーションをすることが必要かを学ぶ						
4. 伝え方の基本①	なぜミスコミュニケーションが起こるのか、仕組みを学ぶ。どのように説明することが必要かを学ぶ						
5. 伝え方の基本②	「4. 伝え方の基本①」の続きとして、具体的な伝え方のスキルを体験しながら学ぶ						
6. 伝え方の基本③	「4. 伝え方の基本①」の続きとして、実際に説明する場面を想定してロールプレイングをする。自分の良い点や今後の課題を見つける						
7. 自己理解①	他者とのコミュニケーションを円滑にするために、自分のことをどのように捉えているかが重要であることを学ぶ						
8. 自己理解②	「6. 自己理解①」の続きとして、自分の強みや弱みを知りそれを活かす考え方を学ぶ						
9. 興味・関心を持つ	コミュニケーションに欠かせない他者への興味・関心力の重要性を学ぶ						
10. 伝えにくいことを伝える	「言いにくいけれど、伝えなければならないこと」を先輩・患者様などに伝える手法を学ぶ						
11. 接遇用語の基本①	医療スタッフとして知っておかなければならない、敬語・クッション言葉などの接遇用語を学ぶ						
12. 接遇用語の基本②	前回の授業で学んだことをワークなどで実践する						
13. チームワーク	チームで仕事する上で必要な考え方を学ぶ。自分自身がチームでどんな役割・立ち位置にいることが多いかなどに気づく						
14. コミュニケーション実践① ケーススタディ	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する						
15. コミュニケーション実践② ケーススタディ	今まで学んできたことを医療場面のケーススタディを考えることで復習する						
	定期試験 筆記						
評価基準・評価方法							
<p>・授業態度（授業への関わり方） 60%</p> <p>・レポートの内容（1回レポート提出） 20%</p> <p>・後期試験 20%</p>							
使用教科書				参考図書			
<p>・近藤ひろえ 著 2018年版 「コミュニケーション学 ワークブック」</p>				<p>・授業の進行に伴って、その都度紹介する。</p> <p>・適宜、教材として使用するプリントなども配付する。</p>			
備 考							
<p>・自分のコミュニケーションの問題・悩みなどなんでもいので課題をもって授業に臨んでください。</p> <p>・オフィスアワー：授業中に質問の時間を取るほか、質問紙による質問には、次回の授業時に回答する。</p> <p>Eメールアドレスは、初回講義時間内にお知らせする。</p>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 外国語		英語 I (教養英語)			西澤 康夫	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○	○			1年次 前学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
<b>授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>日・英語の語順を対比し、英文法の基本を学び、初級～中級程度の英語の読解力を養うこと</li> <li>英語の母音と子音の発音に習熟し、初級程度の単語や文を正しく聞き分ける聴解力を身につけること</li> <li>五文型について学び、中級程度の英文の構造を正しく理解し、正確に和訳できる力を身に付けること</li> <li>英和辞典の使い方に慣れ、自力で英文を読むための基本ツールとして使いこなせるようになること</li> <li>動詞の活用、自動詞と他動詞、複文について学び、基本的な英文を話し、書く力を身に付けること</li> <li>前置詞、冠詞、to 不定詞、現在分詞、過去分詞を正しく使えるようになるために、基本例文を学ぶこと</li> <li>仮定法について基本を学び、多くの例文を通じてその使い方に慣れること</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
<b>事前学習</b>				<b>事後学習</b>			
<内容> 使用するテキストの英文をまず自分で読んでおき、理解できないところがないか、あらかじめチェックしておくこと。授業中の説明を聞いても分からないときは質問すること。 <必要時間> 毎回60分				<内容> 授業中の説明についてのメモを見ながら、要点を整理してきちんと正確にノートに記述しておくこと。不明な個所があれば、次の授業で質問すること。 <必要時間> 毎回60分			
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>授業概要、学修目標について説明し、英語を学ぶ意味、日・英語の語順の違いに意識を喚起する</li> <li>英文法の基本である八品詞についてそれぞれの特色を学び、英文法を学習するための土台を固める。</li> <li>英語の文構造を説明できる五文型について学び、英文を理解する基本を例文の分析を通じて学ぶ。</li> <li>八品詞と文型の関係について学び、文の主語と動詞が、あらゆる文の意味を大略決定することを学ぶ。</li> <li>単語の構成素である母音と子音について学び、日・英語の発音の基本的な相違に対する意識を高める。</li> <li>個々の母音、および子音について個別に発音を学び、単語の中で実際に発音する訓練をする。</li> <li>英単語のスペリングとその発音との関係を学び、知らない単語の発音を予測する訓練をする。</li> <li>音節及びアクセントについて学ぶことによって、単語を理解可能なレベルで発音できるように訓練する。</li> <li>英文のイントネーションを学ぶことによって、英文に感情を乗せて話せるための基本を身に付ける。</li> <li>前置詞+名詞=前置詞句という公式概念を使って、英語表現の微妙な使い分けについて学ぶ。</li> <li>to 不定詞の三つの使い方に慣れ、例文を通じて英語表現の幅を広げる方法を学ぶ。</li> <li>仮定法、すなわち仮想表現について学び、豊富な例文を通じてそれを自在に使えるよう慣れ親しむ。</li> <li>冠詞の種類と使い方について学び、常に冠詞を正しく使うことができるようになるための練習をする。</li> <li>接頭語、および接尾辞について学び、派生語を通じて語彙を増やす方法に習熟する。</li> <li>特定の接頭語や接尾辞を使って、単語の品詞変換、反意語の作成方法について学ぶ。</li> </ol> 定期試験 筆記							
<b>評価基準・評価方法</b>							
私語を慎み、予習を怠らず、授業中はきちんとノートをとり、宿題を次週に提出し、分からないところを素直に質問する態度、授業参加度（40%）と筆記試験の成績（60%）で評価する。							
<b>使用教科書</b>				<b>参考図書</b>			
循環型で学ぶ英語リーディング演習 Reading Cycle、金星堂、2016年初版発行							
<b>備 考</b>							
英和辞典、もしくは電子辞書を購入し、授業中にいつでも参照できるように持参すること。また、授業の予習や復習にそれらの辞書を参照すること。ただし、英和辞典や電子辞書に代わるものとして、スマホでインターネット上の辞書、例えば weblio などを使用することは可とする。宿題の提出は、所属学科、学籍番号、氏名を記入したルーズリーフ1～2枚程度を使用して提出すること。ノートによる宿題の提出は不可。教員による点検の終わった宿題は、原則として次週に返却するものとする。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 外国語		英語Ⅱ（日常英会話）A			西澤 康夫	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択	○	○					
授業概要・学修の到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初級の基本的な日常の英語を聞いて、一定程度聞き取りが出来るようにする。</li> <li>2. 日常の英語の中でよく使われる表現に着目し、ペアーで使う練習をする。</li> <li>3. 身近な話題について書かれた小さなエッセイを幾つか読み、基本態な英語に慣れる。</li> <li>4. 与えられた短い日常英語の例文を、対応する和訳を参考にしながら、50以上暗唱する。</li> <li>5. 英文メールに慣れ、自分でもメール文を書ける自信をつける。</li> <li>6. Dialogue（対話）を読んだり、聞いたりして、理解できるように練習する。</li> <li>7. テキストの対話文をペアーで練習し、自分で積極的に発話する態度を身に付ける。</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<内容> 日常の英語を素材にしたテキストの予習をし、基本暗唱英文を、テストに備えて、毎回一定量、暗唱しておくこと。 <必要時間>各回60分				<内容> 教室で学んだ対話文の音読をし、英語の定着を図る。暗唱英文テストの検証をし、間違いをたどす。 <必要時間>各回60分			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の受け方についてガイダンスを受け、テキストの Unit1 の Dialgue、Reading、Writing を学ぶ。</li> <li>2. Unit1 の Reading の解説、Writing のパラグラフの構造について学び、暗唱英文の英文を学ぶ。</li> <li>3. Unit2 の Dialgue、Reading、Writing を学び、動詞 + to 不定詞・動名詞について学び、小テストを受ける。</li> <li>4. Unit3 の Dialogue、Reading、Writing を学び、見た目や性格を表す形容詞を学び、小テストを受ける。</li> <li>5. Unit4 の Dialogue、Reading、Writing を学び、be 動詞、一般動詞の過去形を学び、小テストをうける。</li> <li>6. Unit5 の Dialgoue、Reading、Writing を学び、現在進行形と過去進行形を学び、小テストを受ける。</li> <li>7. Unit6 の Dialogue、Reading、Writing を学び、命令形について学び、小テストを受ける。</li> <li>8. Unit7 の Dialogue、Reading、Writing を学び、比較級と最上級について学び、小テストを受ける。</li> <li>9. Unit8 の Dialogue、Reading、Writing を学び、存在や所有を表す表現を学び、小テストを受ける。</li> <li>10. Unit9 の Dialogue、Reading、Writing を学び、未来を表す表現について学び、小テストを受ける。</li> <li>11. Unit10 の Dialogue、Reading、Writing を学び、現在完了形の4つの用法を学び、小テストを受ける。</li> <li>12. Unit11 の Dialgue、Reading、Writing を学び、提案、義務を表す助動詞を学び、小テストを受ける。</li> <li>13. Unit12 の Dialogue、Reading、Writing を学び、Wh 疑問文と間接疑問文を学び、小テストを受ける。</li> <li>14. Unit13 の Dialogue、_Reading、Writing を学び、可算名詞と不可算名詞について学び、小テストを受ける。</li> <li>15. Unit14 の Dialogue、Reading、Writing を学び、Yes/No 疑問文、Wh 疑問文を学び、小テストを受ける。</li> </ol> 定期試験 筆記							
評価基準・評価方法							
予習復習、宿題をきちんと行い、私語なく受講し、暗唱英文等の小テストを受ける授業参加度（50%）と、定期試験の結果（50%）で評価する。							
使用教科書				参考図書			
English Beams: Essential Skills for Talking and Writing 金星堂、2016年、1月発行							
備考							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 外国語		英語Ⅱ（日常英会話）B			ミルボド・セイエド・モハマド	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択	○	○					
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 本講義では、英語によるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。その際、英語の伝達的な機能のみにとどまらず、文化・社会とのかかわりについても考慮する。毎回さまざまな言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることも目的の一つとする。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 英語の受信能力（リーディング・ライティング）だけではなく、発信能力（リスニング・スピーキング）を高める。また、英語の伝達的な機能のみではなく、英語と文化・社会とのかかわりなどへの理解を高め、多様な情報を様々な方向から理解・解釈する力の育成を目指す。授業終了時には英語の受信能力及び発信能力が向上し、実践することができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・事前の準備に取り組むこと ・テキストを読み、理解を深めること ・学習内容を周知すること &lt;必要時間&gt; 毎回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・指導者が提示した内容を踏まえて復習すること ・事後活動に積極的に参加すること  &lt;必要時間&gt; 毎回30分</p>			
授 業 計 画							
<p>(皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Week 1: Introductions / Family: Pairwork activity</li> <li>Week 2: Food, Time: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 3: House &amp; Home, Music: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 4: Transportation, Sports: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 5: Numbers, Best friends: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 6: TV, Work: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 7: Vacation, School: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 8: Movies, Money: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 9: Restaurants, Animals: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 10: Shopping, Health &amp; Fitness: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 11: Fashion, Travel: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 12: Books, Newspaper, Sickness: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 13: Holidays, Fears: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 14: Dating, Marriage: Questions &amp; conversations</li> <li>Week 15: Review all topics</li> </ol> <p>試験</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
授業参加態度・小テスト・・・40%、理解度判定・・・60%							
使用教科書				参考図書			
<p>テキスト：TOPIC TALK 著 者：David Martin 出 版 社：EFL Press（埼玉）</p>							
備 考							
<p>学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。 授業でDVD 日常英会話入門も使用し会話の練習を行う。</p>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 外国語		英語Ⅲ（専門英語）			ミルポド・セイエド・モハマド	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 本講義では、ホスピタル・イングリッシュによるコミュニケーション能力を総合的に向上させることをねらいとする。発音や聞き取りの練習により、スピーキングやリスニングの能力を育成する。「読む」「聞く」「話す」という3つの技能を育て、英語の運用能力を総合的に養う。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 毎回さまざまな医療に関する言語活動を行い、英語の持つ多様な機能や働きを考えることを目指す： ①正しい発音と適切なパターンで発話することができる。 ②医療英語によるコミュニケーションに必要なリスニング力を身につけ、状況の聞き取りができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・事前の準備に取り組むこと ・テキストを読み、理解を深めること ・学習内容を周知すること &lt;必要時間&gt;毎回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・指導者が提示した内容を踏まえて復習すること ・事後活動に積極的に参加すること  &lt;必要時間&gt;毎回30分</p>			
授業計画							
<p>(皆さんの英語力とテキストの難易度をすり合わせ、無理のない進み方で行う。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>Lesson 1 Reception Desk (救急外来受付)</li> <li>Lesson 2 Examination Room (診察室)</li> <li>Lesson 3 Giving Injection (注射をする)</li> <li>Lesson 4 Explanation to a Family Member (患者の家族への説明)</li> <li>Lesson 5 Self-Introduction and First Meal (自己紹介と初めての食事)</li> <li>Lesson 6 Orientation to the Ward (入院病棟を案内する)</li> <li>Lesson 7 Asking Height, Weight, and Temperature (身長、体重、体温を訪ねる)</li> <li>Lesson 8 Obtaining the Patient's History (患者歴をとる) 小テスト</li> <li>Lesson 9 Checking the Patient's Condition (患者の状態をチェックする)</li> <li>Lesson 10 Blood Test Explanation (血液検査の説明)</li> <li>Lesson 11 Drawing a Blood Sample (採血)</li> <li>Lesson 12 Explaining about the Operation: Basic Procedures (手術についての説明: 基本的手順)</li> <li>Lesson 13 Explaining about the Operation: Anesthesia (手術についての説明: 麻酔)</li> <li>Lesson 14 Taking the Patient into Surgery (手術室への搬送)</li> </ol> <p>試験</p>							
評価基準・評価方法							
授業参加態度・小テスト・・・40%、理解度判定・・・60%							
使用教科書				参考図書			
タイトル: Essential English For Nurses 著者: Paul Zito & Masako Hayano 出版社: 日総研							
備考							
学生がテキストの内容をよく理解するために各ユニットをスライドプレゼンテーションで説明する。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 外国語		ドイツ語			末永 豊	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; ドイツ語のアルファベット、発音の仕方から人称代名詞、名詞、動詞、疑問詞など基本的なことがらを学ぶ。理解をたしかにするために、随時小試験をする。 詩の朗読を練習し、学期末に暗唱朗読をする。折をみて代表的なドイツの歌を聴く</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 新しいことを知ることのたのしさを知る ドイツ語の基本的な表現を理解し、習得する</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 先の学習項目に目を通しておくこと</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 短時間でも学習したことがらを見直しておく</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回15分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（日本語になったドイツ語、ドイツ語圏の国々、暗唱朗読のことなど）</li> <li>2. アルファベット、発音Ⅰ</li> <li>3. アルファベット、発音Ⅱ</li> <li>4. 発音で気をつけること、あいさつなど。朗読練習の開始</li> <li>5. ドイツ中世都市の成立。朗読練習</li> <li>6. わたしは行く、あなたは行くなど。朗読練習</li> <li>7. ～～は、～～の、～～に、～～を I。朗読練習</li> <li>8. ～～は、～～の、～～に、～～を II。朗読練習</li> <li>9. 私は眠る、あなたは眠るなど。朗読練習</li> <li>10. 誰が、何が、いつ、なぜ、どこへなど。朗読練習</li> <li>11. 誰が、何が、いつ、なぜ、どこへなどⅡ。朗読練習</li> <li>12. 「ロマンチック街道」とはどんな街道か。朗読練習</li> <li>13. 雨にもかかわらず、車で、トンネルを通過してなど。朗読練習</li> <li>14. テーブルの上に、テーブルの上へなど。暗唱朗読実施</li> <li>15. 曜日、月名、四季など。暗唱朗読実施</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
<p>理解度、積極性を重視 定期試験（50%）、小試験（20%）、暗唱朗読（20%）、受講の様子（10%）で総合的に評価</p>							
使用教科書				参考図書			
プリント教材を使用				必要に応じて紹介			
備 考							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 外国語		中国語			橋本 永貢子	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修					1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択	○	○	○	○			
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 現代中国語の初歩を学ぶ。基礎的な中国語の習得を通じて、中国語が一言語としてどのような特徴を持っているのかを学び、また、中国人とコミュニケーションをとる場合に必要な知識や中国語の背景にある中国の文化や社会についても理解を深める。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①発音記号が読めるようになること ②基礎的な文法を習得し、簡単な日常会話ができるようになること</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 教科書付録のCDを聞いて予習しておくこと</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回90分</p>				<p>&lt;内容&gt; 教科書付録のCDを聞いて復習しておくこと 授業中に指示された課題に取り組むこと</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回90分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>中国語の概要と四声</li> <li>母音 (1)</li> <li>母音 (2) 子音 (1)</li> <li>子音 (2)</li> <li>発音のまとめ</li> <li>挨拶のしかた</li> <li>“A 是 B”の文 (1)</li> <li>“A 是 B”の文 (2)、動詞述語文 (1)</li> <li>動詞述語文 (2)</li> <li>存在を表す文 (1)</li> <li>存在を表す文 (2)、所在を表す文 (1)</li> <li>所在を表す文 (2)</li> <li>助動詞のある文 (1)</li> <li>助動詞のある文 (2)</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>定期試験 筆記 到達目標①は、全ての回を通して定着を図る。②は6回以降で学修していく。</p>							
評価基準・評価方法							
発音とリスニングを重視する。毎回の授業における理解度や発音の状況 (20%) と学期中数回行う小テスト (30%)、および期末テストの結果 (50%) から総合的に評価する。							
使用教科書				参考図書			
『医療系学生のための初級中国語』 山田真一 著 2009 白帝社							
備考							
小テストについては、次の授業の際に採点したものを返却しまた解説する。 連絡先メールアドレス：ran@gifu-u.ac.jp							

# 看護学科

専門基礎科目



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 人体の理解		解剖学Ⅰ（総論・骨格・筋系等）			佐竹 裕孝	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	2単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; ヒトの身体は正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本的な構造と関連づけて統合的に学び、解剖学的な構成と機能的な役割を理解し、専門基礎科目および臨床科目の礎となる人体に関する解剖学および生理学的な基礎知識を習得する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 解剖学Ⅰでは解剖生理学を学ぶための基礎知識と、人体を構成する基本的な要素である骨格筋系および感覚器系をそれぞれ構造と機能から体系的に学修し、正常な仕組みと働きを説明できるようにする。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; シラバスに沿って講義内容の概略を把握し、人体に関する「高校生物」程度の知識を再確認したうえで講義に臨む。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義中に内容の理解に努め、復習はノートの整理を兼ねて行う。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 総論Ⅰ 細胞の構造、組織</li> <li>2. 総論Ⅱ 細胞膜の構造と機能</li> <li>3. 総論Ⅲ 人体の構造と機能</li> <li>4. 骨筋系Ⅰ 骨筋総論① 骨、関節</li> <li>5. 骨筋系Ⅱ 骨筋総論② 筋、運動機能と下行伝導路</li> <li>6. 骨筋系Ⅲ 体幹の骨格と筋 脊柱と胸郭、背部・胸部・腹部の筋</li> <li>7. 骨筋系Ⅳ 上肢の骨格と筋 骨格と筋群、運動</li> <li>8. 骨筋系Ⅴ 下肢の骨格と筋 骨格と筋群、運動</li> <li>9. 骨筋系Ⅵ 頭頸部の骨格と筋</li> <li>10. 骨筋系Ⅶ 筋の収縮機構</li> <li>11. 感覚器系Ⅰ 感覚総論、視覚器の構造</li> <li>12. 感覚器系Ⅱ 視覚器の機能</li> <li>13. 感覚器系Ⅲ 耳の構造と機能</li> <li>14. 感覚器系Ⅳ 化学覚と体性感覚の構造と機能</li> <li>15. 感覚器系Ⅴ 皮膚の構造と機能</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
定期試験の成績（100%）							
使用教科書				参考図書			
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学（第10版）（医学書院）				トートラ人体解剖生理学 原書10版（丸善）佐伯 他（編訳）2017 人体の正常構造と機能（改訂2版）（丸善）坂井・河原（編）2012 シンプル生理学（改訂7版）（南江堂）貴邑・根来（著）2016			
備 考							
解剖学Ⅰと解剖学Ⅱは看護教育の根底をなす解剖・生理学の講義であり、1年次前期に集中して開講される。身体の基本構造である骨格系を中心とした解剖学Ⅰを集中的に先行して講義し、引き続いて解剖学Ⅱの講義に移る。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 人体の理解		解剖学Ⅱ（循環・神経・内分泌・消化器等）			佐竹 裕孝	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	2単位 (60時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; ヒトの身体は正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本的な構造と関連づけて統合的に学び、解剖学的な構成と機能的な役割を理解し、専門基礎科目および臨床科目の礎となる人体に関する解剖学および生理学的な基礎知識を習得する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 解剖学Ⅱでは消化器系、呼吸器系、血液、心循環系、腎泌尿器系、内分泌器系、生殖器系、および神経系をそれぞれ構造と機能から体系的に学修し、正常な仕組みと働きを正しく説明できるようにする。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; シラバスに沿って講義内容の概略を把握し、人体に関する「高校生物」程度の知識を再確認したうえで講義に臨む。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義中に内容の理解に努め、復習はノートの整理を兼ねて行う。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
1. 消化器系Ⅰ	消化器総論。口・咽頭・食道の構造と機能	17. 腎泌尿器系Ⅰ	腎の構造と機能、糸球体の構造と機能	18. 腎泌尿器系Ⅱ	クリアランス、排尿路の構造と機能	19. 腎泌尿器系Ⅲ	体液とその調節、体液とホメオスタシス
2. 消化器系Ⅱ	腹部消化管（胃・小腸・大腸）の構造	20. 内分泌器系Ⅰ	内分泌総論、調節系、視床下部、下垂体	21. 内分泌器系Ⅱ	甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、性腺	22. 内分泌器系Ⅲ	ホルモンによる調節
3. 消化器系Ⅲ	腹部消化管（胃・小腸・大腸）の機能	23. 生殖器系Ⅰ	男性生殖器	24. 生殖器系Ⅱ	女性生殖器	25. 体温とその調節	
4. 消化器系Ⅳ	栄養の消化と吸収	26. 神経系Ⅰ	神経細胞の構造と機能	27. 神経系Ⅱ	脊髄と脳	28. 神経系Ⅲ	脊髄神経と脳神経
5. 消化器系Ⅴ	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能、腹膜	29. 神経系Ⅳ	自律神経の構造と機能	30. 神経系Ⅴ	脳の高次機能	筆記（腎泌尿器系、内分泌系、生殖器系、体温と調節、神経系）	
6. 呼吸器系Ⅰ	呼吸器の構造	定期試験					
7. 呼吸器系Ⅱ	呼吸① 呼吸運動の機構、呼吸気量						
8. 呼吸器系Ⅲ	呼吸② ガス交換、呼吸運動の調節						
9. 血液Ⅰ	赤血球、白血球、血小板						
10. 血液Ⅱ	血漿タンパク質、凝固線溶系、血液型						
11. 心循環系Ⅰ	心臓の構造						
12. 心循環系Ⅱ	心臓の機能①						
13. 心循環系Ⅲ	心臓の機能②						
14. 心循環系Ⅳ	末梢循環系の構造						
15. 心循環系Ⅴ	血液循環の調節①						
16. 心循環系Ⅵ	血液循環の調節②、リンパとリンパ管 中間試験 筆記（消化器系、呼吸器系、血液、心循環系）						
評価基準・評価方法							
中間試験の成績（50%）、および定期試験の成績（50%）							
使用教科書				参考図書			
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学（10版）（医学書院）				トートラ人体解剖生理学 原書10版（丸善）佐伯 他（編訳）2017 人体の正常構造と機能（改訂2版）（丸善）坂井・河原（編）2012 シンブル生理学（改訂7版）（南江堂）貴邑・根来（著）2016			
備考							
解剖学Ⅰと解剖学Ⅱは看護教育の根底をなす解剖・生理学の講義であり、1年次前期に集中して開講される。はじめに解剖学Ⅰを集中的に開講し、引き続いて植物性機能を中心とした解剖学Ⅱを講義する。解剖学Ⅱは30コマの講義であるため、開講期間の前半に中間試験（筆記）を実施する。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目		生化学			坂野 喜子	非常勤講師	
人体の理解							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;            生化学の学習では、人間の生命現象の仕組みを科学的に理解するために、生体内で営まれている物質代謝をはじめとする数々の現象について学習する。具体的には、人体を構成している様々な物質、特に糖質、タンパク質、脂質などの化学的性質や役割と機能についてそのメカニズムを学習し、人体の正常な機能とどのように関わっているかを学習する。また、遺伝子の構造や遺伝情報についても学習し、遺伝子の変異が疾病とどのように関連しているかを学習する。病気は正常な営みの欠陥により起こるものであり、正常な仕組みを理解することが病気を理解するためにも重要である。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            生化学を学ぶことにより、人体の正常な営みと仕組みを科学的に理解することにより、関連する病気の原因を正しく理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            講義内容を理解するために、事前に教科書の授業範囲をよく読んで、授業内容を理解しておく。</p> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;            その日の授業を確実に理解するために、ミニテストを配布する。授業やミニテストについての疑問がある場合は、参考書で調べるか、次回の授業で質問して、その都度理解する。</p> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回120分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、生化学の基礎知識</li> <li>2. 代謝の概念 : 代謝とは、異化と同化、エネルギー産生</li> <li>3. 生命の最小単位－細胞；細胞内小器官の構造と役割</li> <li>4. 細胞の化学成分（Ⅰ） : 糖質、脂質</li> <li>5. 細胞の化学成分（Ⅱ） : タンパク質、核酸</li> <li>6. 酵素；酵素の役割、補酵素ビタミン、酵素による代謝調節、酵素診断</li> <li>7. 糖質代謝（Ⅰ） : 解糖系、クエン酸回路、糖新生</li> <li>8. 糖質代謝（Ⅱ） : グリコーゲン合成と分解、血糖調節機構</li> <li>9. 脂質代謝 : 脂肪酸の分解、脂質の合成、血中リポタンパク質、動脈硬化症</li> <li>10. タンパク質の代謝 : タンパク質の消化吸収、アミノ酸の代謝、尿素サイクル、ヘムの代謝</li> <li>11. 核酸の代謝、エネルギー代謝の統合；ヌクレオチドの合成と分解、臓器間の代謝調節</li> <li>12. 代謝調節；ホルモンによる代謝調節機構、飢餓と糖尿病の代謝異常</li> <li>13. 遺伝情報；遺伝子 DNA からタンパク質合成、遺伝子の変化</li> <li>14. 代謝異常と疾患（Ⅰ） : 先天性代謝異常、酵素異常、タンパク質の異常</li> <li>15. 代謝異常と疾患（Ⅱ） : 癌</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
筆記試験を実施する（80%）。毎回ミニテストを行う（10%）。授業態度（10%）							
使用教科書				参考図書			
NURSINGGRAPHICUS ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能2：臨床生化学（第5版）2018年1月 （MC メディカ出版）				リップスコットシリーズ イラストレイテッド 生化学 2015年01月			
備考							
講師の連絡先；メールアドレス；banno@cap.ocn.ne.jp							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目		栄養学			久保 和弘	非常勤講師	
人体の理解							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;栄養学の学習では、生化学と連動した学問と位置づけ、特に看護の対象である人間にとっての栄養の意義を理解し、人間の成長発達や生命の維持に必要な栄養素の種類と体内の代謝について学習する。また、健康な一生を送るために生活習慣病の予防や乳児から高齢期を通じて各ライフステージの栄養を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <p>①栄養素の種類、役割、消化、吸収、体内代謝について理解できる。</p> <p>②各ライフステージにおける栄養素とエネルギーの必要量、過不足、関連する疾患について理解できる。</p>							
看護領域の専門基礎科目・人体の理解における必須科目					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 教科書を熟読して理解に努め、質問を準備する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回90分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業で学習した内容について要点を整理する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回90分</p>			
授業計画							
<p>教科書、プリントを中心に授業をすすめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養の概念</li> <li>2. 炭水化物の栄養 (①)</li> <li>3. 糖質代謝と疾病 (②)</li> <li>4. 脂質の栄養 (①)</li> <li>5. 脂質代謝と疾病 (②)</li> <li>6. タンパク質の栄養 (①)</li> <li>7. アミノ酸代謝、酵素の役割 (②)</li> <li>8. エネルギー代謝 (生体利用エネルギー、身体活動エネルギー) (①、②)</li> <li>9. 水溶性ビタミンの栄養 (①、②)</li> <li>10. 脂溶性ビタミンの栄養 (①、②)</li> <li>11. 多量ミネラルの栄養 (①、②)</li> <li>12. 微量ミネラルの栄養 (①、②)</li> <li>13. 食事摂取基準の理解 (②)</li> <li>14. 国民健康・栄養調査の理解 (②)</li> <li>15. 栄養と遺伝、食文化 (②)</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
定期試験 (100%) により評価する。							
使用教科書				参考図書			
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 第12版 医学書院 2015年				いずれも閲覧・ダウンロード可 ●「日本人の食事摂取基準 (2015年版) 策定検討会」報告書 <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/0000041824.html</a> ●国民健康・栄養調査 <a href="http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyoub_chousa.html">http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyoub_chousa.html</a> ●日本食品標準成分表2015年版 (七訂) <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365297.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/syokuhinseibun/1365297.htm</a>			
備考							
連絡先メールアドレス kubochoan@gifu-u.ac.jp							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		疾病論Ⅰ（神経・病理組織）			○武内 康雄 山本 容正	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;            疾病論Ⅰの学習では、病気（疾病）の成り立ちを病理学と関連付けて理解し、疾患の病因・病態・肉眼的、顕微鏡的变化について学習する。これらの理解は、疾患を抱えた患者のケアにあたる看護師にとって大変重要である。また、生体に起こっている変化の原因を知り、対象の疾病や障害を維持、回復に向けるための基礎的知識として必要となる。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            ①変性と化生、炎症と免疫、循環障害の病態病理の概要を説明できる。            ②代謝障害、遺伝子異常、先天異常の概要を説明できる。            ③腫瘍の病理学的分類を説明でき、腫瘍発生のメカニズムや治療法を説明できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            講義当日のテーマを知り、教科書の該当部分を読むことを期待する。            &lt;必要時間&gt; 毎回20分</p>				<p>&lt;内容&gt;            授業終了当日または次回までに、講義内容を振り返り、知識の習得を確認することを期待する。            &lt;必要時間&gt; 毎回45分</p>			
授業計画							
1. 病理学で学ぶこと、病因論 2. 細胞・組織の障害と修復 (1) 3. 循環障害 (1)、細胞・組織の障害と修復 (2) 4. 循環障害 (2) 5. 炎症と免疫、移植と再生医療 (1) 6. 炎症と免疫、移植と再生医療 (2) 7. 感染症と感染症対策 (1) 8. 感染症と感染症対策 (2) 9. 代謝障害 10. 老化と死 11. 先天異常と遺伝子異常 (1) 12. 先天異常と遺伝子異常 (2) 13. 腫瘍 (1) 14. 腫瘍 (2) 15. 腫瘍 (3) 定期試験 筆記				①②③【武内】 ①【武内】 ①【武内】 ①【武内】 ①【山本】 ①【山本】 ①【山本】 ①【山本】 ②【武内】 ①②③【武内】 ②【武内】 ②【武内】 ③【武内】 ③【武内】 ③【武内】			
評価基準・評価方法							
期末筆記試験（100％）							
使用教科書				参考図書			
大橋健一、谷澤 徹、藤原正親、柴原純二著 「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔1〕病理学」(第5版) (医学書院)				小林正伸著「なるほどなっとく!病理学病態形成の基本的なしくみ」(南山堂)(2,200円+税)			
備 考							

科目区分		授業科目名			担当教員		職名
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		疾病論Ⅱ（呼吸と循環・代謝と栄養）			○近藤 直実 松井 永子 山本 容正		教授 臨床教授 非常勤講師
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;            疾病論Ⅱ（呼吸と循環、代謝と栄養）の科目では、人間の生命維持の中心となる呼吸、循環器の疾患の病態、診断、治療について学習する。また、身体の調節機構としての代謝疾患、栄養を司る消化器疾患などの病態、診断、治療についても学び、疾患を持つ対象を理解する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            各臓器、器官の生理的役割を理解し、正常と異常の違いを説明できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            教科書などを読んで予習を行う。わからない点をピックアップしておく。            &lt;必要時間&gt; 毎回30分</p>				<p>&lt;内容&gt;            授業で習ったことをしっかり復習する。その際、教科書やノートを整理する。            &lt;必要時間&gt; 毎回30分</p>			
授業計画							
1. 循環器の形態と機能（近藤） 2. 循環器疾患①（近藤） 3. 循環器疾患②（近藤） 4. 循環器疾患③（近藤） 5. 循環器疾患④（近藤） 6. 呼吸器の形態と機能（近藤） 7. 呼吸器疾患（近藤） 8. 呼吸器感染症①（山本） 9. 呼吸器感染症②（山本） 10. 呼吸器感染症③（山本） 11. 消化器疾患①（松井） 12. 消化器疾患②（松井） 13. 消化器疾患③（松井） 14. 消化器疾患④（松井） 15. 消化器疾患⑤（松井） 定期試験 筆記							
評価基準・評価方法							
定期試験（80%）、小テスト（20%）							
使用教科書				参考図書			
・北村聖総編集：臨床病態学 1巻（第2版） ・北村聖総編集：臨床病態学 2巻（第2版） ・北村聖総編集：臨床病態学 3巻（第2版） （ヌーヴェルヒロカワ）							
備考							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		疾病論Ⅲ（神経と運動・排泄と感覚）			西本 裕、坂 義人 塩谷 滝雄 ○熊田ますみ、加藤清人	非常勤講師、特任教授 臨床教授 教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;            疾病論Ⅲ（神経と運動、排泄と感覚）の科目では、人間の生命維持、身体各部の機能や活動のよりどころになる脳・神経系、運動器、眼科疾患の病態、検査、診断、治療について学習する。また、液体の恒常性の維持を司る腎・泌尿器系疾患について学習する。腎不全に対しての透析治療についても学び理解を深める。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            ①脳血管障害の主要な疾患について概略を理解する。            ②脳腫瘍、神経変性疾患等を理解する。            ③運動器系の主要な疾患を理解する。            ④腎・泌尿器系の主要な疾患を理解する。            ⑤感覚器の中の主要な眼科疾患を理解する。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            授業前にはテキストの該当する内容を読み、分からない語句については調べ学習をする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt;            授業の振り返りを行い、分からないことは次の授業で質問できるようにする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授 業 計 画							
1. 外傷、骨折 (西本) ③ 2. 関節疾患 (西本) ③ 3. 脊椎疾患、骨粗鬆症 (西本) ③ 4. 腎・泌尿器系の形態と機能 (坂) ④ 5. 腎・泌尿器疾患① (坂) ④ 6. 腎・泌尿器疾患② (坂) ④ 7. 腎・泌尿器疾患③ (坂) ④ 8. 腎・泌尿器疾患④ (坂) ④ 9. 腎・泌尿器疾患⑤ (坂) ④ 10. 感覚器（眼科疾患） (塩谷) ⑤ 11. 感覚器（眼科疾患） (塩谷) ⑤ 12. 脳・神経系疾患（基礎的知識・脳血管疾患） (熊田) ① 13. 脳・神経疾患（脳血管疾患・腫瘍等） (熊田) ①② 14. 脳・神経疾患（神経変性疾患） (加藤) ② 15. 脳・神経疾患（神経変性疾患） (加藤) ② 定期試験 筆記							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
筆記試験（95%）、小テスト（5%）							
使用教科書				参考図書			
・北村聖総編集：臨床病態学 1巻（第2版） ・北村聖総編集：臨床病態学 2巻（第2版） ・北村聖総編集：臨床病態学 3巻（第2版） （ヌーヴェルヒロカワ）							
備 考							
小テストの解説をし、フィードバックする。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		微生物学			林 将大	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 微生物学の基礎知識を学ぶとともに、感染症に関する主要な病原微生物について性質および特徴を学習する。さらに、感染・発症に関わる生体防御機能のメカニズム、化学療法、感染予防対策および関連法規等について理解を深める。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 医療従事者として必要な病原微生物および感染予防対策についての知識を身に付けることができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 基本的に教科書の単元にそって授業を進めるため、事前に教科書を読み、概要を理解しておくことを希望する。 &lt;必要時間&gt;各回15分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義毎に授業内容に関するプリントを配布するので、講義後に復習すること。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物と微生物学</li> <li>2. 細菌の性質</li> <li>3. ウイルスの性質</li> <li>4. 感染と感染症</li> <li>5. 感染に対する生体防御1</li> <li>6. 感染に対する生体防御2</li> <li>7. 感染源・感染経路からみた感染症</li> <li>8. 滅菌と消毒</li> <li>9. 感染症の検査と診断</li> <li>10. 感染症の治療</li> <li>11. 病原細菌と細菌感染症</li> <li>12. ウイルス感染症</li> <li>13. 病原真菌と新菌感染症</li> <li>14. 病原原虫と原虫感染症</li> <li>15. 総括講義</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
定期試験で評価する（100%）。							
使用教科書				参考図書			
系統看護学講座専門基礎分野疾病のなりたちと回復の促進〔4〕「微生物学」第13版 医学書院 2018年1月							
備考							
質問は授業中にすることを推奨する。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		公衆衛生学			永田 知里	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 公衆衛生学は個人を対象として疾病の治療を目指すより、集団を対象に疾病予防や健康増進に重点をおくものである。そのため疾病の原因を明らかにするための方法論から公衆衛生実践のための地方や国の行政の関わりなど幅広い範囲を含む。</p> <p>&lt;目標&gt; 基本的な概念と基礎知識を学んだ後、各論に進み、公衆衛生的見方や知識を身につけることができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・教科書での予習。</p> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回30分程度</p>				<p>&lt;内容&gt; ・教科書での課題に対する回答を用意すること。 ・新聞その他のメディアで報道される保健行政関連事項について注目し知識を得ること</p> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回30分程度</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生とは</li> <li>2. 各種健康指標について</li> <li>3. 各種健康指標について</li> <li>4. 疫学</li> <li>5. 国際保健</li> <li>6. 地域保健</li> <li>7. 母子保健</li> <li>8. 学校保健</li> <li>9. 成人保健</li> <li>10. 精神保健</li> <li>11. 難病保健</li> <li>12. 環境因子</li> <li>13. 産業保健</li> <li>14. 感染症①</li> <li>15. 感染症②</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評価基準・評価方法							
筆記試験（100%）							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生〔第13版〕（医学書院）</li> <li>・国民衛生の動向（厚生統計協会）</li> </ul>				その都度指示する。			
備考							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
基礎教育科目 疾病の成り立ちと回復の促進		薬理学			原 英彰	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 薬が効果を発揮するメカニズム（作用機序）や副作用が起きるメカニズムを理解する。各授業の最初には、前回の授業内容を復習する時間（質問形式）を設ける。各授業の最後には、その日の授業のまとめを行い、重要なポイントを確認する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①薬物の使用目的や薬物療法における看護師の役割について理解できる。 ②薬物の取扱い、薬理作用、副作用について理解できる。 ③各種疾患に使用する薬物について理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 授業の前には、予習をする。教科書を読んでおく。何処が解らない所かを、事前に把握しておく。授業中や授業後に積極的に質問する。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業後は、習ったことを復習する。問題集や章末の問題を解く、とくに、服薬指導・看護のポイントの項については、良く復習しておく。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>薬理学総論1</li> <li>薬理学総論2</li> <li>薬理学各論 抗感染症薬1</li> <li>薬理学各論 抗感染症薬2</li> <li>薬理学各論 抗がん薬1</li> <li>薬理学各論 抗がん薬2</li> <li>薬理学各論 免疫治療薬</li> <li>薬理学各論 抗アレルギー薬・抗炎症薬1</li> <li>薬理学各論 末梢神経に作用する薬物</li> <li>中間試験・薬理学各論 中枢神経に作用する薬物1</li> <li>薬理学各論 中枢神経に作用する薬物2</li> <li>薬理学各論 心臓・血管系に作用する薬物1</li> <li>薬理学各論 心臓・血管系に作用する薬物2</li> <li>薬理学各論 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物</li> <li>薬理学各論 物質代謝に作用する薬物、皮膚科用薬・眼科用薬、救急の際に使用される薬物</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評価基準・評価方法							
中間試験（50%）、期末試験の成績（50%）及び授業態度等を総合的に判断して評価する。							
使用教科書				参考図書			
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学（第14版） （医学書院） 2018年1月 ISBN978-4-260-03184-4							
備考							
質問は授業の終わりに常時受け付けている。また授業の最初に前回の復習を行っているため、その際に質問も受け付けている。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目		病態心理学			○深尾、徳丸、中島、 杉山、武藤、山本、鎌谷、 松下、野瀬、高井	非常勤講師	
疾病の成り立ちと回復の促進							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 前学期	1単位 (30時間)	オムニバス講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; プライマリ・ケアを含め、一般外来、入院など、どの場面でも遭遇するような精神疾患について、概念、症状、治療について学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①心身に心理的ストレスがどのような影響を及ぼすかについて理解する。 ②それぞれの問題への対処法の概略を理解する。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。 &lt;必要時間&gt;各回15分</p>				<p>&lt;内容&gt; 各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。 &lt;必要時間&gt;各回15分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>総論 ①②（深尾）</li> <li>心身症 ①②（杉山）</li> <li>神経症・ストレス関連障害 ①②（深尾）</li> <li>睡眠障害 ①②（徳丸）</li> <li>摂食障害 ①②（徳丸）</li> <li>気分障害 ①②（山本）</li> <li>統合失調症 ①②（武藤）</li> <li>脳の急性障害 ①②（杉山）</li> <li>脳の慢性障害 ①②（松下）</li> <li>アルコール・薬物関連障害 ①②（武藤）</li> <li>情緒と行動の障害 ①②（野瀬）</li> <li>発達障害、精神遅滞 ①②（中島）</li> <li>性格のかたより ①②（高井）</li> <li>精神保健福祉法 ①②（鎌谷）</li> <li>司法精神医学 ①②（中島）</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評価基準・評価方法							
授業毎のレポート（60％）と筆記試験（40％）にて、<目標>①②への理解度を評価する。							
使用教科書				参考図書			
精神医学ハンドブック 第7版—医学・保健・福祉の基礎知識 日本評論社（2010）							
備考							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		リハビリテーション概論			長谷部 武久	教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; リハビリテーション医療の対象となる「障害」に関する理解を深める。看護師におけるリハビリテーションチームの一員としての関わり、地域におけるリハビリテーションの役割やリハビリテーションを受ける対象を取り巻く環境についても学習する。この講義を通じてリハビリテーションの「知識」ではなく、その「考え方」が身に付くことを期待する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①リハビリテーション医療の対象である「障害」について述べるができる。 ②リハビリテーション医療の過程と看護師の位置付けについて述べるができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 資料を配布するので、講義前にその内容を確認すること。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回15分</p>				<p>&lt;内容&gt; 各講義で学ぶ内容は独立しているのではなく、最終講義まで一つの流れになっている。よって、各講義終了後はそれまでに学んできた内容も含めて確認すること。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回15分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害論全般（目標①）</li> <li>2. 国際障害分類と国際生活機能分類（機能障害について）（目標①）</li> <li>3. 国際障害分類と国際生活機能分類（能力低下について）（目標①）</li> <li>4. 国際障害分類と国際生活機能分類（社会的不利益について）（目標①）</li> <li>5. 機能障害の原因疾患（目標①）</li> <li>6. リハビリテーション医療の過程（急性期と回復期）（目標②）</li> <li>7. リハビリテーション医療の過程（生活期・維持期）、リハビリテーション・チームについて（目標②）</li> <li>8. リハビリテーションの評価から治療の流れ（症例呈示）（目標①②）</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
定期試験100%							
使用教科書				参考図書			
資料を配布する				適宜紹介する			
備考							
講義終了後、もしくはメールにて質問を受け付ける メール：t.hasebe@heisei-iryuu.ac.jp							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 疾病の成り立ちと回復の促進		カウンセリング論			川上 正子	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 前学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心と体の健康を考える。精神治療の歴史について理解を深める。</li> <li>・心理療法の種類や概要を学び、理解を深める。</li> <li>・カウンセリングの理論と技法を学ぶ。</li> </ul> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護活動に必要とされるカウンセリングの知識を学び、運用できる技法を身に付けることができる。</li> <li>・授業での演習活動を通して、カウンセリングの知識と技能を日常の活動に生かせるようにすることができる。</li> <li>・自己を適切に把握し、社会スキルの向上を図ることができる。</li> </ul>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;</p> <p>授業を振り返り、小テストの備えをする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。</li> <li>・専用のバインダー形式のノートを用意し、実践事項、感想、課題、授業のメモ等を書く。（提出用）</li> </ul> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心と身体 の健康・心の発達 (2時間)</li> <li>2. 精神治療の歴史 (1時間)</li> <li>3. 心理療法 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 精神分析法 (1時間)</li> <li>2) 行動療法 (2時間)</li> </ol> </li> <li>4. 心理療法 <ol style="list-style-type: none"> <li>3) 認知療法 (1時間)</li> <li>4) 実存主義的療法 (1時間)</li> </ol> </li> <li>5. 交流分析法 (2時間)</li> <li>6. 自律訓練法 (1時間)</li> <li>7. カウンセリング理論 (2時間)</li> <li>8. カウンセリング技法 (2時間)</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
<p>評価基準：看護活動において、患者や家族の精神面でのケアを担える知識、理解、思考、判断、実践力</p> <p>評価方法：期末テスト 70%      小テスト (3回×20点) 20%      演習 (20点) 10%</p>							
使用教科書				参考図書			
小冊子「看護学生の為のカウンセリング論」2018版 川上 正子編							
備 考							
<p>相談がある場合は、事前に連絡して場所と時間を設定。</p> <p>個人的相談に携帯での使用可      Email:shokok5009@gmail.com</p>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 社会の構造と環境		保健行政論			鷺見 高光	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 保健・医療に関する政策を理解し、保健医療福祉行政と社会保障制度の役割、意義及び展望について学習する。保健行政の仕組みを理解した上で、保健行政の考え方や施策の内容を学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 看護師として必要な保健医療福祉行政と社会保障制度を理解し患者さんを支援する能力を身につけることができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 講義での理解を深めるために、教科書に記載してある制度について事前に学習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 受講して説明があった制度について再度テキストを読み直し理解を深める。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>保健医療福祉行政のめざすもの（前半）</li> <li>保健医療福祉行政のめざすもの（後半）</li> <li>保健医療福祉制度の変遷・公衆衛生の基盤形成</li> <li>保健医療福祉制度の変遷・新たな福祉制度と政策の発展（前）</li> <li>保健医療福祉制度の変遷・新たな福祉制度と政策の発展（中）</li> <li>保健医療福祉制度の変遷・新たな福祉制度と政策の発展（後）</li> <li>保健医療福祉行政および財政のしくみ</li> <li>日本における社会保障、医療提供体制</li> <li>介護保険制度</li> <li>社会保障・年金保険</li> <li>雇用保険、労働者災害補償保険</li> <li>公的扶助</li> <li>児童家庭福祉、高齢者福祉</li> <li>障害者福祉、成年後見制度</li> <li>地域保健行政と保健師活動、保健医療福祉の計画と評価</li> </ol> <p>試験：定期試験またはレポート</p>							
評価基準・評価方法							
授業態度 20%、試験（定期試験又はレポート） 80%の結果から総合的に評価する。							
使用教科書				参考図書			
標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論 藤内修二著（医学書院）							
備考							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 社会の構造と環境		保健統計学			紀ノ定 保臣	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 前学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 医療や看護の現場では、EBM/EBN（科学的根拠に基づいた医療／看護の実践）が求められている。また、科学的根拠を示すためには、多くの診療症例を統計的に処理、分析、結果をまとめる能力が求められる。本講義では、EBNの実践に必要な統計学的手法の理解と活用について学び、理解を深める。また、診療現場での活用を目標に、EXCELを用いたデータの収集・グラフ化・分析と仮説検定手法を講義する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 看護に関する統計データの取り扱いとEBNの実践に活用するための統計手法を理解する。 ①医療・看護現場で発生する種々のデータを収集・処理実践できる能力を身につける。 ②医療・看護現場で発生するデータの分析結果を検定し、報告書にまとめる能力を身につける。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 下記計画に沿って授業を進めるため、事前にテキスト内容を予習しておくこと。また、テキストを参考にパソコンやEXCELの操作に習熟しておくこと。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業内容をよく復習すること。また、授業の復習と課題に回答できることを期待する。あわせて、パソコンやEXCELの操作の習熟に期待する。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>EBM/EBNとはなにか、なぜ統計学を学ぶ必要があるのか、等について、事例を挙げて解説する。</li> <li>統計学入門：統計学における基本的なものの考え方を理解する。</li> <li>統計データのまとめ方：データの種類、統計データのまとめ方、表やグラフなどによる図示を理解する。</li> <li>確率分布と推定：確率的な現象について、その現象を記述あるいは推定する手法について理解する。</li> <li>確率分布と推定：確率的な現象について、その現象を記述あるいは推定する手法の活用を理解する。</li> <li>統計学的検定：帰無仮説、二種類の過誤、仮説検定を理解し、代表的な検定手法の利用方法を学ぶ。</li> <li>統計学的検定：帰無仮説、二種類の過誤、仮説検定を理解し、代表的な検定手法の活用方法を学ぶ。</li> <li>回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法について理解する。</li> <li>回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法の活用方法を理解する。</li> <li>疫学と統計学：科学的な根拠に基づいて実施される医療や看護を支える疫学と統計学の役割を理解する。</li> <li>感度・特異度の理解を深め、医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。</li> <li>有意差検定の理解を深め、医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。</li> <li>因果関係や相関関係にあるデータを用いて、効果的にレポートが作成できる能力を獲得する。</li> <li>保健統計の実際：官公庁が公表する各種統計や健康指標がどのように使用されているかを理解する。</li> <li>医療・看護現場でのデータの収集、観察項目の整理、分析、評価、レポート作成の一連の行為を実践する。 定期試験</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
基本的には試験を実施し、評価する（100%）。							
使用教科書				参考図書			
高木晴良 著（医学書院） 系統看護学講座 基礎分野 「統計学」第7版 医学書院				特に指定しないが、EXCELの操作解説書に目を通しておくことが望ましい。			
備考							
講義時間に比して、授業内容はボリュームがある。したがって、事前の予習が極めて重要となる。また、実践的な授業であるため、データの収集・分析・報告書作成能力が求められる。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 社会の構造と環境		看護と法律			鷲見 高光	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 法令に関する一般的事項を学んだ後、看護関係法令の基本及び厚生行政のしくみを学び、保健師助産師看護師法をはじめとする看護師業務に関係の深い関係法令を系統だてて学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 看護師として必要な医療関係、福祉関係の法令について学び、理解を深める。患者さんを取り巻く法令を理解し支援する能力を身につけることができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 講義での理解を深めるために、法に記載してある専門用語及び疾患名等を事前に学習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 受講した法について、テキストを読み直し理解を深める。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法の概念</li> <li>2. 保健師助産師看護師法（前半）</li> <li>3. 保健師助産師看護師法（後半）・医師法・歯科医師法</li> <li>4. 医療法</li> <li>5. 医療関係資格法（前半）</li> <li>6. 医療関係資格法（後半）</li> <li>7. 保健医療福祉資格法</li> <li>8. 医療を支える法・人の死に関する法・緊急時の看護や医療に関する法</li> <li>9. 保健衛生法（前半）</li> <li>10. 保健衛生法（後半）</li> <li>11. 薬務法</li> <li>12. 環境衛生法</li> <li>13. 社会保険法</li> <li>14. 福祉法</li> <li>15. 労働法と社会基盤整備・環境法</li> </ol> <p>試験：定期試験又はレポート</p>							
評価基準・評価方法							
授業態度 20%、試験（定期試験又はレポート） 80%の結果から総合的に評価する。							
使用教科書				参考図書			
系統看護学講座 専門基礎分野健康支援と社会保障制度[4] 看護関係法令 第50版 森山幹夫著(医学書院)							
備考							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 社会の構造と環境		障害者と福祉			加藤 清人	教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 障害者と福祉の学習では、障害のある人が地域において人間的な自立生活が可能な福祉がどのようなものでなければならないかを学ぶ。具体的には、障害のある人の生活実態や法制度を学びながら福祉サービスの不足と障害のある人の潜在能力の不足の両側面の統一的視点に基づいて学習を進めていく。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①障害者を取り巻く地域環境について自己の考えも踏まえ説明することができる。 ②これから必要とされる地域支援について自己の考えを述べることができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 社会保障に関して、教科書や文献など読んでおくこと。</p> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回15分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義を通して、重点箇所について説明する。その内容を中心に学習を深めること。</p> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回15分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者福祉の歴史</li> <li>2. 障害者福祉で用いられる思想</li> <li>3. 障害者福祉の制度体系</li> <li>4. 障害者の自立生活と自立生活支援</li> <li>5. ノーマライゼーションの保障と課題</li> <li>6. リハビリテーションの現状と課題</li> <li>7. 福祉領域におけるリハビリテーションの実際</li> <li>8. 障害者福祉の課題と展望</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
受講態度（10%）、レポート課題（90%）を総合的に評価する。							
使用教科書				参考図書			
毎回、授業開始時に資料を配布する。				講義の際に適宜ビデオと資料を活用する。			
備考							
主体的に取り組むこと。質問は随時受け付ける。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 社会の構造と環境		医療と経済			木村 茲	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 個人、企業、病院、政府などさまざまな組織が、どのように活動・行動・選択を行い、それによって社会の資源がどのように使われるかを研究する。医療を経済学の考え方から見直すことにより、その本質を理解し、直面している問題点を学ぶ。また、これらの問題を解決するための方法として、医療管理の基礎を修得する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①医療資源の経済的な配分を阻害している要因を理解し、具体的に説明できる。 ②医療資源を経済的に配分するために必要な管理技術を習得し、主体的に利用できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 資料は毎回配布する。事前学習は特に必要ない。</p> <p>&lt;必要時間&gt;特に必要ない</p>				<p>&lt;内容&gt; ・配布された資料を熟読しポイントを箇条書きする。 ・講義で強調された問題の本質を簡潔に文章化する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>講義の構成と進め方：基礎知識として固有技術と管理技術、ロジカルシンキングとMECEを学ぶ</li> <li>医療の特性1：医療の原点を理解する—科学性から物語性まで</li> <li>医療の特性2：医療の質と医療サービスの考え方</li> <li>経済学の理論：経済学分野で研究が進んでいる情報の非対称性について理解する</li> <li>医療の質と外部評価：病院機能評価、ISO9000、MB賞、医療の質奨励賞 到達目標①</li> <li>病院組織：病院組織の特徴を理解しチーム医療の本質を学ぶ 到達目標①</li> <li>医療の質1：To Err is Humanに始まる医療安全の考え方</li> <li>医療の質2：医療安全とナースの労働環境の変革</li> <li>医療の質3：チーム医療に必要な管理ツール概論 到達目標②</li> <li>医療の質4：チーム医療に必要な管理ツール各論（演習含む） 到達目標②</li> <li>病院経営の経済1：経営の経済性を評価する 到達目標②</li> <li>病院経営の経済2：病院経営の具体的評価方法</li> <li>病院経営の経済3：基本的な経営係数の理解（演習含む）</li> <li>病院経営の事例1：経営計数公式による経営診断（演習含む）</li> <li>病院経営の事例2：経営計数公式による岐阜県下の病院の経営診断</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
<p>総合評価で行う。 授業内のレポート（20%）、学期末レポート（30%）、授業参加度（50%）</p>							
使用教科書				参考図書			
必要に応じて、講師が執筆した資料のコピーを配布。教科書は不要。				飯田修平、「病院早わかり読本」、医学書院、第5版（2015/4/9）			
備考							
<p>将来自分が医療で働く際に必要となる医療経済の基本的考え方と経営管理のスキルを習得して欲しい。 なお、学生もしくは学期により講義の主力点が異なる場合があり、講義内容の順序や時間配分は異なることがある。 質問などを受け付けるメールアドレスは最初の講義にて伝達する。</p>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門基礎科目 社会の構造と環境		社会福祉学			竹内 章郎	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○	○	○	○	1年次 後学期	1単位 (15時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;  現在、社会福祉を含む社会保障全体が、大きな転換点にある。それは、社会保障を支える福祉国家体制それ自体の「危機」という大きな問題からくるものであるが、同時に、社会保障の基盤である社会権（法）の基本的理解の問題や資本主義市場と社会保障との関係などにも及ぶ問題から生じていることもある。この講義ではそうした大きな問題を、社会福祉の現場実践と関係づけて捉えることを通じて、社会福祉・社会保障の本質を解明したい。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;  1. 社会福祉を含む社会保障の現実を、その基礎に立ち返って理解する。  2. 大きな制度的問題と社会福祉実践の現実とを結び付けて理解する。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<内容> 事前に配布する講義資料を熟読すること。 <必要時間>各回90分				<内容> 終了し講義ごとに、配布資料に基づいて必ず復習をすること。 <必要時間>各回90分			
授業計画							
1. ガイダンス(全体の進行について)、社会福祉と社会保障との関連について（善き生存としての福祉を中心に） 2. 日本の社会保障・社会福祉の基礎：憲法25条(13条との関連)：プログラム規定・義務規定 / 行政裁量の理解 3. 福祉国家体制の由来、措置制度と契約制度、福祉職と医療職、福祉の民営化・市場化問題 4. 権利としての社会保障（1）：市民権と社会権との相違、私的所有と市民権 5. 権利としての社会保障（2）：社会権の基礎、憲法14条との関連、申請主義の問題 6. 福祉六法体制とそれ以降、戦後日本の社会保障制度の流れ 7. 貧困問題と生活保護、社会手当制度、労災保険制度、雇用保険制度、年金保障制度 8. 障害者福祉制度、子ども手当制度、高齢者福祉制度（公的介護保険制度）							
評価基準・評価方法							
最終のレポートによって評価する。講義内容の正確な理解に加えて、内容を表現する文章力も評価の対象とする。							
使用教科書				参考図書			
教科書は使用せず、竹内が作成したレジュメ及び資料にそって講義を行う。				必要に応じて、講義中に紹介する。			
備 考							
資料及びレジュメは、すべて、最初の講義時に配布する。							



# 看護学科

専門科目



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための 看護の原理と基礎		看護学概論			長田 登美子	教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 看護及び看護学とは何かを探求し、基礎的理論や看護倫理、実践の基盤となる概念を学び理解を深める。さらに将来看護職として成長していくための基盤を学び理解を深める。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①看護の目的と機能役割を説明できる。 ②看護学の重要概念（健康、環境、人間、看護）について理解する。 ③看護の法と倫理に関する基礎知識を理解する。倫理観を培っていく機会とする。 ④看護の歴史の変遷と看護職の教育（養成）制度についても理解する。 ⑤ナイチンゲール、ヘンダーソン、他の理論家より看護の基礎的理論を理解する。 ⑥看護とはなにかについて自己の考えを表現できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 講義終了時に次回の学習内容を示すので、テキストや指示された課題を学習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 本時の学習内容にそったまとめや振り返りを行う。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは何か 看護の提供 ①②⑥</li> <li>2. 看護の定義 看護の構成要素 ①⑥</li> <li>3. 看護と健康 健康のとらえ方 ②⑥</li> <li>4. 看護の対象の理解 人間のライフサイクルおよびライフステージについて 総合体としての人間 ②⑥</li> <li>5. 現代のライフコース セルフケア 自己決定 ①②⑥</li> <li>6. 医療および看護に関わる倫理 ③</li> <li>7. 事例から学ぶ倫理 1 ③</li> <li>8. 人の尊厳 患者および医療者の人権と権利 ③⑥</li> <li>9. 患者主体の医療の流れ 倫理のまとめ ③⑥</li> <li>10. 看護の変遷 1 ④⑥</li> <li>11. 看護の変遷 2（職業としての看護） ④⑥</li> <li>12. 看護実践のための理論 1 ⑤⑥</li> <li>13. 看護をめぐる制度と政策 1 ①③④</li> <li>14. 看護をめぐる制度と政策 2 ①③④</li> <li>15. 看護職の教育（養成）制度 ④⑥</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
筆記試験（70%）、レポート（30%）、グループワークは取り組み姿勢と参加状況を考慮して評価する。							
使用教科書				参考図書			
・茂野香おる他 系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論、医学書院				・小林富美栄他：現代看護の探求者たち、増補第2版、日本看護協会出版会 ・フローレンス・ナイチンゲール著、湯槇ます他訳：看護覚え書、第7版、現代社 ・バージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます他訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会			
備 考							
毎回講義後に振り返りを記入してもらい、質問意見等を元に次の講義時コメントし、フィードバックを行います。看護とは何かを自分で考え、今後の土台となる看護観、人間観、健康観、倫理観、職業観など培っていきましょう。研究室 E-mail t.nagata@heisei-iryu.ac.jp							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名																																																																												
専門科目 健康生活を支えるための 看護の原理と基礎		基礎看護技術Ⅰ（共通、清潔）			○長田登美子、二村美津子 長屋江見、馬淵佳代子 長橋 友恵	教授 助教 助教 非常勤講師																																																																												
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																																																																											
		理学	作業	視機能																																																																														
必修	○				1年次 前学期	2単位 (90時間)	講義・演習（オムニバス）																																																																											
選択																																																																																		
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標																																																																																		
<p>&lt;概要&gt; 最初に看護技術の基盤となる考え方を学ぶ。その後、看護技術の共通要素の知識と技術を学ぶ。また、対象の日常生活を整えるため、療養環境の整備、ベッドメイキング、そして皮膚・頭髪・口腔・衣服など清潔への援助に必要な知識と技術を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①看護技術の基盤となる考え方を理解する。 ②共通要素としてボディメカニクス、姿勢・体位、体位変換、感染予防の知識と技術を習得する。 ③対象の日常生活を整えるための療養環境の整備、ベッドメイキング、そして皮膚・頭髪・口腔・衣服など清潔への援助に必要な知識と技術を習得する。</p>																																																																																		
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																																																																													
事前学習				事後学習																																																																														
<p>&lt;内容&gt; ・ボディメカニクス、姿勢・体位、体位変換、手指衛生、療養環境、清潔に関連する基礎知識を学習する。 ・講義前にテキストを読み、わからない言葉は各自で学習する。また、演習前には演習内容をテキストや資料で学習して臨む。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・演習内容を振り返りまとめる。 ・技術の習得のために自主的に練習を行う。 ・演習で行った技術は、必ず自己練習を行う。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>																																																																														
授 業 計 画																																																																																		
<table border="0"> <tr> <td>1. 看護技術の基盤となる考え方 ①</td> <td>(長田)</td> <td>16. 臥床患者のリネン交換 (DVD)</td> <td>③演習</td> <td>(長田・馬淵)※</td> </tr> <tr> <td>2. 感染予防 基本的な清潔行動 ②</td> <td>(加納)</td> <td>17. 寝衣・リネン交換</td> <td>③演習</td> <td>(長田・馬淵)※</td> </tr> <tr> <td>3. 手指衛生・エプロン・手袋着脱 ②演習</td> <td>(長橋)※</td> <td>18. 清潔の意義・全身の清潔</td> <td>③</td> <td>(馬淵)</td> </tr> <tr> <td>4. ベッド周辺の環境他 ③ 演習</td> <td>(長田)※</td> <td>19. 全身清拭</td> <td>演習 ③</td> <td>(馬淵)※</td> </tr> <tr> <td>5. 安楽な体位、姿勢と体位 ②</td> <td>(長田)</td> <td>20. 全身清拭</td> <td>演習 ③</td> <td>(馬淵)※</td> </tr> <tr> <td>6. 安楽な体位、姿勢と体位 ②演習</td> <td>(長田)※</td> <td>21. 全身清拭</td> <td>演習 ③</td> <td>(馬淵)※</td> </tr> <tr> <td>7. 体位変換 ②</td> <td>(長橋)</td> <td>22. 全身清拭</td> <td>演習 ③</td> <td>(馬淵)※</td> </tr> <tr> <td>8. 体位変換 ②演習</td> <td>(長橋)※</td> <td>23. 頭髪の清潔</td> <td>③</td> <td>(二村)</td> </tr> <tr> <td>9. 療養環境と環境整備 ③</td> <td>(長田)</td> <td>24. 洗髪</td> <td>演習 ③</td> <td>(二村)※</td> </tr> <tr> <td>10. 環境調整の意義、環境因子 ③</td> <td>(長田)</td> <td>25. 洗髪</td> <td>演習 ③</td> <td>(二村)※</td> </tr> <tr> <td>11. ボディメカニクス、ベッドメイキング他②③</td> <td>(長田)</td> <td>26. 手足の清潔</td> <td>③</td> <td>(二村)</td> </tr> <tr> <td>12. ベッドメイキング ③演習</td> <td>(長田)※</td> <td>27. 手浴・足浴の実際</td> <td>演習 ③</td> <td>(二村)※</td> </tr> <tr> <td>13. ベッドメイキング ③演習</td> <td>(長田)※</td> <td>28. 口腔の清潔</td> <td>③</td> <td>(二村)</td> </tr> <tr> <td>14. 寝衣（衣生活）</td> <td>(長田・馬淵)</td> <td>29. ベッドメイキング（技術チェック）</td> <td>②③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. 寝衣交換演習</td> <td>(長田・馬淵)※</td> <td>30. ベッドメイキング（技術チェック）</td> <td>②③</td> <td></td> </tr> </table> <p>定期試験 筆記 ※基礎領域担当の教員（長田、二村、長屋、馬淵、長橋）はすべての演習に参加し指導する。</p>								1. 看護技術の基盤となる考え方 ①	(長田)	16. 臥床患者のリネン交換 (DVD)	③演習	(長田・馬淵)※	2. 感染予防 基本的な清潔行動 ②	(加納)	17. 寝衣・リネン交換	③演習	(長田・馬淵)※	3. 手指衛生・エプロン・手袋着脱 ②演習	(長橋)※	18. 清潔の意義・全身の清潔	③	(馬淵)	4. ベッド周辺の環境他 ③ 演習	(長田)※	19. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※	5. 安楽な体位、姿勢と体位 ②	(長田)	20. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※	6. 安楽な体位、姿勢と体位 ②演習	(長田)※	21. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※	7. 体位変換 ②	(長橋)	22. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※	8. 体位変換 ②演習	(長橋)※	23. 頭髪の清潔	③	(二村)	9. 療養環境と環境整備 ③	(長田)	24. 洗髪	演習 ③	(二村)※	10. 環境調整の意義、環境因子 ③	(長田)	25. 洗髪	演習 ③	(二村)※	11. ボディメカニクス、ベッドメイキング他②③	(長田)	26. 手足の清潔	③	(二村)	12. ベッドメイキング ③演習	(長田)※	27. 手浴・足浴の実際	演習 ③	(二村)※	13. ベッドメイキング ③演習	(長田)※	28. 口腔の清潔	③	(二村)	14. 寝衣（衣生活）	(長田・馬淵)	29. ベッドメイキング（技術チェック）	②③		15. 寝衣交換演習	(長田・馬淵)※	30. ベッドメイキング（技術チェック）	②③	
1. 看護技術の基盤となる考え方 ①	(長田)	16. 臥床患者のリネン交換 (DVD)	③演習	(長田・馬淵)※																																																																														
2. 感染予防 基本的な清潔行動 ②	(加納)	17. 寝衣・リネン交換	③演習	(長田・馬淵)※																																																																														
3. 手指衛生・エプロン・手袋着脱 ②演習	(長橋)※	18. 清潔の意義・全身の清潔	③	(馬淵)																																																																														
4. ベッド周辺の環境他 ③ 演習	(長田)※	19. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※																																																																														
5. 安楽な体位、姿勢と体位 ②	(長田)	20. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※																																																																														
6. 安楽な体位、姿勢と体位 ②演習	(長田)※	21. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※																																																																														
7. 体位変換 ②	(長橋)	22. 全身清拭	演習 ③	(馬淵)※																																																																														
8. 体位変換 ②演習	(長橋)※	23. 頭髪の清潔	③	(二村)																																																																														
9. 療養環境と環境整備 ③	(長田)	24. 洗髪	演習 ③	(二村)※																																																																														
10. 環境調整の意義、環境因子 ③	(長田)	25. 洗髪	演習 ③	(二村)※																																																																														
11. ボディメカニクス、ベッドメイキング他②③	(長田)	26. 手足の清潔	③	(二村)																																																																														
12. ベッドメイキング ③演習	(長田)※	27. 手浴・足浴の実際	演習 ③	(二村)※																																																																														
13. ベッドメイキング ③演習	(長田)※	28. 口腔の清潔	③	(二村)																																																																														
14. 寝衣（衣生活）	(長田・馬淵)	29. ベッドメイキング（技術チェック）	②③																																																																															
15. 寝衣交換演習	(長田・馬淵)※	30. ベッドメイキング（技術チェック）	②③																																																																															
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法																																																																																		
筆記試験（60%）、レポート（20%）、演習の取り組み状況（20%）を総合して評価する																																																																																		
使用教科書				参考図書																																																																														
・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（第16版）医学書院 2015年 ・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（第17版）医学書院 2017年				・村中陽子他：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版株式会社 ・春香知永、齋藤やよい編集：基礎看護技術、南江堂																																																																														
備 考																																																																																		
・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・演習前の課題等やっていない、確認ができない場合は演習に参加できない。見学とする。 ・身だしなみが整っていない場合は（髪型・爪・服装等）、一回目はレポート提出、二回目は演習への参加を認めない。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。																																																																																		

科目区分		授業科目名			担当教員	職名																																																													
専門科目 健康生活を支えるための看護の原理と基礎		基礎看護技術Ⅱ（共通、食事、排泄）			○長田登美子、二村美津子 長屋江見、馬淵佳代子 長橋 友恵	教授 助教 助教 非常勤講師																																																													
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																																																												
		理学	作業	視機能																																																															
必修	○				1年次 後学期	2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)																																																												
選択																																																																			
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標																																																																			
<p>&lt;概要&gt; 基礎看護技術Ⅱでは、看護技術の共通要素である安全を守るための技術（看護事故防止対策・感染予防の技術）と看護の対象の健康段階や健康障害に応じた看護過程の展開方法（看護過程の意義、各プロセス）を学ぶ。また、対象の日常生活を整えるための援助技術である、「食事」、「排泄」、「睡眠」、「運動・活動」の各行動に応じた看護技術の意義、目的、方法など必要な知識と技術を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①共通要素である安全を守るための技術（看護事故防止対策・感染予防の技術）と、看護の対象の健康段階や健康障害に応じた看護過程の展開方法（看護過程の意義、各プロセス）を学ぶ。 ②「食事」、「排泄」、「睡眠」、「運動・活動」の各行動に応じた看護技術の意義、目的、方法など必要な知識と技術を習得する。</p>																																																																			
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																																																														
事前学習				事後学習																																																															
<p>&lt;内容&gt; ・「食事」、「排泄」、「睡眠」、「運動・活動」に関する、解剖・生理の学習を行う。 ・運動・活動では、ボディメカニクス、姿勢と体位の復習を行う。 ・演習前には、テキスト等で必要物品や手順の予習を行う。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・無菌操作の復習。「食事」、「排泄」、「睡眠」、「運動・活動」に起こりやすい症状の観察、援助方法の復習。看護過程の各要素について学ぶ。 ・演習で行った技術は、必ず自己練習を行う。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>																																																															
授 業 計 画																																																																			
<table border="0"> <tr> <td>1. 食生活の意義 ②</td> <td>(二村)</td> <td>16. 滅菌物の取り扱い (演習) ②</td> <td>(長屋)※</td> </tr> <tr> <td>2. 食事介助の実際 (演習1) ②</td> <td>(二村)※</td> <td>17. ガウンテクニック (演習) ②</td> <td>(長屋)※</td> </tr> <tr> <td>3. 食事介助の実際 (演習2) ②</td> <td>(二村)※</td> <td>18. 看護過程とは ①</td> <td>(長田)</td> </tr> <tr> <td>4. 歯磨き、口腔ケアの実際 (演習) ②</td> <td>(二村)※</td> <td>19. ヘンダーソン理論 ①</td> <td>(長田)</td> </tr> <tr> <td>5. 排泄の援助に必要な基礎知識 ②</td> <td>(二村)</td> <td>20. 看護過程の構成要素 ①</td> <td>(長田)</td> </tr> <tr> <td>6. 床上排泄への援助 (演習) ②</td> <td>(二村)※</td> <td>21. 情報の収集方法 ①</td> <td>(長田)</td> </tr> <tr> <td>7. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ②</td> <td>(二村)</td> <td>22. アセスメントのしかた ①</td> <td>(長田)</td> </tr> <tr> <td>8. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ② (演習)</td> <td>(二村)※</td> <td>23. アセスメントの実際 (演習含) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> <tr> <td>9. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ② (演習)</td> <td>(二村)※</td> <td>24. 看護問題の抽出 (演習) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> <tr> <td>10. 運動・活動の意義 ②</td> <td>(馬淵)</td> <td>25. 看護過程 関連図 (演習) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> <tr> <td>11. 運動・活動の援助方法 ②</td> <td>(馬淵)</td> <td>26. 看護過程 計画・実施・評価 (演習含) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> <tr> <td>12. 運動・活動の実際 (演習1) ②</td> <td>(馬淵)※</td> <td>27. 看護過程 事例展開 (演習) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> <tr> <td>13. 運動・活動の実際 (演習2) ②</td> <td>(馬淵)※</td> <td>28. 看護過程 事例展開 (演習) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> <tr> <td>14. 睡眠・休息の援助 電法 ②</td> <td>(馬淵)</td> <td>29. 看護過程 事例展開 (演習) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> <tr> <td>15. 感染予防対策の実際 ②</td> <td>(長屋)</td> <td>30. 看護過程 発表 (演習) ①</td> <td>(長田)※</td> </tr> </table> <p>定期試験 筆記 ※基礎領域担当の教員（長田、二村、長屋、馬淵、長橋）はすべての演習に参加し指導する。</p>								1. 食生活の意義 ②	(二村)	16. 滅菌物の取り扱い (演習) ②	(長屋)※	2. 食事介助の実際 (演習1) ②	(二村)※	17. ガウンテクニック (演習) ②	(長屋)※	3. 食事介助の実際 (演習2) ②	(二村)※	18. 看護過程とは ①	(長田)	4. 歯磨き、口腔ケアの実際 (演習) ②	(二村)※	19. ヘンダーソン理論 ①	(長田)	5. 排泄の援助に必要な基礎知識 ②	(二村)	20. 看護過程の構成要素 ①	(長田)	6. 床上排泄への援助 (演習) ②	(二村)※	21. 情報の収集方法 ①	(長田)	7. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ②	(二村)	22. アセスメントのしかた ①	(長田)	8. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ② (演習)	(二村)※	23. アセスメントの実際 (演習含) ①	(長田)※	9. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ② (演習)	(二村)※	24. 看護問題の抽出 (演習) ①	(長田)※	10. 運動・活動の意義 ②	(馬淵)	25. 看護過程 関連図 (演習) ①	(長田)※	11. 運動・活動の援助方法 ②	(馬淵)	26. 看護過程 計画・実施・評価 (演習含) ①	(長田)※	12. 運動・活動の実際 (演習1) ②	(馬淵)※	27. 看護過程 事例展開 (演習) ①	(長田)※	13. 運動・活動の実際 (演習2) ②	(馬淵)※	28. 看護過程 事例展開 (演習) ①	(長田)※	14. 睡眠・休息の援助 電法 ②	(馬淵)	29. 看護過程 事例展開 (演習) ①	(長田)※	15. 感染予防対策の実際 ②	(長屋)	30. 看護過程 発表 (演習) ①	(長田)※
1. 食生活の意義 ②	(二村)	16. 滅菌物の取り扱い (演習) ②	(長屋)※																																																																
2. 食事介助の実際 (演習1) ②	(二村)※	17. ガウンテクニック (演習) ②	(長屋)※																																																																
3. 食事介助の実際 (演習2) ②	(二村)※	18. 看護過程とは ①	(長田)																																																																
4. 歯磨き、口腔ケアの実際 (演習) ②	(二村)※	19. ヘンダーソン理論 ①	(長田)																																																																
5. 排泄の援助に必要な基礎知識 ②	(二村)	20. 看護過程の構成要素 ①	(長田)																																																																
6. 床上排泄への援助 (演習) ②	(二村)※	21. 情報の収集方法 ①	(長田)																																																																
7. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ②	(二村)	22. アセスメントのしかた ①	(長田)																																																																
8. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ② (演習)	(二村)※	23. アセスメントの実際 (演習含) ①	(長田)※																																																																
9. おむつ交換・陰部洗浄が必要な人の援助 ② (演習)	(二村)※	24. 看護問題の抽出 (演習) ①	(長田)※																																																																
10. 運動・活動の意義 ②	(馬淵)	25. 看護過程 関連図 (演習) ①	(長田)※																																																																
11. 運動・活動の援助方法 ②	(馬淵)	26. 看護過程 計画・実施・評価 (演習含) ①	(長田)※																																																																
12. 運動・活動の実際 (演習1) ②	(馬淵)※	27. 看護過程 事例展開 (演習) ①	(長田)※																																																																
13. 運動・活動の実際 (演習2) ②	(馬淵)※	28. 看護過程 事例展開 (演習) ①	(長田)※																																																																
14. 睡眠・休息の援助 電法 ②	(馬淵)	29. 看護過程 事例展開 (演習) ①	(長田)※																																																																
15. 感染予防対策の実際 ②	(長屋)	30. 看護過程 発表 (演習) ①	(長田)※																																																																
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法																																																																			
筆記試験 (55%)、看護過程演習 (20%)、レポート (10%)、講義・演習への取り組み (10%) その他授業態度 (5%) を総合して評価する。																																																																			
使用教科書				参考図書																																																															
・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術I (第16版) 医学書院 2015年 ・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際 [第4版]、スーヴェルヒロカワ				・ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ます、小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 ・香春知永、斎藤やよい編集：基礎看護技術、南江堂 ・村中陽子他：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版株式会社																																																															
備 考																																																																			
・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・演習前の課題等やっていない、確認ができない場合は演習に参加できない。見学とする。 ・身だしなみが整っていない場合は（髪型・爪・服装等）、一回目はレポート提出、二回目は演習への参加を認めない。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。																																																																			

科目区分		授業科目名			担当教員		職名
専門科目 健康生活を支えるための看護の原理と基礎		基礎看護技術Ⅲ（診察、処置）			○長田登美子、二村美津子 長屋江見、馬淵佳代子 長橋 友恵		教授 助教 助教 非常勤講師
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 前学期	2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 看護の対象の健康を回復するために、看護者が実践できる援助技術の基本を学ぶ。検査では、検体について、また診療時に実施することの多い採血の技術について学ぶ。さらに、治療時の看護援助と、薬物療法の根拠となる知識、援助方法を学び、対象に応じた安全な援助を身につける。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①看護者が実践できる援助技術の基本を理解する。 ②検査では、検体について理解し診療時に実施することの多い採血の技術を習得する。 ③治療時の看護援助である酸素療法、吸引、包帯法、経管栄養、浣腸、導尿について習得し、各項目の留意点を具体的に説明できる。 ④薬物療法の根拠となる知識、援助方法を学び、対象に応じた援助を身につける。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・学習内容に関連する解剖生理 ・導尿では無菌操作、滅菌手袋の装着など、また、薬物療法では、薬理学、注射器の取り扱い等すでに習得したことを学習しておく。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・毎回の学習内容をテキスト、資料などで振り返りまとめておく。 ・演習で行った技術は、必ず自己練習を行う。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
1. 検査と看護 検査方法・目的	(長田)	16. 導尿	演習	(長屋)※			
2. 検体の採取と取り扱い	(長田)	17. 包帯法		(長屋)			
3. 基本検査 検査の介助、前中後の観察 他	(二村)	18. 包帯法の実際	演習	(長屋)※			
4. 測定（体重、肺活量、腹囲測定他）	演習 (二村)※	19. 薬物療法における基礎知識		(長屋)			
5. 吸引（口、鼻）と観察方法	(二村)	20. 注射器の取り扱い、針刺し事故防止		(長屋)			
6. 酸素療法について	(二村)	21. 静脈採血の実施方法（血液検体の取り扱い）		(長屋)			
7. 吸引の実際と観察方法	演習 (二村)※	22. 採血の実際（モデル人形使用）	演習	(長屋)※			
8. 酸素療法の実際	演習 (二村)※	23. 注射適用の援助（筋肉注射・皮下注射・皮内注射）		(長屋)			
9. 非経口栄養法	(二村)	24. 注射適用の援助（筋肉注射・皮下注射・皮内注射）		(長屋)			
10. 経管栄養の実際	演習 (二村)※	25. 筋肉内注射・皮下注射・皮内注射	演習	(長屋)※			
11. 死後の処置	(二村)	26. 筋肉内注射・皮下注射・皮内注射	演習	(長屋)※			
12. 看護における安全（実習中におけるインシデント）	(長屋)	27. 静脈（内）注射・点滴静脈（内）注射		(長屋)			
13. 浣腸、摘便	(長屋)	28. 輸血、静脈栄養とその看護		(長屋)			
14. 浣腸、摘便	演習 (長屋)※	29. 点滴静脈（内）注射	演習	(長屋)※			
15. 導尿	(長屋)	30. 点滴静脈（内）注射	演習	(長屋)※			
定期試験 筆記 ※基礎領域担当の教員（長田、二村、長屋、馬淵、長橋）はすべての演習に参加し指導する。							
評価基準・評価方法							
筆記試験（70%）、レポート（15%）、講義・演習への取り組み（10%）その他出席状況（5%）などを総合して評価する。							
使用教科書				参考図書			
・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（第16版）医学書院 2015年 ・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・神田清子、大西和子編集：検查看護技術初版 ヌーベルヒロカワ				・香春知永・齋藤やよい編：基礎看護技術、南江堂 ・村中陽子他編：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版株式会社			
備考							
・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・演習前の課題等やっていない、確認ができない場合は演習に参加できない。見学とする。 ・身だしなみが整っていない場合は（髪型・爪・服装等）、一回目はレポート提出、二回目は演習への参加を認めない。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための 看護の原理と基礎		基礎看護技術Ⅳ (基礎看護学実習Ⅱ事前演習)			長田、二村、長屋、馬淵 他	-	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 前学期	1単位 (30時間)	演習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 基礎看護学実習Ⅱに先立ち、看護の対象の日常生活援助の方法を実際の場面を想定して援助計画を立案する。立案した援助計画に基づいて演習し、場面に応じた援助技術の実施方法を習得する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①実習グループメンバーが協力し行うことで、メンバーの一員として役割を理解し行動がとれる。 ②実習場面で援助頻度の多い、全身清拭・洗髪・寝衣交換・陰部洗浄・足浴・車いす移乗・おむつ交換の知識・技術の再確認と練習を行う。 ③実習時に活用できるレベルにスキルアップする。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱで学んだ援助技術の復習 ・日常生活援助技術の基本となる手順・留意点の確認 ・ペーパーシミュレーションで応用を考える</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・基礎看護学実習Ⅱに向けて、看護過程、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱで学んだことを実習目標と照らし合わせて振り返る。 ・演習で行った技術は、必ず自己練習を行う。</p> <p>&lt;必要時間&gt; (60分)</p>			
授業計画							
<p>演習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は実習メンバーでグループ（4～6名）を編成する。①</li> <li>2. 日常生活援助の演習項目は全身清拭・洗髪・寝衣交換・陰部洗浄・足浴・車いす移乗・おむつ交換とする。②</li> <li>3. グループで提示された事例を基に上記の援助項目について援助計画を立案する。①②③</li> <li>4. 立案した援助計画に基づいて、各項目を演習する。②③</li> </ol> <p>技術確認試験について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生一人一項目で教員が技術試験を行う。学生は技術の習得状況の振り返りをし、安全・安楽な技術の再確認を行う。②③</li> </ul>							
評価基準・評価方法							
技術試験 60%		演習やグループへの参加状況・態度 40%					
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・任和子、茂野香おる 著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（第16版）医学書院 2015年</li> <li>・任和子、茂野香おる 著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・香春知永・齋藤やよい編：基礎看護技術、南江堂</li> <li>・村中陽子他編：看護ケアの根拠と技術、医歯薬出版株式会社</li> </ul>			
備考							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。</li> <li>・演習前の課題等やっていない、確認ができない場合は演習に参加できない。見学とする。</li> <li>・身だしなみが整っていない場合は（髪型・爪・服装等）、一回目はレポート提出、二回目は演習への参加を認めない。</li> <li>・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。</li> </ul>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名
専門科目 健康生活を支えるための 看護の原理と基礎		フィジカルアセスメント			○吉崎純夫 河合克尚、岩崎淳子	講師 教授(理学) 非常勤講師
区分	看護学科	リハビリテーション学科			単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能		
必修	○				2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)
選択				2年次 前学期		
授業概要・学修の到達目標						
<p>&lt;概要&gt; 看護の対象である患者の身体の観察から変化をとらえて援助するために、ヘルスアセスメントの概念やフィジカルアセスメントの技術を理解し、客観的データの収集方法を学ぶ。生命におけるバイタルサインの意味や身体の異常について観察の方法を習得する。これらを通して、正しい身体計測や症状の観察についてアセスメントすることが看護の根拠であることを学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①看護師が行うフィジカルアセスメントの意義と必要性を理解でき、正しい知識と確かな技術を習得できる。 ②フィジカルアセスメントから得られたデータを関連づけて、健康状態の判断能力を主体的に活用できる。</p>						
卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。	
事前学習			事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 教科書を読んで予習を行い、分からない単語は調べる。ワークブックを使用して、事前課題を解く。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回40分</p>			<p>&lt;内容&gt; 演習で行った技術については、空き時間を利用して練習を行う。講義内容に関しては、ワークブックに追加・修正を加えて復習を行う。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回20分</p>			
授業計画						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィジカルアセスメントとは・フィジカルアセスメントに必要な基本技術 講義/演習 (岩崎)</li> <li>2. フィジカルアセスメントに必要な基本技術の実際(バイタルサイン) / 講義・演習 (岩崎)</li> <li>3. フィジカルアセスメントに必要な基本技術の実際(バイタルサイン) / 講義・演習 (岩崎)</li> <li>4. 呼吸のフィジカルアセスメント(解剖・生理) / 講義、アセスメントの実際/演習 (岩崎)</li> <li>5. 呼吸のフィジカルアセスメントの実際/演習 (岩崎)</li> <li>6. 循環のアセスメント(解剖・生理) / 講義、アセスメントの実際/演習 (岩崎)</li> <li>7. 循環のアセスメントの実際/演習 (岩崎)</li> <li>8. 胸部・腹部のアセスメント(解剖・生理) / 講義、アセスメントの実際/演習 (岩崎)</li> <li>9. 胸部・腹部のアセスメントの実際/演習 (岩崎)</li> <li>10. 感覚のアセスメント(解剖・生理) / 講義、アセスメントの実際/演習 (吉崎)</li> <li>11. 感覚のアセスメントの実際/演習 (吉崎)</li> <li>12. 中枢神経系のアセスメント(解剖・生理) / 講義、アセスメントの実際/演習 (吉崎)</li> <li>13. 中枢神経系のアセスメントの実際/演習 (吉崎)</li> <li>14. 運動系のアセスメント(解剖・生理) / 講義、アセスメントの実際/演習 (河合)</li> <li>15. 運動系のアセスメントの実際/演習 (河合)</li> <li>16. 症状・徴候アセスメント グループワーク (吉崎)</li> <li>17. 症状・徴候アセスメント グループワーク (吉崎)</li> <li>18. 事例に沿った総合アセスメント 演習 (吉崎)</li> <li>19. 事例に沿った総合アセスメント 演習 (吉崎)</li> <li>20. 技術確認 (岩崎、吉崎)</li> <li>21. 技術確認 (岩崎、吉崎)</li> <li>22. 技術確認 (岩崎、吉崎)</li> </ol>						
評価基準・評価方法						
授業態度・事前課題(10%)・技術テスト(10%)・筆記試験(80%)によって総合的に評価する。						
使用教科書			参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・山内豊明:フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版 医学書院 2011年</li> <li>・山内豊明:フィジカルアセスメントワークブック 身体の仕組みと働きをアセスメントにつなげる 第1版 医学書院 2014年</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野原重明:フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術 第4版 医学書院 2006年</li> <li>・藤崎 都:フィジカルアセスメント完全ガイド 第2版 Gakken 2012年</li> </ul>			
備考						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習への参加は指定のジャージが必要である。</li> <li>・身だしなみが整っていない場合は(髪型・色・爪・服装等)演習への参加は認めない。</li> <li>・質問等については、次の講義時に説明し、フィードバックします。</li> </ul>						

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための 看護の原理と基礎		基礎看護学実習Ⅰ（基礎）			○長田、二村、長屋 眞田、馬淵、岩瀬 長橋	-	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 前学期	1単位 (45時間)	実習
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 実際の医療現場である病院および介護老人保健施設や特別養護老人ホームなど高齢者の健康生活を支えている施設の2カ所で実習する。これにより、看護の役割や機能、および病院や施設の機能を理解し、また、看護の対象が生活している環境について学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①グループメンバーの一員としての自覚と責任を理解する。 ②看護の対象となる人たちの1日の生活について理解し、療養環境の実際を説明できる。 ③看護師の行う援助場面の学習を通して、看護師が患者や高齢者にどんな援助を行っているかを理解する。 ④看護を学ぶ者としてふさわしい身だしなみや言動を身につける。 ⑤人々が療養生活を送る病院・施設の概要を知り、医療・福祉チームによりどのようなサービスが提供されているかを説明できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 病院および高齢者施設の機能、役割や施設内で働く人々について学習する。 療養環境因子について学び測定方法、調整方法について学習する。 &lt;必要時間&gt;各回90分</p>				<p>&lt;内容&gt; 療養環境の実際、医療・福祉メンバーによるサービスについて学習する。  &lt;必要時間&gt;各回90分</p>			
授 業 計 画							
<p>I. 実習施設 平野総合病院、介護老人保健施設 岐阜リハビリテーションホーム、特別養護老人ホームやすらぎの里 川部苑</p> <p>II. 実習方法 1. 学生80名を1グループ8～10名の10グループに編成し、病院の病棟および高齢者関係の施設で実習する。① 2. 1グループを1～2名の教員が担当する。①②③④⑤ 3. 実習についてのオリエンテーション（施設等の概要、諸注意、事前学習等）を充分に行う。①②③④⑤ 4. 各実習場所で、施設の概要、組織、ケア体制、対象者の生活等について、施設の指導者より説明を受ける。②③⑤ 5. 実習場所で、看護師およびケアスタッフの援助の実際を見学し理解する。③ 6. 実習場所で、対象の1日の生活、療養環境について観察、インタビュー、計測を通じて理解する。②⑤ 7. 実習場所・学内で、カンファレンスを行い実習の学びの共有や振り返りを行う。②③⑤ 8. 医療現場や施設で求められる学生の身だしなみ、言動を理解する。①④ 9. 学生は、実習目標に対する達成状況や学びを発表し、実習記録にまとめ提出する。①②③④⑤</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
実習目標の到達度、実習態度、事前学習、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（第16版）医学書院 2015年 ・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（第17版）医学書院 2017年							
備 考							
履修前提条件：看護学概論、基礎看護技術Ⅰを履修中であること。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための 看護の原理と基礎		基礎看護学実習Ⅱ（発展）			○長田、二村、長屋 馬淵、眞田、長橋 岩瀬、中村 他	-	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 前学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 看護の対象の情報収集、およびアセスメントを中心に看護過程を展開し、対象のニーズを把握しながら、看護のプロセスに沿って実践的な看護の方法を学ぶ。また、今後、学習展開する領域別実習に応用できる看護過程展開能力の基礎を身につける。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①グループメンバーの一員としての自覚と責任を理解し、行動できる。 ②受け持ち対象の全体像を把握するための情報収集の方法を学ぶ。 ③科学的根拠に基づいた情報の分析・解釈から看護問題を見つけ出す過程を学ぶ。 ④対象の個性性を考慮した計画立案のための視点を学ぶ。 ⑤看護師の指導のもと計画に基づいた援助を行う。 ⑥毎日の援助を繰り返し評価し、看護過程展開の流れを理解する。 ⑦看護学生として実習に対する基本的な姿勢を学ぶ。 ⑧対象にかかわる多職種との協働、チーム医療のあり方を学ぶ。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、Ⅳで学習した援助項目について復習する。 ・看護過程の構成要素と記載方法について復習する。 ・受け持ち患者の疾患の解剖生理、病態生理ならびに治療、検査、看護ケアについて自己学習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・症状に伴う基礎的知識、アセスメント、計画立案ならびに患者に対する配慮を学ぶ。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回90分</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設 平野総合病院 関中央病院 岩砂病院岩砂マタニティ 各務原リハビリテーション病院</p> <p>II. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生79名を1グループ6～9名の12グループに編成し、前半42名・後半37名で各2週間、病院において行う。①</li> <li>2. 1グループ1～2名の教員が担当する。①②③④⑤⑥⑦⑧</li> <li>3. 実習についてのオリエンテーション（施設等の概要、諸注意、事前学習等）を充分に行う。①⑥⑦</li> <li>4. 学生3名で対象者1名を受け持ちとし看護過程を展開する。②③④⑤⑥</li> <li>5. 実習前に対象者の健康段階や治療状況、機能障害の状況等の情報を受け、事前学習に活用する。②③④⑤⑥</li> <li>6. 実習中は教員、実習指導者のアドバイスを受けながら対象の看護問題を抽出し、計画立案、実践する。③④⑤⑥</li> <li>7. 対象を取り巻く医療チームのあり方を観察し学ぶ。⑧</li> <li>8. 毎日カンファレンスを計画・実施し、1日の振り返りおよび翌日の計画について検討する。①⑥⑦</li> <li>9. 学生は、実習目標に対する達成状況や学びを実習記録にまとめ提出する。①⑦</li> <li>10. 学生は、看護学生であることを自覚した言動と態度で実習を行う。⑦</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ（第16版）医学書院 2015年</li> <li>・任和子、茂野香おる著者代表：系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ（第17版）医学書院 2017年</li> <li>・秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践〔第4版〕、ヌーヴェルヒロカワ</li> </ul>							
備考							
履修前提条件：1年次の専門基礎科目全て、看護学概論、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰを単位修得済みであること。基礎看護技術Ⅲ・Ⅳ、フィジカルアセスメントを履修中であること。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		成人看護学概論			○足立 久子 松田 好美	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義 (オムニバス)
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 成人看護学概論では、ライフサイクルからみた成人の身体的・心理的・社会的な特徴を学習し、成人期にある人々を全人的・総合的な存在としての理解を深める。成人の健康について「健康・不健康の連続帯」として捉え、多様な要因により発生する健康問題の特徴を生活習慣と関連づけて学習する。成人に対する看護ケアの基盤となる主要な概念や理論を応用する看護を学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 成人看護学の導入として、最も長い成人期にある人々を全人的・総合的な存在として理解できる。 2. 成人看護ケアの基盤となる主要な概念や理論を応用する看護援助論が理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 事例による授業（2回目～7回目）の場合は、前もって疾患名を連絡するので、事例を読み病気に関する解剖生理、病態、検査、治療に関して予習する。 &lt;必要時間&gt;各回10分～30分（個人差有り）</p>				<p>&lt;内容&gt; 1回目から7回目の授業では前回の授業に関する小テスト（1回目は事例に関する考察を記載予定）を行う。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>成人とは、成人急性期看護の理解（松田）①</li> <li>急性期看護実践における理論の活用：不安、心理的ストレス理論（松田）②</li> <li>急性期看護実践における理論の活用：危機理論（松田）②</li> <li>急性期看護実践における理論の活用：危機理論の活用（松田）②</li> <li>急性期看護実践における理論の活用：理論に基づく看護実践の方法：エビデンス（松田）②</li> <li>急性期にある患者と家族に対する看護：手術に対する不安・恐怖に対する看護など（松田）②</li> <li>急性期にある患者と家族に対する看護：理論に基づく看護実践の方法：研究、ナラティブ（松田）②</li> <li>日本の疾病構造の変化と生活習慣病（足立）①</li> <li>成人期にある人の特性（足立）①</li> <li>成人期の健康障害 グループワークと発表（足立）①</li> <li>成人にとっての健康の意味と保健行動 飲酒、喫煙、食事、運動と健康 グループワークと発表（足立）①</li> <li>慢性病と患者の特徴（足立）②</li> <li>慢性病患者の看護Ⅰ（足立）②</li> <li>慢性病看護の看護Ⅱ（足立）②</li> <li>慢性病患者の看護を実践するための基礎的概念：セルフケア（足立）②</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
<p>足立担当50%、松田担当50% 足立担当（8～15回）グループワークでの参加度と発表（5%）、試験（45%） 松田担当（1～7回）試験15点、小テスト35点</p>							
使用教科書				参考図書			
細川順子著、臨床看護面接 治療力の共鳴をめざして、すずか書房、(2,500)、2005.				<ul style="list-style-type: none"> <li>・安酸史子他編、ナーシング・グラフィカ22、成人看護学概論、メディカ出版、2015</li> <li>・鈴木志津枝編、慢性期看護論、ヌーベルヒロカワ、平成26年</li> </ul>			
備 考							
松田 E メール：matuda-y@gifu-u.ac.jp							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名					
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		成人看護活動論Ⅰ（基礎）			○眞田、古田 吉崎、青木 森岡、林 他	准教授、准教授 講師、講師 助教、助教					
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態				
		理学	作業	視機能							
必修	○				2年次 前学期	3単位 (135時間)	講義・演習 (オムニバス)				
選択											
授業概要・学修の到達目標											
<p>&lt;概要&gt; 慢性的経過をたどり、生涯に渡って生活のコントロールを必要とする対象者とその家族への看護を学習する。慢性疾患の特徴や、セルフケア能力を高める看護援助について学習する。成人期における健康障害の特徴を踏まえ、終末期を迎える対象者やその家族への看護援助について学習する。ライフスタイルにおける主な慢性疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 慢性的経過をたどる対象および家族の特徴を知り、看護を理解できる。 2. 日常生活を送りながらセルフマネジメント獲得に向けて看護の教育的役割を理解できる。 3. 終末期における対象及び家族を理解できる。 4. 慢性期患者のQOL向上のために必要な知識を理解できる。</p>											
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。						
事前学習				事後学習							
<p>&lt;内容&gt; 教科書をよく読んでくること。 解らない用語等は調べ学習を行うこと。 解剖生理・病態生理について学んでくること。 &lt;必要時間&gt;各回20分</p>				<p>&lt;内容&gt; 振り返り学習を行い、講義内容の再確認を行うこと。 (教科書・資料を見直す) ノート・資料を使用しポイントを整理すること。 &lt;必要時間&gt;各回40分</p>							
授業計画											
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 慢性疾患の特徴（古田） 2. 看護の役割（古田） 3. 患者とその家族の理解（古田） 4. セルフマネジメントの主な理論・概念（古田） 5. セルフマネジメントの方法と教育的支援（古田） 6. 高血圧（古田） 7. 慢性呼吸不全（川地） 8. 慢性呼吸不全（川地） 9. 肺がん&lt;化学療法・放射線療法&gt;（吉崎） 10. 肺がん（吉崎） 11. 白血病&lt;幹細胞移植&gt;（青木） 12. 白血病（青木） 13. 肝硬変・肝癌&lt;インターフェロン療法&gt;（森岡） 14. 肝硬変・肝癌（森岡） 15. 胃・十二指腸潰瘍（古田） 16. 脳梗塞（青木） 17. 腎不全（林） 18. 人工透析を受ける患者の看護（粥川） </td> <td style="vertical-align: top;"> 19. HIV感染/AIDS（古田） 20. 潰瘍性大腸炎&lt;ステロイド療法&gt;（眞田） 21. 前立腺癌&lt;内分泌療法&gt;（吉崎） 22. 慢性心不全（青木） 23. 不整脈（青木） 24. ペースメーカー（青木） 25. 緩和ケア 死生観（飯沼） 26. 緩和ケア 身体の苦痛の緩和（飯沼） 27. 緩和ケア 緩和ケアの考え方（飯沼） 28. 緩和ケア 緩和ケアにおける薬物療法（飯沼） 29. 糖尿病&lt;インスリン療法&gt;（眞田） 30. 糖尿病（眞田） 31. 糖尿病（事例展開） 32. 糖尿病（事例展開） 33. 糖尿病（事例展開） 34. 糖尿病（事例展開） 35. 糖尿病（事例展開） 定期試験 </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em;">}</td> <td style="vertical-align: middle;">眞田、古田、吉崎 青木、森岡、林</td> </tr> </table>								1. 慢性疾患の特徴（古田） 2. 看護の役割（古田） 3. 患者とその家族の理解（古田） 4. セルフマネジメントの主な理論・概念（古田） 5. セルフマネジメントの方法と教育的支援（古田） 6. 高血圧（古田） 7. 慢性呼吸不全（川地） 8. 慢性呼吸不全（川地） 9. 肺がん<化学療法・放射線療法>（吉崎） 10. 肺がん（吉崎） 11. 白血病<幹細胞移植>（青木） 12. 白血病（青木） 13. 肝硬変・肝癌<インターフェロン療法>（森岡） 14. 肝硬変・肝癌（森岡） 15. 胃・十二指腸潰瘍（古田） 16. 脳梗塞（青木） 17. 腎不全（林） 18. 人工透析を受ける患者の看護（粥川）	19. HIV感染/AIDS（古田） 20. 潰瘍性大腸炎<ステロイド療法>（眞田） 21. 前立腺癌<内分泌療法>（吉崎） 22. 慢性心不全（青木） 23. 不整脈（青木） 24. ペースメーカー（青木） 25. 緩和ケア 死生観（飯沼） 26. 緩和ケア 身体の苦痛の緩和（飯沼） 27. 緩和ケア 緩和ケアの考え方（飯沼） 28. 緩和ケア 緩和ケアにおける薬物療法（飯沼） 29. 糖尿病<インスリン療法>（眞田） 30. 糖尿病（眞田） 31. 糖尿病（事例展開） 32. 糖尿病（事例展開） 33. 糖尿病（事例展開） 34. 糖尿病（事例展開） 35. 糖尿病（事例展開） 定期試験	}	眞田、古田、吉崎 青木、森岡、林
1. 慢性疾患の特徴（古田） 2. 看護の役割（古田） 3. 患者とその家族の理解（古田） 4. セルフマネジメントの主な理論・概念（古田） 5. セルフマネジメントの方法と教育的支援（古田） 6. 高血圧（古田） 7. 慢性呼吸不全（川地） 8. 慢性呼吸不全（川地） 9. 肺がん<化学療法・放射線療法>（吉崎） 10. 肺がん（吉崎） 11. 白血病<幹細胞移植>（青木） 12. 白血病（青木） 13. 肝硬変・肝癌<インターフェロン療法>（森岡） 14. 肝硬変・肝癌（森岡） 15. 胃・十二指腸潰瘍（古田） 16. 脳梗塞（青木） 17. 腎不全（林） 18. 人工透析を受ける患者の看護（粥川）	19. HIV感染/AIDS（古田） 20. 潰瘍性大腸炎<ステロイド療法>（眞田） 21. 前立腺癌<内分泌療法>（吉崎） 22. 慢性心不全（青木） 23. 不整脈（青木） 24. ペースメーカー（青木） 25. 緩和ケア 死生観（飯沼） 26. 緩和ケア 身体の苦痛の緩和（飯沼） 27. 緩和ケア 緩和ケアの考え方（飯沼） 28. 緩和ケア 緩和ケアにおける薬物療法（飯沼） 29. 糖尿病<インスリン療法>（眞田） 30. 糖尿病（眞田） 31. 糖尿病（事例展開） 32. 糖尿病（事例展開） 33. 糖尿病（事例展開） 34. 糖尿病（事例展開） 35. 糖尿病（事例展開） 定期試験	}	眞田、古田、吉崎 青木、森岡、林								
評価基準・評価方法											
定期試験（65%）、小テスト（15%）、事例課題（10%）、ノート提出（5%）、出席状況（5%）を参考に総合評価する。											
使用教科書				参考図書							
・鈴木久美 野澤明子 森一恵編集:慢性期看護、改訂2版、南江堂 ・神田清子 大西和子編集:検査看護技術、初版、ヌーベルヒロカワ ・宮下光令編集:ナーシング・グラフィカ 成人看護学（6） 緩和ケア、第2版、メディカ出版 ・林直子 佐藤まゆみ編集:急性期看護Ⅰ、改訂第2版、南江堂				・その他は必要に応じて紹介する。							
備考											
事前学習内容を授業中に質問をしながら授業を進めていきます。解剖学・疾病論の知識を持ち授業に参加してください。その知識を活かしながら看護について学習を進めていきます。授業の最後には小テストを実施します。その日に学習した内容を小テストで理解できたか振り返り自宅学習に活かしていきましょう。授業で使用した資料は次回の授業の前に提出してください。復習内容を確認します。また、事例展開では糖尿病の事例をもとに看護過程の展開を行います。基礎的な情報の整理の仕方や解釈・分析の方法を復習しておいてください。											



科目区分		授業科目名			担当教員	職名					
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		成人看護活動論Ⅱ（発展）			○眞田、古田 吉崎、青木 森岡、林 他	准教授、准教授 講師、講師 助教、助教					
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態				
		理学	作業	視機能							
必修	○				2年次 後学期	2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)				
選択											
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標											
<p>&lt;概要&gt; 周手術期および生命危機状態にある患者とその家族への看護の知識と技術を学習する。急性期の特徴や、手術侵襲によって引き起こされる身体メカニズムの中から必要な看護について学び理解を深める。主な手術を必要とする疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 手術を受ける患者・家族の反応とそれに対する看護を理解できる。 2. 手術の侵襲によって引き起こされる生命反応を理解できる。 3. 術後合併症の発生リスクを理解し、予防的な看護を理解できる。 4. 術後の患者のQOL向上のために必要な知識を理解できる。</p>											
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。						
事前学習				事後学習							
<p>&lt;内容&gt; 教科書をよく読んでくること。 わからない用語等は調べ学習を行うこと。 事前に配布する解剖・病態理解のための自己学習資料を用い、事前学習を行い授業に臨む。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 振り返り学習を行い、講義内容の再確認を行うこと。 (教科書・資料等を見直す) 教科書・ノート・資料を利用しポイントを整理すること。 &lt;必要時間&gt;各回40分</p>							
授 業 計 画											
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1. 急性期看護の考え方（吉崎）  2. 周手術期看護（古田）  3. 術前看護（林）  4. 術中看護（眞田）  5. 術後看護（青木）  6. 術後の合併症と観察（青木）  7. 術直後の観察（演習）（青木）  8. 術直後の観察（演習）（青木）  9. 急性心筋梗塞患者の看護（中嶋）  10. 心臓カテーテル治療を受ける人の看護（中嶋）  11. 胆嚢摘出術を受ける人の看護（古田）  12. 乳房切除術を受ける人の看護（森岡）  13. 胃切除術を受ける人の看護（古田）  14. 子宮摘出術を受ける人の看護（森岡）  15. 直腸切除術を受ける人の看護（吉崎） </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 16. 直腸切除術を受ける人の看護（事例）  17. 直腸切除術を受ける人の看護（事例）  18. 直腸切除術を受ける人の看護（事例）  19. 直腸切除術を受ける人の看護（事例）  20. 直腸切除術を受ける人の看護（事例）  定期試験 </td> <td style="vertical-align: middle; font-size: 2em; padding-left: 10px;">}</td> <td style="vertical-align: middle; padding-left: 10px;">眞田・古田 吉崎・青木 森岡・林</td> </tr> </table>								1. 急性期看護の考え方（吉崎） 2. 周手術期看護（古田） 3. 術前看護（林） 4. 術中看護（眞田） 5. 術後看護（青木） 6. 術後の合併症と観察（青木） 7. 術直後の観察（演習）（青木） 8. 術直後の観察（演習）（青木） 9. 急性心筋梗塞患者の看護（中嶋） 10. 心臓カテーテル治療を受ける人の看護（中嶋） 11. 胆嚢摘出術を受ける人の看護（古田） 12. 乳房切除術を受ける人の看護（森岡） 13. 胃切除術を受ける人の看護（古田） 14. 子宮摘出術を受ける人の看護（森岡） 15. 直腸切除術を受ける人の看護（吉崎）	16. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 17. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 18. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 19. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 20. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 定期試験	}	眞田・古田 吉崎・青木 森岡・林
1. 急性期看護の考え方（吉崎） 2. 周手術期看護（古田） 3. 術前看護（林） 4. 術中看護（眞田） 5. 術後看護（青木） 6. 術後の合併症と観察（青木） 7. 術直後の観察（演習）（青木） 8. 術直後の観察（演習）（青木） 9. 急性心筋梗塞患者の看護（中嶋） 10. 心臓カテーテル治療を受ける人の看護（中嶋） 11. 胆嚢摘出術を受ける人の看護（古田） 12. 乳房切除術を受ける人の看護（森岡） 13. 胃切除術を受ける人の看護（古田） 14. 子宮摘出術を受ける人の看護（森岡） 15. 直腸切除術を受ける人の看護（吉崎）	16. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 17. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 18. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 19. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 20. 直腸切除術を受ける人の看護（事例） 定期試験	}	眞田・古田 吉崎・青木 森岡・林								
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法											
定期試験（65%）、小テスト（15%）、事例課題（10%）、ノート提出（5%）、受講態度（5%）を参考に総合評価する。											
使用教科書				参考図書							
・林直子 佐藤まゆみ編集：急性期看護<1>改訂第2版 概論・周手術期看護、南江堂				・その他は必要に応じて紹介する。							
備 考											
事前学習課題を用い質問をしながら授業を進めていきます。解剖学・疾病論の知識を持ち授業に参加してください。その知識を活かしながら看護について学習を進めていきます。授業の最後には小テストを実施します。その日に学習した内容を小テストで理解できたか振り返り自宅学習に活かしていきましょう。授業で使用した資料は次回の授業の前に提出してください。復習内容を確認します。また、事例展開では直腸癌の事例をもとに看護過程の展開を行います。情報の整理・解釈分析をした内容から関連図を記載します。関連図の書き方を復習しておいてください。											

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		成人看護学実習Ⅰ（慢性、回復期）			○眞田、古田、吉崎 青木、森岡、林	—	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期 3年次 前学期	3単位 (135時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 慢性に経過する疾患と共に、成人期における対象および健康障害の特性を理解し、健康レベルに応じた患者とその家族の持つ健康問題を総合的に理解し、科学的でかつ論理的な問題解決能力を養う。さらに、実習体験を通し、看護の知識・技術・態度を習得することができる。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患から生じる健康問題を抱え慢性に経過する、成人期にある患者を多面的に理解できる。</li> <li>2. 慢性期疾患患者が、日常生活の規制の中で自己管理と社会生活の適応ができるように、科学的根拠をもとに看護の問題解決のプロセスが展開できる。</li> <li>3. 患者を通して看護師の役割が理解でき、信頼関係を築き発展させることができる。</li> <li>4. 健康問題を持つ患者とその家族は、自立した存在であることを尊重し、人間としての尊厳を重んじる態度がとれる。</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習病院の概要に記載してある、疾患およびその看護と検査について事前学習を行うこと。</li> <li>・解剖生理、フィジカルアセスメントの復習を行うこと。</li> <li>・根拠を理解した上で援助技術が行えるよう練習しておくこと。</li> <li>・慢性期の特徴を理解しておくこと。（10時間）</li> </ul> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分以上</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受け持ち患者の疾患について振り返り学習を行うこと。</li> <li>・技術での今後の課題点について練習を行うこと。</li> </ul> <p>&lt;必要時間&gt;各回180分以上</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設 平野総合病院</p> <p>II. 実習方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生80名を1グループ4～6名の20グループに編成し、高齢者看護学実習Ⅰ、小児看護学実習、母性看護学実習と共にローテーションで行う。</li> <li>・実習前オリエンテーションを行う。</li> <li>・事前学習は、病棟の概要に記入してある疾患をもとに、解剖生理、病態、検査、看護の学習を行う。</li> <li>・平野総合病院の病棟一箇所で行う。</li> <li>・一人の患者を受け持ち、看護の実践を行う。</li> <li>・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。</li> <li>・一日血液浄化センターの見学を行う。</li> <li>・学内実習は、病態の理解を深めたり、記録の整理を行う。</li> <li>・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。</li> <li>・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。</li> </ul>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・鈴木久美 野澤明子 森一恵編集：慢性期看護、改訂2版、南江堂</li> <li>・神田清子 大西和子編集：検查看護技術、初版、ヌーベルヒロカワ</li> <li>・宮下光令編集：ナーシング・グラフィカ 成人看護学（6）緩和ケア、第2版、メディカ出版</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他必要に応じ紹介する。</li> </ul>			
備考							
<p>実習中、事前学習ノートを用い疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。慢性期の特徴や看護、各疾患について知識を持ち実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。</p> <p>専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。成人看護活動論Ⅱについては履修済であること。</p>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		成人看護学実習Ⅱ（手術、急性、終末期）			○眞田、古田、吉崎 青木、森岡、林	-	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期 3年次 前学期	3単位 (135時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 周手術期及び急性期にある成人期の患者を多面的に理解し、疾病の危機的状態にある患者の状態を把握し、回復促進および社会生活への適応に向けた援助に必要な知識・技術を習得する看護実践力を養う。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 周手術期または急性期にある患者の個別性を踏まえた看護実践ができる。 2. 外科的手術に伴う身体・心理的变化に対応して、心身の回復や社会生活への適応に向けた援助ができる。 3. 健康問題を持つ患者とその家族は、自立した存在であることを尊重し、人間としての尊厳を重んじる態度がとれる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・実習病院の概要に記載してある、疾患、看護と検査について事前学習を行うこと。 ・術前、術後の看護と麻酔の身体的影響を自己学習すること。 ・解剖生理、フィジカルアセスメントの復習を行うこと。 ・根拠を理解した上で援助技術が行えるよう練習しておくこと。 ・急性期の特徴を理解しておくこと。(10時間) &lt;必要時間&gt;各回60分以上</p>				<p>&lt;内容&gt; ・受け持ち患者の疾患について振り返り学習を行うこと。 ・技術での今後の課題点について練習を行うこと。  &lt;必要時間&gt;各回180分以上</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設 平野総合病院、岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター 羽島市民病院、揖斐厚生病院、岐阜赤十字病院、松波総合病院</p> <p>II. ・学生80名を1グループ4～6名の20グループに編成し、高齢者看護学実習Ⅱ、精神看護学実習、在宅看護論実習と共にローテーションで行う。 ・実習前オリエンテーションを行う。 ・事前学習は、病棟の概要に記入してある疾患をもとに、解剖生理、病態、検査、看護の学習を行う。 ・平野総合病院、岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター、羽島市民病院、揖斐厚生病院、岐阜赤十字病院、松波総合病院の病棟のいずれか一箇所で行う。 ・一人の患者を受け持ち、看護の実践を行う。 ・受け持ち患者の手術日には手術室への入室から退室までの一連の看護について見学する。 ・実習期間中に手術室見学を一度は行い、手術室における清潔操作、手術室での患者の管理方法、手術室看護の概要を見学する。(施設により多少異なる) ・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。 ・学内実習は、病態の理解を深めたり、記録の整理を行う。 ・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。 ・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。</p>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
・林直子 佐藤まゆみ編集：急性期看護<1>改訂第2版 概論・周手術期看護、南江堂				・その他必要に応じ紹介する。			
備考							
<p>実習中、事前学習ノートを用い疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。急性期の特徴や術後観察の視点・看護、各疾患について知識を持ち実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。 専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰの単位を修得済であること。成人看護活動論Ⅱについては履修済であること。</p>							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目		高齢者看護学概論			熊田 ますみ	教授	
健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 高齢者を社会的存在の生活者として理解するために、身体的老化のみならず、その人の人生や影響を受けた社会変動、環境などの多様性と高齢社会の動向を知り、高齢者の健康と生活を支える基本的な考えを学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①老年看護学の必要性と意義が理解できる。 ②老年期を生きることの意味と価値について、多角的に捉えることができる。 ③ライフサイクルのなかの老年期の特徴を捉え、老年看護の対象が理解できる。 ④加齢変化に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、健康維持の必要性が理解できる。 ⑤社会構造の変化、高齢化に伴う老年医療・保健・福祉対策の動向と現状が理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 講義終了時に次回の学習内容を示すので、指示された課題を学習をする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業の振り返りを必ず行い、分からないことは次の授業で質問できるようにする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の理解（老年看護学の位置づけと意義、老いとは）①②</li> <li>2. 老年期の理解（老年期・発達課題）②③</li> <li>3. 高齢者の理解（身体的機能の変化）④</li> <li>4. 高齢者の理解（身体的機能の変化）④</li> <li>5. 高齢者の理解（身体的機能の変化）④</li> <li>6. 高齢者の理解（加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化）④</li> <li>7. 高齢者疑似体験（計画）④</li> <li>8. 高齢者疑似体験（実施）④</li> <li>9. 老人クラブの方とのふれあい②③④</li> <li>10. 高齢者の理解（時代背景から高齢者の人生背景、価値観、個性性を学ぶ）②③④</li> <li>11. 高齢者の理解（時代背景から高齢者の人生背景、価値観、個性性を学ぶ）②③④</li> <li>12. 高齢社会と社会保障（高齢社会の統計的輪郭）⑤</li> <li>13. 高齢社会と社会保障（保健医療福祉の動向・保健医療福祉システムの構築）⑤</li> <li>14. 高齢社会と社会保障（高齢者虐待等権利擁護のための制度）⑤</li> <li>15. 老年看護に携わる者の責務①</li> </ol> <p>定期試験</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
定期試験（70%）、小テスト（20%）、課題レポート（10%）							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学〔第9版〕 医学書院 2018</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・国民衛生の動向（厚生統計協会）</li> <li>・国民福祉と介護の動向（厚生労働統計協会）</li> </ul>			
備 考							
<p>オフィスアワー：授業中に随時質問を受け付けます。指定のオフィスアワーの時間以外にも、お気軽に声をかけてください。 小テストを実施しフィードバックします。 高齢者を取り巻く社会制度や国の施策等に興味をもって、社会の変化に目を向けて知識を深めましょう。</p>							

平成29年度入学生より

科目区分		授業科目名			担当教員	職名																																									
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		高齢者看護活動論Ⅰ（基礎）			○熊田 ますみ 加藤 清人、山本 容正 他	教授 教授（作業） 非常勤講師																																									
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																																								
		理学	作業	視機能																																											
必修	○				2年次 前学期	2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)																																								
選択																																															
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標																																															
<p>&lt;概要&gt; 加齢変化や老年期特有の健康障害に対して、解決もしくは生活への影響を最小にするための基礎的な知識と看護方法を学ぶ。 高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①老年看護の基盤となる考え方や課題が理解できる。 ②高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響について理解できる。 ③残存機能を活用し、自立支援という視点から援助の方向性が理解できる。 ④疾患別看護について理解できる。</p>																																															
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																																										
事前学習				事後学習																																											
<p>&lt;内容&gt; 授業前にはテキストの該当する内容を読み、わからない語句については調べ学習をする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業の振り返りを必ず行い、分からないことは次の授業で質問できるようにする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>																																											
授業計画																																															
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. 高齢者看護の基本的な考え方</td> <td style="width: 40%;">(熊田) ①③</td> </tr> <tr> <td>2. 廃用症候群の予防</td> <td>(熊田) ①③</td> </tr> <tr> <td>3. 高齢者の生活機能を整える看護 食事</td> <td>(中川) ②③</td> </tr> <tr> <td>4. 高齢者の生活機能を整える看護 食事 (演習)</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>5. 高齢者の生活機能を整える看護 清潔</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>6. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>7. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄 (演習)</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>8. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄 (演習)</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>9. 認知機能の障害に対する看護 (うつ・せん妄)</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>10. 認知機能の障害に対する看護 (認知症)</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>11. 認知機能の障害に対する看護 (認知症)</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>12. 認知機能の障害に対する看護の実際</td> <td>(住若) ②③</td> </tr> <tr> <td>13. 非薬物療法 (レクリエーションの実際)</td> <td>(加藤) ②③</td> </tr> <tr> <td>14. 高齢者によくみられる身体症状のアセスメント</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>15. 高齢者によくみられる身体症状のアセスメント</td> <td>(熊田) ②③</td> </tr> <tr> <td>16. 疾患を持つ高齢者への看護 (脳卒中・パーキンソン病)</td> <td>(熊田) ④</td> </tr> <tr> <td>17. 疾患を持つ高齢者への看護 (感染と感染症対策)</td> <td>(山本) ④</td> </tr> <tr> <td>18. 疾患を持つ高齢者への看護 (褥創予防) (演習)</td> <td>(熊田) ④</td> </tr> <tr> <td>19. 疾患を持つ高齢者への看護の実際 (演習)</td> <td>(熊田) ④</td> </tr> <tr> <td>20. 疾患を持つ高齢者への看護の実際 (演習)</td> <td>(熊田) ④</td> </tr> </table> <p>定期試験</p>								1. 高齢者看護の基本的な考え方	(熊田) ①③	2. 廃用症候群の予防	(熊田) ①③	3. 高齢者の生活機能を整える看護 食事	(中川) ②③	4. 高齢者の生活機能を整える看護 食事 (演習)	(熊田) ②③	5. 高齢者の生活機能を整える看護 清潔	(熊田) ②③	6. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄	(熊田) ②③	7. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄 (演習)	(熊田) ②③	8. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄 (演習)	(熊田) ②③	9. 認知機能の障害に対する看護 (うつ・せん妄)	(熊田) ②③	10. 認知機能の障害に対する看護 (認知症)	(熊田) ②③	11. 認知機能の障害に対する看護 (認知症)	(熊田) ②③	12. 認知機能の障害に対する看護の実際	(住若) ②③	13. 非薬物療法 (レクリエーションの実際)	(加藤) ②③	14. 高齢者によくみられる身体症状のアセスメント	(熊田) ②③	15. 高齢者によくみられる身体症状のアセスメント	(熊田) ②③	16. 疾患を持つ高齢者への看護 (脳卒中・パーキンソン病)	(熊田) ④	17. 疾患を持つ高齢者への看護 (感染と感染症対策)	(山本) ④	18. 疾患を持つ高齢者への看護 (褥創予防) (演習)	(熊田) ④	19. 疾患を持つ高齢者への看護の実際 (演習)	(熊田) ④	20. 疾患を持つ高齢者への看護の実際 (演習)	(熊田) ④
1. 高齢者看護の基本的な考え方	(熊田) ①③																																														
2. 廃用症候群の予防	(熊田) ①③																																														
3. 高齢者の生活機能を整える看護 食事	(中川) ②③																																														
4. 高齢者の生活機能を整える看護 食事 (演習)	(熊田) ②③																																														
5. 高齢者の生活機能を整える看護 清潔	(熊田) ②③																																														
6. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄	(熊田) ②③																																														
7. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄 (演習)	(熊田) ②③																																														
8. 高齢者の生活機能を整える看護 排泄 (演習)	(熊田) ②③																																														
9. 認知機能の障害に対する看護 (うつ・せん妄)	(熊田) ②③																																														
10. 認知機能の障害に対する看護 (認知症)	(熊田) ②③																																														
11. 認知機能の障害に対する看護 (認知症)	(熊田) ②③																																														
12. 認知機能の障害に対する看護の実際	(住若) ②③																																														
13. 非薬物療法 (レクリエーションの実際)	(加藤) ②③																																														
14. 高齢者によくみられる身体症状のアセスメント	(熊田) ②③																																														
15. 高齢者によくみられる身体症状のアセスメント	(熊田) ②③																																														
16. 疾患を持つ高齢者への看護 (脳卒中・パーキンソン病)	(熊田) ④																																														
17. 疾患を持つ高齢者への看護 (感染と感染症対策)	(山本) ④																																														
18. 疾患を持つ高齢者への看護 (褥創予防) (演習)	(熊田) ④																																														
19. 疾患を持つ高齢者への看護の実際 (演習)	(熊田) ④																																														
20. 疾患を持つ高齢者への看護の実際 (演習)	(熊田) ④																																														
評価基準・評価方法																																															
定期試験（85％）、課題レポート（10％）、グループワークの参加度と発表（5％）																																															
使用教科書				参考図書																																											
北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学〔第9版〕 医学書院 2018				・根拠と事故防止からみた老年看護技術（医学書院）																																											
備 考																																															
質問等については、講義終了時または次回の講義時にフィードバックします。																																															

科目区分		授業科目名			担当教員	職名																					
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		高齢者看護活動論Ⅱ（発展）			○熊田 ますみ	教授																					
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																				
		理学	作業	視機能																							
必修	○				2年次 後学期	1単位 (45時間)	講義・演習																				
選択																											
授業概要・学修の到達目標																											
<p>&lt;概要&gt; 高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出、それに応じた看護計画の立案方法を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①検査に伴うインフォームドコンセントと検査時の看護について理解できる。 ②高齢者の薬物療法時の注意点と服薬管理に向けた支援方法が理解できる。 ③生活・療養の場における看護の方法が理解できる。 ④終末期にある高齢者に対する看護の方法が理解できる。 ⑤老年期に特有な疾患をもつ患者の事例を用い看護の展開が理解できる。 ⑥高齢者に特有なリスクが分かり対処方法が理解できる。</p>																											
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																						
事前学習				事後学習																							
<p>&lt;内容&gt; 授業前にはテキストの該当する内容を読み、わからない語句については調べ学習をする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業の振り返りを必ず行い、分からないことは次の授業で質問できるようにする。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>																							
授業計画																											
<table border="0"> <tr> <td>1. 検査・治療を受ける高齢者への看護</td> <td>(熊田) ①</td> </tr> <tr> <td>2. 薬物療法と看護、手術療法と看護</td> <td>(熊田) ②</td> </tr> <tr> <td>3. 生活・療養の場における看護</td> <td>(熊田) ③</td> </tr> <tr> <td>4. 終末期における看護</td> <td>(熊田) ④</td> </tr> <tr> <td>5. 疾患をもつ高齢者の看護事例（大腿骨頸部骨折）</td> <td>(熊田) ⑤</td> </tr> <tr> <td>6. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例①</td> <td>(熊田) ⑤</td> </tr> <tr> <td>7. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例②</td> <td>(熊田) ⑤</td> </tr> <tr> <td>8. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例③</td> <td>(熊田) ⑤</td> </tr> <tr> <td>9. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例④</td> <td>(熊田) ⑤</td> </tr> <tr> <td>10. 高齢者のリスクマネジメント</td> <td>(熊田) ⑥</td> </tr> </table> <p>定期試験</p>								1. 検査・治療を受ける高齢者への看護	(熊田) ①	2. 薬物療法と看護、手術療法と看護	(熊田) ②	3. 生活・療養の場における看護	(熊田) ③	4. 終末期における看護	(熊田) ④	5. 疾患をもつ高齢者の看護事例（大腿骨頸部骨折）	(熊田) ⑤	6. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例①	(熊田) ⑤	7. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例②	(熊田) ⑤	8. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例③	(熊田) ⑤	9. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例④	(熊田) ⑤	10. 高齢者のリスクマネジメント	(熊田) ⑥
1. 検査・治療を受ける高齢者への看護	(熊田) ①																										
2. 薬物療法と看護、手術療法と看護	(熊田) ②																										
3. 生活・療養の場における看護	(熊田) ③																										
4. 終末期における看護	(熊田) ④																										
5. 疾患をもつ高齢者の看護事例（大腿骨頸部骨折）	(熊田) ⑤																										
6. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例①	(熊田) ⑤																										
7. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例②	(熊田) ⑤																										
8. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例③	(熊田) ⑤																										
9. 疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例④	(熊田) ⑤																										
10. 高齢者のリスクマネジメント	(熊田) ⑥																										
評価基準・評価方法																											
定期試験（50%）、課題レポート（45%）、グループワークでの参加度と発表（5%）																											
使用教科書				参考図書																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（第9版）医学書院 2018</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活機能からみた老年看護過程（医学書院）</li> <li>・症状別看護ケア関連図（中央法規）</li> <li>・疾患別看護ケア関連図（中央法規）</li> </ul>																							
備考																											
<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護事例の課題は、次の講義時の初めに学習内容を確認します。その後グループワークを進めていきます。与えられた課題は必ず学習してください。講義終了時、重要ポイントをフィードバックします。</li> <li>・グループワークには、積極的に参加すること。</li> </ul>																											

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		高齢者看護学実習Ⅰ（基礎）			○熊田 ますみ 他	教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;            老年期にある対象者の発達課題と加齢現象を理解した上で、疾病や障害を有している生活者として幅広くとらえ、個々のQOL向上に必要な援助について理解することができる。生活の場における対象者のもてる力（残存機能）に着目して、必要な看護援助を考える。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;（細目表は高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱで異なる）            ①加齢に伴う老年期の特徴を理解できる。            ②高齢者の健康上の問題を把握し、看護の必要性が理解できる。            ③高齢者のQOL向上に必要な援助方法を理解できる。            ④高齢者に関心を持ち、個人の価値観や生活背景の個性性を尊重した態度で接することができる。            ⑤介護保険施設における看護のあり方と多職種連携および支援体制を理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            指示してある事前学習をしておくこと。実習要項を熟読する。（10時間）</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;            認知症看護について振りかえり学習を行うこと。加齢変化による高齢者の疾患が生活に及ぼす影響について考察する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回180分</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設            介護老人保健施設 岐阜リハビリテーションホーム、介護老人保健施設 寺田ガーデン、特別養護老人ホーム やすらぎの里川部苑、特別養護老人ホーム 黒野あそか苑、特別養護老人ホーム ナーシングケア寺田</p> <p>II. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生80名を1グループ5名の16グループに編成し、4グループ1班として成人看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習とともにローテーションで行う。</li> <li>2. 実習についてのオリエンテーション（施設等の概要、諸注意、事前学習等）を十分に行う。</li> <li>3. 学生は対象者1名を受け持ち、学生は利用者とともに毎日の日課に参加しながら、利用者への関わりを学び実践する。</li> <li>4. 施設で生活する高齢者の特徴や日常生活上の問題、あるいは高齢者の生き甲斐や活動の場について理解を深める。            老年期にある対象のこれまで生きてきた生活史・価値観を理解し、対象を尊重した態度での接し方を身につける。            施設における保健医療福祉チームの一員としての役割と連携、社会資源活用方法について学習する。</li> <li>5. 学生は、適時カンファレンスを実施する。教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方について検討する。</li> <li>6. 実習終了時、学生は教員、実習指導者とともに実習状況の反省会を、実習場所で実施する。</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価をする。							
使用教科書				参考図書			
・北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（第9版） 医学書院 2018				・根拠と事故防止からみた老年看護技術（医学書院） ・生活機能からみた老年看護過程（医学書院）			
備考							
履修前提条件：高齢者看護活動論Ⅱを履修中であること。 【看護の原理と基礎】全科目、高齢者看護学概論、高齢者看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		高齢者看護学実習Ⅱ（発展）			○熊田 ますみ 他	教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 前学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;            老年期にある対象者の発達課題と加齢現象を理解した上で、疾病や障害を有している生活者として幅広くとらえ、個々のQOL向上に必要な援助について理解することができる。健康レベルに応じた高齢者と家族のもつ健康問題を理解して看護が実践できる。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;（細目表は高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱで異なる）            ①加齢に伴う老年期の特徴を理解できる。            ②高齢者の健康上の問題を把握し、看護の必要性が理解できる。            ③高齢者のQOL向上に必要な援助方法を理解できる。            ④高齢者に関心を持ち、個人の価値観や生活背景の個性性を尊重した態度で接することができる。            ⑤医療施設における看護のあり方と多職種連携および支援体制を理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;            指示してある事前課題を学習しておくこと。根拠を理解したうえで援助技術が行えるよう、技術練習をしておくこと。（10時間）</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;            受け持ち患者の疾患について振り返り学習を行うこと。高齢者看護学実習Ⅱの学習を深めることができたか考察する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回180分</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設            平野総合病院、揖斐厚生病院、関中央病院</p> <p>II. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生80名を1グループ5名の16グループに編成し、4グループ1班として成人看護学実習、精神看護学実習、在宅看護論実習とともにローテーションで行う。</li> <li>2. 実習前オリエンテーションを行う。</li> <li>3. 事前学習は、基本的看護技術の練習と、実習要項に記した内容を行う。</li> <li>4. 平野総合病院、揖斐厚生病院、関中央病院の病棟のいずれか一箇所で行う。</li> <li>5. 原則として一人の患者を受け持ち、看護の実践を行う。</li> <li>6. 実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。</li> <li>7. 病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。</li> <li>8. 第2週の木曜日は、実習施設で教員・臨床指導者とともに反省会を行う。</li> <li>9. 学生は、第2週の金曜日に学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有する。</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
・北川公子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（第9版）医学書院 2018				・根拠と事故防止からみた老年看護技術（医学書院） ・生活機能からみた老年看護過程（医学書院） ・症状別看護ケア関連図（中央法規） ・疾患別看護ケア関連図（中央法規）			
備考							
履修前提条件：高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰの単位を修得済みであること。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		小児看護学概論			今井 七重	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 小児看護の目的、役割について学び、小児期にある対象をとらえるための小児各期の身体的特徴、機能的発達、情緒社会性の発達を学ぶ。子どもが生活する家庭を中心に、学校、地域、社会等、小児が成長発達していくために重要な役割を担う環境との関りを学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①小児看護の対象と目的について理解する。 ②看護の対象となる小児各期の特徴と小児看護における家族の位置づけについて理解する。 ③子どもを取り巻く社会環境と子どもを取り巻く法律・政策について理解する。また興味を抱いた関連内容について自ら追及しその内容について説明することができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; テキスト該当箇所について教科書を読み解らない語句を調べる、不明な内容について調べるなどの予習をする。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 授業の内容を確認し、資料と教科書を照らし合わせノートにまとめておくこと。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
1. 小児看護の特徴と理念 2. 子どもの倫理 3. 子どもの成長発達 4. 小児の栄養 5. 乳児の特徴、養育および看護 (1) 6. 乳児の特徴、養育および看護 (2) 7. 幼児の特徴、養育および看護 (1) 8. 幼児の特徴、養育および看護 (2) 9. 学童の特徴、養育および看護 目標② 10. 思春期・青年期の特徴、養育および看護 11. 家族の特徴とアセスメント 12. 小児と家族を取り巻く社会 (1) 13. 小児と家族を取り巻く社会 (2) 14. 小児と家族を取り巻く社会 (3) 15. 小児と家族を取り巻く社会 (4) 定期試験（筆記）					目標① 目標① 目標② 目標② 目標② 目標② 目標② 目標② 目標② 目標② 目標② 目標③ 目標③ 目標③ 目標③		
評価基準・評価方法							
課題レポート（10%）、最終筆記試験（90%）。							
使用教科書				参考図書			
・奈良間美保：系統看護学講座 小児看護学〔1〕 小児看護学概論／小児臨床看護総論、第13版 医学書院 2015				・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術、メディカ出版 ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版 2015			
備 考							
授業は遅刻欠席のないように努力する。開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。 質問は振り返りカードまたは直接声をかけてください。カードに対する回答は次回の講義時にします。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名																																																													
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		小児看護活動論Ⅰ（基礎）			○岩瀬 桃子、遠渡 絹代 河村 昌子、中川みのり	講師、非常勤講師 特別講師																																																													
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																																																												
		理学	作業	視機能																																																															
必修	○				2年次 前学期	2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)																																																												
選択																																																																			
授業概要・学修の到達目標																																																																			
<p>&lt;概要&gt;小児医学の現状、問題点、今後の展望を踏まえた上で、小児各期の発達段階や状況・疾病経過に応じた具体的援助方法を学習する。また、小児特有の代表的な症状のメカニズム、経過、症状緩和技術を学ぶ。また、子どもが検査や処置を受ける際の子どもと家族の影響を最小限にするための知識、技術を学び、具体的援助方法を理解する。さらに疾病予防といった小児保健の諸問題にも触れながら、小児看護の役割を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <p>①病気・障害による子どもと家族への影響を理解し必要な支援について述べることができる。</p> <p>②様々な状況における子どもと家族を理解し、必要な援助について述べるができる。</p> <p>③子どもの状態を適確にアセスメントする視点と必要な看護を結びつけることができる。</p> <p>④検査・処置に関する基礎的知識を理解し、技術を身につけ、得られた結果についてアセスメントすることができる。</p> <p>⑤障害のある子どもと家族について学習し、必要な支援について述べるができる。</p> <p>⑥虐待について知り、事故との見極めの判断ができる。虐待を受けている、又は可能性のある子どもと家族の支援について述べるができる。</p>																																																																			
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																																																														
事前学習				事後学習																																																															
<p>&lt;内容&gt;</p> <p>小児看護学概論で学んだ内容を復習すること。事前にテキストを読み、興味関心を抱く。分からない言葉等は調べる。必要時課題を提示するので積極的に取り組む。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <p>授業の内容を確認し、理解すること。常に内容に関連した成長発達については復習を繰り返す。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>																																																															
授業計画																																																																			
<table border="0"> <tr> <td>1. 病気・障害を持つ小児と家族の看護</td> <td>(河村)</td> <td>目標①</td> </tr> <tr> <td>2. 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護（1）入院・外来</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標②</td> </tr> <tr> <td>3. 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護（2）在宅・災害</td> <td>(中川)</td> <td>目標②</td> </tr> <tr> <td>4. 小児における疾病の経過と看護（1）慢性期・終末期</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標②</td> </tr> <tr> <td>5. 小児における疾病の経過と看護（2）急性期・周手術期</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標②</td> </tr> <tr> <td>6. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標②</td> </tr> <tr> <td>7. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標②</td> </tr> <tr> <td>8. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標②</td> </tr> <tr> <td>9. 症状を示す小児の看護（1）</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標③</td> </tr> <tr> <td>10. 症状を示す小児の看護（2）</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標③</td> </tr> <tr> <td>11. 症状を示す小児の看護（3）</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標③</td> </tr> <tr> <td>12. 症状を示す小児の看護（4）</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標③</td> </tr> <tr> <td>13. 小児のアセスメント</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標③</td> </tr> <tr> <td>14. 小児のアセスメントに必要な技術 演習</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標③</td> </tr> <tr> <td>15. 小児のアセスメントに必要な技術 演習</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標③</td> </tr> <tr> <td>16. 検査・処置を受ける小児の看護（1）</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標④</td> </tr> <tr> <td>17. 検査・処置を受ける小児の看護（2）</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標④</td> </tr> <tr> <td>18. 検査・処置を受ける小児の看護（3）</td> <td>(岩瀬)</td> <td>目標④</td> </tr> <tr> <td>19. 障害のある子どもと家族の看護</td> <td>(遠渡)</td> <td>目標⑤</td> </tr> <tr> <td>20. 子どもの虐待と看護</td> <td>(遠渡)</td> <td>目標⑥</td> </tr> </table> <p>定期試験（筆記）</p>								1. 病気・障害を持つ小児と家族の看護	(河村)	目標①	2. 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護（1）入院・外来	(岩瀬)	目標②	3. 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護（2）在宅・災害	(中川)	目標②	4. 小児における疾病の経過と看護（1）慢性期・終末期	(岩瀬)	目標②	5. 小児における疾病の経過と看護（2）急性期・周手術期	(岩瀬)	目標②	6. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習	(岩瀬)	目標②	7. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習	(岩瀬)	目標②	8. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習	(岩瀬)	目標②	9. 症状を示す小児の看護（1）	(岩瀬)	目標③	10. 症状を示す小児の看護（2）	(岩瀬)	目標③	11. 症状を示す小児の看護（3）	(岩瀬)	目標③	12. 症状を示す小児の看護（4）	(岩瀬)	目標③	13. 小児のアセスメント	(岩瀬)	目標③	14. 小児のアセスメントに必要な技術 演習	(岩瀬)	目標③	15. 小児のアセスメントに必要な技術 演習	(岩瀬)	目標③	16. 検査・処置を受ける小児の看護（1）	(岩瀬)	目標④	17. 検査・処置を受ける小児の看護（2）	(岩瀬)	目標④	18. 検査・処置を受ける小児の看護（3）	(岩瀬)	目標④	19. 障害のある子どもと家族の看護	(遠渡)	目標⑤	20. 子どもの虐待と看護	(遠渡)	目標⑥
1. 病気・障害を持つ小児と家族の看護	(河村)	目標①																																																																	
2. 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護（1）入院・外来	(岩瀬)	目標②																																																																	
3. 小児の状況（環境）に特徴づけられる看護（2）在宅・災害	(中川)	目標②																																																																	
4. 小児における疾病の経過と看護（1）慢性期・終末期	(岩瀬)	目標②																																																																	
5. 小児における疾病の経過と看護（2）急性期・周手術期	(岩瀬)	目標②																																																																	
6. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習	(岩瀬)	目標②																																																																	
7. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習	(岩瀬)	目標②																																																																	
8. 病気・障害を持つ小児と家族の看護 演習	(岩瀬)	目標②																																																																	
9. 症状を示す小児の看護（1）	(岩瀬)	目標③																																																																	
10. 症状を示す小児の看護（2）	(岩瀬)	目標③																																																																	
11. 症状を示す小児の看護（3）	(岩瀬)	目標③																																																																	
12. 症状を示す小児の看護（4）	(岩瀬)	目標③																																																																	
13. 小児のアセスメント	(岩瀬)	目標③																																																																	
14. 小児のアセスメントに必要な技術 演習	(岩瀬)	目標③																																																																	
15. 小児のアセスメントに必要な技術 演習	(岩瀬)	目標③																																																																	
16. 検査・処置を受ける小児の看護（1）	(岩瀬)	目標④																																																																	
17. 検査・処置を受ける小児の看護（2）	(岩瀬)	目標④																																																																	
18. 検査・処置を受ける小児の看護（3）	(岩瀬)	目標④																																																																	
19. 障害のある子どもと家族の看護	(遠渡)	目標⑤																																																																	
20. 子どもの虐待と看護	(遠渡)	目標⑥																																																																	
評価基準・評価方法																																																																			
授業中に行った演習とその振り返りレポート（30%）、最終筆記試験（70%）。																																																																			
使用教科書				参考図書																																																															
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良間美保：系統看護学講座 小児看護学 [1]</li> <li>・小児看護学概論／小児臨床看護総論、医学書院</li> <li>・奈良間美保：系統看護学講座 小児看護学 [2]</li> <li>・小児看護学各論、医学書院 2015</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・中野綾美：小児看護学 小児看護技術、メディカ出版</li> <li>・中野綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版 2015</li> </ul>																																																															
備考																																																																			
授業は遅刻欠席のないように努力する。開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。質問は振り返りカードまたは直接声をかけてください。カードに対する回答は次回の講義時にします。																																																																			

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		小児看護活動論Ⅱ（発展）			近藤富雄、○岩瀬桃子 岡本知美、白木大輔	臨床教授、講師 特別講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期	1単位 (45時間)	講義・演習 (オムニバス)
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 健康を障害された小児および家族がもつ健康問題について学習する。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出、それに応じた看護援助計画と評価、および臨床看護技術などを修得する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①小児に発症しうる疾患の発生機序、症状など疾患概念について述べるができる。 ②疾患について学び、アセスメントの視点がわかり、根拠をもって看護へつなげることができる。 ③事例を通して看護展開できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 小児看護学概論、小児看護活動論Ⅰで学んだ内容を復習すること。 関連する内容の正常な解剖生理について学習する。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 正常を逸脱している状態を正常な解剖生理からつなげて症状の出現の根拠や看護を理解する。  &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
1. 染色体異常・先天異常と看護、新生児の看護		(岡本)		目標①②③			
2. 代謝性疾患と看護、内分泌疾患と看護		(岩瀬)		目標①②③			
3. 免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ疾患		(近藤)		目標①②			
4. 感染症		(近藤)		目標①②			
5. 呼吸器疾患		(近藤)		目標①②			
6. 循環器疾患と看護、消化器疾患と看護		(岩瀬)		目標①②③			
7. 血液・造血器疾患と看護、悪性新生物と看護		(岩瀬)		目標①②③			
8. 腎・泌尿器および生殖器疾患と看護		(岩瀬)		目標①②③			
9. 神経疾患と看護、運動器疾患と看護		(岩瀬)		目標①②③			
10. 事故救急		(白木)		目標①②③			
11. 看護過程		(岩瀬)		目標③			
12. 看護過程		(岩瀬)		目標③			
13. 看護過程		(岩瀬)		目標③			
14. 看護過程		(岩瀬)		目標③			
15. 看護過程		(岩瀬)		目標③			
定期試験（筆記）							
評価基準・評価方法							
筆記試験（80%）、看護過程の演習内容（20%）							
使用教科書				参考図書			
・奈良間美保：系統看護学講座 小児看護学〔2〕 小児臨床看護各論、医学書院 2015				・中野綾美：小児看護学 小児看護技術、メディカ出版 ・中野綾美：小児看護学 小児の発達と看護、メディカ出版 2015			
備考							
授業は遅刻欠席のないように努力する。開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。 質問は振り返りカードまたは直接声をかけてください。カードに対する回答は次回の講義時にします。 予定は変更する場合がありますが前もってお知らせします。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		小児看護学実習			岩瀬 桃子 他	講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 健康障害をもつ子どもとその家族を理解し、児の成長発達段階をふまえ疾病・障害の程度に応じた援助の理解が出来る。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;            保育施設：①健康な小児の成長発達段階の特徴を理解することができる。            ②基本的な生活習慣の獲得と自立への援助を学ぶことができる。            ③小児に起こりうる事故を知り、適切な環境と予防対策について学ぶことができる。            病院・施設：①小児の成長発達段階の特徴を理解し、援助の実際と結びつけることができる。            ②小児の疾病・障害を身体的・心理的・社会的状態で捉え、健康上・生活上のニーズが把握できる。            ③小児の安全対策を理解し、起こりやすい事故の防止と感染防止ができる。            ④子どもや家族を支えるサービスや職種の連携を学ぶことができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 小児看護学概論、小児活動論で学んだ内容を復習すること。主に小児各期の成長発達、状況における小児の看護について学習する。実習施設ごとに提示する事前学習課題について病態・治療・検査・看護について学習しておく。(10時間) &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; 実習目標を振り返り、実習中に不足していた学習を補うとともに、学習内容を復習する  &lt;必要時間&gt;各回180分</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設 ①保育施設、児童養護施設5か所 ②羽島市民病院、希望が丘子ども医療福祉センター、岐阜市民病院、福富医院、長良医療センター</p> <p>II. 実習方法 1. 実習期間2週間のうち、1週間は保育施設実習、1週間は病院及び施設実習とする。 2. 保育施設実習は主に乳幼児のクラスに入り実習する。 病院施設実習は1グループ2～4名で編成し、受け持ち患児を通して関連図を用い全体像を把握する。 3. 小児看護に必要な小児の成長発達、特徴的疾患の病態や治療検査及び看護について事前学習を行う。 4. 事前オリエンテーションにより、実習目標を理解する。 5. 対象の小児の心身の健康状態を適切かつ迅速に把握し、必要な看護が理解できる。 6. 対象に必要な援助を理解し、子どもの個性を尊重した援助の見学・実施ができる。 7. カンファレンスで、対象児の全体像を把握する為に自分の疑問や意見を述べるができる。 8. 最終日のカンファレンスでは、小児看護学実習の学びと課題を明らかにする。</p>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良間美保編：系統看護学講座 小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論、医学書院</li> <li>・奈良間美保編：系統看護学講座 小児看護学〔2〕小児看護学各論、医学書院 2015</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・石黒彩子：小児看護過程＋関連図関連図、医学書院</li> <li>・鴨下重彦他：こどもの病気の地図帳、講談社</li> <li>・山口求：小児看護過程&amp;関連図一発達段階の特徴と疾患の理解から看護過程の展開を学ぶ</li> <li>・飯村直子他：小児看護実習、照林社</li> </ul>			
備考							
履修前提条件：小児看護概論、小児看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。 感染症（水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎）の抗体価が陽性でない場合は予防接種を受けていること。 インフルエンザについても該当期に予防接種を受けていること。 保育施設実習前に検便を実施し、細菌検査結果陰性である事。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目		母性看護学概論			近藤 邦代	教授	
健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;  周産期を含めた女性のライフステージのケアがどのような考え方から形成されたのかを基盤となる理論・概念・法律と制度から学び、母親と子どもの健康に関する統計から母子保健の現状を学ぶ。また、生殖機能の成熟開始から衰退における心身と社会的な特徴と健康問題に対する支援を学ぶ。さらに、母子保健における看護の多様性について理解できる。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;  ①母子保健の基盤となる理論・概念を述べることができる。  ②母子保健に関する法律、母子保健行政と母子保健の動向を述べるができる。  ③女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケアについて述べるができる。  ④成熟期の生殖に関する生理とセクシャリティを述べるができる。  ⑤母子保健における看護の多様性について理解できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;  普段から社会に広く目を向け、母子保健に関する記事に関心を持つ。生殖器の解剖生理学を復習する。  &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;  毎回の授業に対し、復習をすること。  &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授業計画							
1. 母子保健における理論と概念 ① 2. 母子保健における理論と概念 ① 3. 母子保健に関する法律と制度および母子保健の動向 ② 4. 母子保健に関する法律と制度および母子保健の動向 ② 5. 女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケア (GW) ③ 6. 女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケア (GW) ③ 7. 女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケア (GW) ③ 8. 女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケア (GW) ③ 9. 女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケア (GW) ③ 10. 女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケア (GW) ③ 11. 女性のライフステージにおける身体・心理・社会的特徴と健康問題に対するヘルスケア (GW) ③ 12. 生殖に関する生理とセクシャリティ ④ 13. 生殖に関する生理とセクシャリティ ④ 14. 母子保健における多様性とケア ⑤ 15. 母子保健における多様性とケア ⑤ 試験							
評価基準・評価方法							
筆記試験（90％） レポート（10％） を総合して評価する。							
使用教科書				参考図書			
・ 有森直子他：母性看護学 I 第1版 医歯薬出版 2015				講義の中で提示します。			
備考							
質問等は次の講義時にフィードバックします。 受身で講義を聞くのではなく、「看護の対象者が自分や自分の家族だったら」という思いで講義を受ける。 グループワークではグループの一員として役割を果たしながら講義に臨む。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名																																																																																														
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		母性看護活動論Ⅰ（基礎）			○近藤 邦代 平野 聡子 山内久美子	教授 臨床教授 臨床教授																																																																																														
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																																																																																													
		理学	作業	視機能																																																																																																
必修	○				2年次 前学期	2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)																																																																																													
選択																																																																																																				
授業概要・学修の到達目標																																																																																																				
<p>&lt;概要&gt; 女性のライフサイクルにおける妊娠・分娩・産褥と育児期にある人々と家族に対して、その人々が、健康でより充実した日々を過ごすことができるような援助を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①妊娠期の看護について述べることができる。 ②分娩期の看護について述べることができる。 ③産褥期・育児期の看護について述べることができる。 ④新生児の看護について述べることができる。 ⑤母子関係、親子関係、家族関係をはぐくむための支援の必要性を理解することができる。 ⑥正常から逸脱した対象の看護を理解することができる。</p>																																																																																																				
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																																																																																															
事前学習				事後学習																																																																																																
<p>&lt;内容&gt; ・講義開始前までに、生殖器の解剖生理を復習する。 ・講義ごとに提示する課題をおこなう。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; 講義ごとに提示する課題を行う。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>																																																																																																
授業計画																																																																																																				
<table border="0"> <tr> <td>1. 妊娠期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> <td rowspan="5">}</td> <td rowspan="5">到達目標①⑤</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>2. 妊娠期の看護 (演習)</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>3. 妊娠期の看護 (演習)</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>4. 妊娠期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>5. 分娩期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>6. 分娩期の看護</td> <td></td> <td>(山内)</td> <td rowspan="3">}</td> <td rowspan="3">到達目標②⑤</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>7. 分娩期の看護</td> <td></td> <td>(山内)</td> </tr> <tr> <td>8. 産褥期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>9. 産褥期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> <td rowspan="4">}</td> <td rowspan="4">到達目標③⑤</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>10. 産褥期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>11. 産褥期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>12. 産褥期の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>13. 新生児の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> <td rowspan="5">}</td> <td rowspan="5">到達目標③⑤</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>14. 新生児の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>15. 新生児の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>16. 新生児の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>17. 新生児の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> </tr> <tr> <td>18. 新生児の看護</td> <td></td> <td>(近藤)</td> <td rowspan="3">}</td> <td rowspan="3">到達目標⑤⑥</td> <td colspan="3"></td> </tr> <tr> <td>19. 正常から逸脱した対象の看護</td> <td></td> <td>(平野)</td> </tr> <tr> <td>20. 正常から逸脱した対象の看護</td> <td></td> <td>(平野)</td> </tr> <tr> <td colspan="8">定期試験</td> </tr> </table>								1. 妊娠期の看護		(近藤)	}	到達目標①⑤				2. 妊娠期の看護 (演習)		(近藤)	3. 妊娠期の看護 (演習)		(近藤)	4. 妊娠期の看護		(近藤)	5. 分娩期の看護		(近藤)	6. 分娩期の看護		(山内)	}	到達目標②⑤				7. 分娩期の看護		(山内)	8. 産褥期の看護		(近藤)	9. 産褥期の看護		(近藤)	}	到達目標③⑤				10. 産褥期の看護		(近藤)	11. 産褥期の看護		(近藤)	12. 産褥期の看護		(近藤)	13. 新生児の看護		(近藤)	}	到達目標③⑤				14. 新生児の看護		(近藤)	15. 新生児の看護		(近藤)	16. 新生児の看護		(近藤)	17. 新生児の看護		(近藤)	18. 新生児の看護		(近藤)	}	到達目標⑤⑥				19. 正常から逸脱した対象の看護		(平野)	20. 正常から逸脱した対象の看護		(平野)	定期試験							
1. 妊娠期の看護		(近藤)	}	到達目標①⑤																																																																																																
2. 妊娠期の看護 (演習)		(近藤)																																																																																																		
3. 妊娠期の看護 (演習)		(近藤)																																																																																																		
4. 妊娠期の看護		(近藤)																																																																																																		
5. 分娩期の看護		(近藤)																																																																																																		
6. 分娩期の看護		(山内)	}	到達目標②⑤																																																																																																
7. 分娩期の看護		(山内)																																																																																																		
8. 産褥期の看護		(近藤)																																																																																																		
9. 産褥期の看護		(近藤)	}	到達目標③⑤																																																																																																
10. 産褥期の看護		(近藤)																																																																																																		
11. 産褥期の看護		(近藤)																																																																																																		
12. 産褥期の看護		(近藤)																																																																																																		
13. 新生児の看護		(近藤)	}	到達目標③⑤																																																																																																
14. 新生児の看護		(近藤)																																																																																																		
15. 新生児の看護		(近藤)																																																																																																		
16. 新生児の看護		(近藤)																																																																																																		
17. 新生児の看護		(近藤)																																																																																																		
18. 新生児の看護		(近藤)	}	到達目標⑤⑥																																																																																																
19. 正常から逸脱した対象の看護		(平野)																																																																																																		
20. 正常から逸脱した対象の看護		(平野)																																																																																																		
定期試験																																																																																																				
評価基準・評価方法																																																																																																				
中間試験（40点） 最終試験（60点）の総合評価とする																																																																																																				
使用教科書				参考図書																																																																																																
有森直子編：母性看護学Ⅱ 第1版 医歯薬出版 2015				平澤美恵子他：母性看護技術アドバンス インターメディカ 医療情報科学研究所編：病気が見える 産科 メディックメディア 大平光子他：母性看護学Ⅱ 南江堂																																																																																																
備考																																																																																																				
質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。																																																																																																				

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目		母性看護活動論Ⅱ（発展）			○近藤 邦代 他	教授	
健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期	1単位 (45時間)	講義・演習 (オムニバス)
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 母性看護の対象に応じた看護を実践するための技術の習得について学習する。また、母性看護の対象の看護実践を科学的にするための「科学的な思考能力」を事例の展開を通して学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①母性看護の実践に必要な看護技術を習得する。 ②看護過程の展開をととして科学的な思考能力を培う。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・母性看護活動論Ⅰで学習した内容 ・看護技術の演習前に提示されたレポート &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; 看護技術の演習後に提示されたレポート  &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦の観察とアセスメント ①</li> <li>2. 妊婦の観察とアセスメント ①</li> <li>3. 妊婦の観察とアセスメント ①</li> <li>4. 褥婦と新生児の観察とアセスメント ①</li> <li>5. 褥婦と新生児の観察とアセスメント ①</li> <li>6. 褥婦と新生児の観察とアセスメント ①</li> <li>7. 褥婦と新生児の観察とアセスメント ①</li> <li>8. 新生児の育児技術 ①</li> <li>9. 新生児の育児技術 ①</li> <li>10. 新生児の育児技術 ①</li> <li>11. 母児の看護過程の展開 ②</li> <li>12. 母児の看護過程の展開 ②</li> <li>13. 母児の看護過程の展開 ②</li> <li>14. 母児の看護過程の展開 ②</li> <li>15. 母児の看護過程の展開 ②</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
技術演習レポート（50%）、看護過程レポート（50%）、参加状況から総合的に評価する。							
使用教科書				参考図書			
有森直子編：母性看護学Ⅱ 第1版 医歯薬出版 2015				<ul style="list-style-type: none"> <li>・石村由利子編：根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院</li> <li>・太田操編：ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版株式会社</li> <li>・平澤美恵子他：母性看護技術アドバンス インターメディアカ</li> </ul>			
備考							
質問等については、次の講義等に説明し、フィードバックします。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		母性看護学実習			○近藤 邦代 清水ゆかり 他	教授 助手	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 周産期および育児期の母子と家族を支援するために必要な看護を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①対象とその家族をアセスメントし必要な看護を述べるができる。 ②生命の尊厳、対象と家族の人権・プライバシーに配慮した行動をとることができる。 ③母性看護におけるチーム医療の必要性を学び、自らもチームの一員としての役割を果たすことができる。 ④母子を支援するために提供されている社会の取り組みの実際がわかる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 実習に必要な最低限の基礎知識について提示した内容を学習しノートにまとめる。(20時間) 実習に必要な基礎的技術を実習前に練習する &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; 実習目標を振り返り不十分な点を再学習する  &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>2～5名のグループで実習し、目標の達成を目指して互いに協力しながら学びあう ③</li> <li>実習のオリエンテーションを受けて実習の目標を理解し、実習への準備をする。 ①③④</li> <li>対象とかかわり、母性看護に必要な基礎的な援助の実際を学習する ①②③④</li> <li>カンファレンス（事例、テーマ）を行い、学習を深め、共有する ①③④</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
「母性看護学実習評価表」に基づき4点～1点で評価し、秀、優、良、可、不可とする							
使用教科書				参考図書			
有森直子編：母性看護学Ⅱ 医歯薬出版 第1版 2015				実習前オリエンテーションで提示する			
備考							
<p>履修前提条件 ・2年次前期までの専門基礎科目全て、【看護の原理と基礎】全科目、母性看護学概論、母性看護活動論Ⅰの単位が修得済みであること。また、母性看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。 ・感染症の抗体検査済みで、抗体陰性の場合は予防接種を受けていること。</p>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		精神看護学概論			三品 弘司	教授	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 前学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 精神看護学概論では、対象の個別性を捉えられるように、パーソナリティの発達過程と各ライフステージにおける成長・発達課題を理解し、自我の防衛機能とストレス・コーピングの考え方、患者の自己対処能力について学ぶ。そして、より健康な社会生活を営むため、或いは精神の不健康状態からの回復を支えるための看護について、その意義、目的、方法等について学ぶ科目である。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①対象の個別性を捉えられるように、パーソナリティの発達過程と各ライフステージにおける成長・発達課題を理解し、自我の防衛機能とストレス・コーピングの考え方、患者の自己対処能力について理解できる。 ②対象を取り巻く環境として、精神保健の動向や現代のストレス社会の理解と現行の精神保健福祉法の目指す目的が理解できる。 ③精神障害を持つ対象への看護のアプローチに基本的な考え方を身に付けることができる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 1. 授業計画に沿って教科書や参考書を読んでおくこと 2. 教科書で分からない語彙については各自で調べておくこと 3. 疾患の自己学習を行っておくこと &lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 1. 授業の内容は、プリントおよび教科書で再度学習しておくこと。 2. 毎回、宿題（国試過去問）を課します。それをやること。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護とは…精神とは何か。心はどこにあるのか。 ①</li> <li>2. 精神看護の対象、精神看護が行われる場、現代地域社会とコミュニティー人間の心の働き ①③</li> <li>3. 精神医療の変遷、精神看護の変遷 ②</li> <li>4. 精神保健と法律 精神保健福祉法について（入院形態や告知文書など） ②</li> <li>5. 関係性の病と援助関係 / 精神看護の基本となるコミュニケーション技術 ③</li> <li>6. ライフサイクルにおける心の発達①フロイトの理論 / マーラーの理論 ①</li> <li>7. ライフサイクルにおける心の発達②エリクソンの理論 ①</li> <li>8. 危機的状況にある人の理解（ストレスと危機） ③</li> <li>9. 精神障害の理解① 精神疾患の考え方 / 防衛規制 ③</li> <li>10. 精神障害の理解② 精神機能の障害と症状 ③</li> <li>11. 精神障害の理解③ 検査と治療（身体的検査、心理検査 / 精神療法・ECT・薬物療法） ③</li> <li>12. 精神看護の役割と機能① 精神看護の専門性 日常生活行動自立への看護、家族への理解と支援 ③</li> <li>13. 精神看護の役割と機能② 治療過程に応じた看護（外来 / 入院）について ③</li> <li>14. リスクマネジメント 精神科におけるリハビリテーション ③</li> <li>15. 精神看護の現状と今日的課題について ②</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
小テスト（20%）、筆記試験（80%）							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 第5版、医学書院、2017年。</li> <li>・武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 第5版、医学書院、2017年。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・武井麻子：精神看護学ノート 第2版、医学書院、2005年。</li> <li>・舟島なをみ他：看護のための人間発達学 第5版、医学書院、2017年。</li> <li>・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版、医学書院、2016年。</li> </ul>			
備 考							
<p>出席確認は、「出席カード」にて行う。出席カードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。その他、授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。</p> <p>出席カードには、毎回の講義内容についての質問・意見・感想を記載して頂く。質問は、次回の講義のときにフィードバックする。</p>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		精神看護活動論Ⅰ（基礎）			○三品 弘司 白田 成之	教授 助教	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期	2単位 (90時間)	講義・演習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 精神看護活動論Ⅰでは、精神疾患を理解し、看護の実践方法について学ぶ。そのために、まず、精神障害のある人について、疾患あるいは状態ごとに、日常生活の場における精神の健康問題の表れ方を理解し、問題解決に向けた具体的援助の方法について学習する。次いで、演習を通し、コミュニケーション技法や芸術療法、SSTなどを行い体験的に精神看護の実際を学ぶ科目である。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患別あるいは状態ごとの精神症状の表れ方について理解できる。</li> <li>2. 精神症状・状態別の看護が理解できる。</li> <li>3. 精神保健看護活動の対象、概念、法的基盤について理解できる。</li> <li>4. 演習を通し、精神看護を実践的に理解できる。</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業計画に沿って教科書や参考書を読んでおくこと</li> <li>2. 教科書で分からない語彙については各自で調べておくこと</li> <li>3. 疾患の自己学習を行っておくこと</li> </ol> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の内容は、プリントおよび教科書で再度学習しておくこと。</li> <li>2. 毎回、宿題（国試過去問）を課します。それをやること。</li> </ol> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統合失調症の理解と看護（1）（三品）①②</li> <li>2. 統合失調症の理解と看護（2）（三品）①②</li> <li>3. 気分障害の理解と看護（三品）①②</li> <li>4. 神経症性障害の理解と看護（三品）①②</li> <li>5. ストレス関連障害・身体表現性障害の理解と看護（三品）①②</li> <li>6. 摂食障害・パーソナリティ障害の理解と看護（三品）①②</li> <li>7. 器質性精神病・てんかん・知的能力障害の理解と看護（三品）①②</li> <li>8. 薬物・アルコール依存症の理解と看護（三品）①②</li> <li>9. リエゾン精神看護（白田）③</li> <li>10. 地域における精神看護（三品・白田）③</li> <li>11. 症状別看護（白田）①②</li> <li>12. コミュニケーション方法とプロセスレコードの書き方（三品）④</li> <li>13. 演習①：プロセスレコードの書き方（1）（三品・白田）④</li> <li>14. 演習②：プロセスレコードの書き方（2）（三品・白田）④</li> <li>15. 演習③：プロセスレコードの書き方（3）（三品・白田）④</li> <li>16. 演習④：プロセスレコードの分析方法と自己の振り返り（三品・白田）④</li> <li>17. 演習⑤：プロセスレコードの分析方法（三品・白田）④</li> <li>18. 演習⑥：芸術療法（三品・白田）④</li> <li>19. 演習⑦：当事者との交流会（三品・白田）④</li> <li>20. 演習⑧：社会生活機能訓練（SST）（三品・白田）④</li> </ol> <p>定期試験 筆記</p>							
評価基準・評価方法							
「演習参加状況」「レポート」「プレゼンテーション」で評価（20%）、小テスト（10%）、最終筆記試験（70%）							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 第5版、医学書院、2017年。</li> <li>・武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 第5版、医学書院、2017年。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・武井麻子：精神看護学ノート 第2版、医学書院、2005年。</li> <li>・長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコードープロセスレコードが書ける、読める、評価できる本 第2版、日総研、2017年。</li> </ul>			
備考							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習⑥⑦は、外部講師に依頼する予定です。</li> <li>・質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。</li> </ul>							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名																					
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		精神看護活動論Ⅱ（発展）			○三品 弘司 白田 成之	教授 助教																					
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																				
		理学	作業	視機能																							
必修	○				3年次 前学期	1単位 (45時間)	講義・演習																				
選択																											
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標																											
<p>&lt;概要&gt; 精神看護活動論Ⅱでは、精神科看護における看護過程の展開方法についてグループワークなどを通して学習していく。また、事例を実際に展開しながら、対象を理解するためのアセスメント、看護問題の抽出、看護援助計画と評価を行う能力を身につけることをねらいとしている。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 疾患の病態像を理解したうえで対象者に沿った看護援助を計画・立案できる。 2. 発達段階を踏まえた対象者のアセスメントができる。 3. 精神症状が日常生活に与える影響についてアセスメントができる。</p>																											
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																						
事前学習				事後学習																							
<p>&lt;内容&gt; 1. 授業計画に沿って教科書や参考書を読んでおくこと。 2. 疾患の学習を行っておくこと。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 1. 授業の内容は、プリントおよび教科書で復習すること。 2. 毎回、宿題（国試過去問）を課します。それをやること。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>																							
授 業 計 画																											
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 70%;">1. 対象を理解するために用いるプロセスレコードの方法(三品・白田)</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">①③</td> </tr> <tr> <td>2. 対象を理解するために用いるプロセスレコード：演習(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①③</td> </tr> <tr> <td>3. 演習：精神障害のある人の理解と援助：グループワーク(1)(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①③</td> </tr> <tr> <td>4. 演習：精神障害のある人の理解と援助：グループワーク(2)(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①③</td> </tr> <tr> <td>5. 演習：グループ発表(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①③</td> </tr> <tr> <td>6. 看護過程の展開方法および記録の書き方(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①②③</td> </tr> <tr> <td>7. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(1)(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①②③</td> </tr> <tr> <td>8. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(2)(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①②③</td> </tr> <tr> <td>9. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(3)(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①②③</td> </tr> <tr> <td>10. 演習：事例発表(三品・白田)</td> <td style="text-align: right;">①②③</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 40px;">定期試験 筆記</p>								1. 対象を理解するために用いるプロセスレコードの方法(三品・白田)	①③	2. 対象を理解するために用いるプロセスレコード：演習(三品・白田)	①③	3. 演習：精神障害のある人の理解と援助：グループワーク(1)(三品・白田)	①③	4. 演習：精神障害のある人の理解と援助：グループワーク(2)(三品・白田)	①③	5. 演習：グループ発表(三品・白田)	①③	6. 看護過程の展開方法および記録の書き方(三品・白田)	①②③	7. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(1)(三品・白田)	①②③	8. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(2)(三品・白田)	①②③	9. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(3)(三品・白田)	①②③	10. 演習：事例発表(三品・白田)	①②③
1. 対象を理解するために用いるプロセスレコードの方法(三品・白田)	①③																										
2. 対象を理解するために用いるプロセスレコード：演習(三品・白田)	①③																										
3. 演習：精神障害のある人の理解と援助：グループワーク(1)(三品・白田)	①③																										
4. 演習：精神障害のある人の理解と援助：グループワーク(2)(三品・白田)	①③																										
5. 演習：グループ発表(三品・白田)	①③																										
6. 看護過程の展開方法および記録の書き方(三品・白田)	①②③																										
7. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(1)(三品・白田)	①②③																										
8. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(2)(三品・白田)	①②③																										
9. 演習：統合失調症・気分障害患者の事例展開(3)(三品・白田)	①②③																										
10. 演習：事例発表(三品・白田)	①②③																										
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法																											
記録物の評価（30%）、筆記試験（70%）で評価する。																											
使用教科書				参考図書																							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 第5版、医学書院、2017年.</li> <li>・ 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 第5版、医学書院、2017年.</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコードープロセスレコードが書ける、読める、評価できる本 第2版、日総研、2017年.</li> <li>・ 焼山和憲：はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 第2版、医歯薬出版株式会社、2011年.</li> </ul>																							
備 考																											
<p>グループワークには、積極的に参加すること。 グループワークは、講義時間外の時間も使用し進めること。 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。</p>																											



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目		精神看護学実習			○三品 弘司 白田 成之	教授 助教	
健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 前学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 精神看護学実習は、精神疾患によって、日常生活や対人関係に困難をきたしている対象を受け持ち、看護過程を展開していく。対象者との関わりを通して対象・自己理解を深め、その人らしい生活が送れるための援助方法や社会復帰に向けての働きかけについて学び、精神看護の役割および機能を理解することをねらいとしている。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神健康上の問題が、対象の身体・行動・対人関係にどのように表れているのか状況理解を深める。その理解に基づいて、対象者の抱えている課題や問題の解決に向けた個別性のある看護を実践することができる。</li> <li>2. 対象者への関わりを通して、自己の関わりを振り返り、援助技術としてのコミュニケーションのあり方を考えることができる。</li> <li>3. 地域における精神障害者の生活の自立や社会参加を支援するための方法について学び、看護職に求められる役割と援助方法について理解を深めることができる。</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提示してある事前学習をしておくこと。(10時間)</li> <li>2. 根拠を理解したうえで援助技術が行えるよう、技術練習をしておくこと。</li> </ol> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習で受け持った患者の疾患・治療・検査・看護について教科書を参照しながら復習しておくこと。</li> </ol> <p>&lt;必要時間&gt;各回180分</p>			
授業計画							
<p>&lt;実習施設&gt;岐阜大学医学部附属病院、黒野病院、のぞみの丘ホスピタル</p> <p>&lt;実習方法&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生80名を1グループ4～6名で編成し、3病院のいずれかの病棟で2週間実習を行う。</li> <li>2. 実習についてオリエンテーション（施設などの概要、諸注意、事前学習 等）を受ける。</li> <li>3. 事前学習は、①精神障害と法制度、②主な精神疾患の治療と看護、③地域で精神障害者を支援するための制度について紙面にて課題の提示を行う。</li> <li>4. 対象者を学生1～2名で受け持ち、対象者の現在の心理状態や日常生活について関心を持ち、対象者と関わる中で捉えた事柄について、実習指導者や教員の助言を受けながら、対象者の抱える問題を理解する。</li> <li>5. 学生は、実習病棟の特徴を理解し、対象者のニーズに即した看護過程（ケアプランに基づく）の展開やレクリエーション活動を実施する。</li> <li>6. 対象者への関わりを通して、自己の関わりをプロセスレコードを使用しながら振り返る。</li> <li>7. 精神障害者が社会復帰するための社会資源や看護の役割・援助を実際に見学し、理解する。</li> <li>8. 学生は、適時、各実習場所でカンファレンスを行う。内容は、教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方などについて行う。</li> <li>9. 実習終了時、実習場所で実習指導者、教員とともに実習状況について反省会を実施する。</li> <li>10. 学生は、学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有し、レポートにまとめ、提出する。</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 第5版、医学書院、2017年。</li> <li>・武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔2〕精神看護の展開 第5版、医学書院、2017年。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・萱間真美：精神看護第2版（パーフェクト臨床実習ガイド）、照林社、2015年。</li> <li>・焼山和憲：はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 第2版、医歯薬出版株式会社、2011年。</li> <li>・長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード・プロセスレコードが書ける、読める、評価できる本 第2版、日総研、2017年。</li> <li>・川野雅資：エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図、中央法規出版、2008年</li> </ul>			
備 考							
履修前提条件：【看護の原理と基礎】全科目と精神看護学概論および精神看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、精神看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名																															
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		課題研究事前演習			熊田 ますみ 他	-																															
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																														
		理学	作業	視機能																																	
必修	○				3年次 前学期	1単位 (30時間)	講義・演習																														
選択																																					
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標																																					
<p>&lt;概要&gt; 看護研究は、看護専門職のケア実践を向上させ、社会的にも高い評価を得ることにつながる。そのため課題研究事前演習では、看護研究を行うための研究の進め方を学び、看護領域における研究の概要と研究の方法・プロセスを学び、看護研究を実施できる基礎的能力を身につける。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①看護領域における研究の概要、研究の方法・プロセスを理解する。 ②研究の進め方を理解する。 ③文献検索の方法を習得する。</p>																																					
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																																
事前学習				事後学習																																	
<p>&lt;内容&gt; 今までの講義・演習・実習での経験の中で気づいたことや問題や疑問に感じたことを考えておく。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; ゼミナールを効果的に行うために必要な準備（文献収集、文献の熟読等）をする。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>																																	
授業計画																																					
<p>専門分野の教員が、講義と演習形式で指導する。演習は、学生を6～8名のグループに分け、ゼミナール形式で指導する。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. 看護研究とは何か、研究テーマの見つけ方</td> <td style="width: 40%; text-align: center;">①</td> </tr> <tr> <td>2. 看護研究の手順、概念枠組みの作成</td> <td style="text-align: center;">①②</td> </tr> <tr> <td>3. 質的研究・量的研究</td> <td style="text-align: center;">①</td> </tr> <tr> <td>4. 看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題</td> <td style="text-align: center;">①②</td> </tr> <tr> <td>5. 文献検索の方法 (1)</td> <td style="text-align: center;">③</td> </tr> <tr> <td>6. 文献検索の方法 (2)</td> <td style="text-align: center;">③</td> </tr> <tr> <td>7. 文献検索の方法 (3)</td> <td style="text-align: center;">③</td> </tr> <tr> <td>8. セミナー</td> <td style="text-align: center;">②③</td> </tr> <tr> <td>9. セミナー</td> <td style="text-align: center;">②③</td> </tr> <tr> <td>10. データの整理と分析</td> <td style="text-align: center;">②</td> </tr> <tr> <td>11. 研究のまとめと研究発表（抄録、スライド、プレゼンテーション）</td> <td style="text-align: center;">②</td> </tr> <tr> <td>12. ゼミナール形式による演習 (1)</td> <td style="text-align: center;">①②③</td> </tr> <tr> <td>13. ゼミナール形式による演習 (2)</td> <td style="text-align: center;">①②③</td> </tr> <tr> <td>14. ゼミナール形式による演習 (3)</td> <td style="text-align: center;">①②③</td> </tr> <tr> <td>15. ゼミナール形式による演習 (4)</td> <td style="text-align: center;">①②③</td> </tr> </table>								1. 看護研究とは何か、研究テーマの見つけ方	①	2. 看護研究の手順、概念枠組みの作成	①②	3. 質的研究・量的研究	①	4. 看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題	①②	5. 文献検索の方法 (1)	③	6. 文献検索の方法 (2)	③	7. 文献検索の方法 (3)	③	8. セミナー	②③	9. セミナー	②③	10. データの整理と分析	②	11. 研究のまとめと研究発表（抄録、スライド、プレゼンテーション）	②	12. ゼミナール形式による演習 (1)	①②③	13. ゼミナール形式による演習 (2)	①②③	14. ゼミナール形式による演習 (3)	①②③	15. ゼミナール形式による演習 (4)	①②③
1. 看護研究とは何か、研究テーマの見つけ方	①																																				
2. 看護研究の手順、概念枠組みの作成	①②																																				
3. 質的研究・量的研究	①																																				
4. 看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題	①②																																				
5. 文献検索の方法 (1)	③																																				
6. 文献検索の方法 (2)	③																																				
7. 文献検索の方法 (3)	③																																				
8. セミナー	②③																																				
9. セミナー	②③																																				
10. データの整理と分析	②																																				
11. 研究のまとめと研究発表（抄録、スライド、プレゼンテーション）	②																																				
12. ゼミナール形式による演習 (1)	①②③																																				
13. ゼミナール形式による演習 (2)	①②③																																				
14. ゼミナール形式による演習 (3)	①②③																																				
15. ゼミナール形式による演習 (4)	①②③																																				
評価基準・評価方法																																					
授業への参加状況、課題レポート、および演習への参加態度で総合的に評価する。																																					
使用教科書				参考図書																																	
古橋洋子：基本がわかる看護研究ビギナーズ NOTE、学研、2011年				黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第3版、学研 横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版 竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル ナース専科 BOOKS、アンフェミア 川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院																																	
備 考																																					

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
専門科目 健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		課題研究			熊田 ますみ 他	-	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	1単位 (30時間)	実験・演習・実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;課題研究事前演習を踏まえ、それまでに履修した授業科目や実習から各人が関心のあるテーマを設定し、研究計画書を作成する。文献検索、論文収集、クリティークを主体的に進め、研究計画書を作成することで科学的な思考で看護を追求する姿勢を身に付ける。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <p>①必要な文献の収集が出来る。</p> <p>②いろいろな論文を読むことを通して、研究デザインや理論・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について理解を深めることができる。</p> <p>③研究課題の選択や吟味の方法を理解することができる。</p> <p>④研究計画書の作成が出来る。</p> <p>⑤科学的な思考や看護の根拠を追究・実践する姿勢を身につける。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 指導教員が提示した課題等を学習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; 指導教員が提示した課題等を学習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<p>学生を6～8名のグループに分け、教員がゼミナール形式で指導する。課題研究の授業内容の進度は、研究内容によりグループによって異なる。</p> <p>1. 研究テーマの絞込み</p> <p>2. } 文献検索・文献検討</p> <p>10. }</p> <p>11. } 研究計画書の作成</p> <p>15. }</p>							
評価基準・評価方法							
研究プロセスにおける主体的な取り組み（50%）と、期日までに提出された研究計画書（50%）にて評価する。							
使用教科書				参考図書			
古橋洋子：基本がわかる看護研究ビギナーズ NOTE、学研、2011年				黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step 第3版、学研 横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版 竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル ナース専科 BOOKS、アンフェミア 川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院			
備考							
課題研究事前演習を履修していることが前提である。進度により、不定期の時間にも演習などを行う。							

# 看護学科

統合科目



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
統合科目		在宅看護概論			小林 和成	非常勤講師	
看護の統合と実践							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 前学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;  在宅では、様々な疾病や障がいを抱える療養者、及び多様な形態を有する家族を対象に、各々の価値観や人生経験、生活習慣や生活環境、ライフステージ上の課題等の特徴を考慮した上で、QOL（生活の質）の維持・向上を図りながら療養者、及び家族が望む生活が継続できるよう、保健・医療・福祉面より総合的に支援することが求められる。</p> <p>本科目においては、在宅療養者や家族へのケア内容や方法の理解に留まらず、自己管理や介護に係る知識・技術等の教育的支援のあり方、さらには在宅療養生活を支えるフォーマル/インフォーマルな社会システム、社会の変化に即した包括ケアの中での在宅看護のあり方について学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会の変革に応じた在宅看護の機能や看護職の役割が理解できる。</li> <li>2. 地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を踏まえた支援内容と方法が理解できる。</li> <li>3. 在宅看護に必要な法制度や倫理的事項、危機管理、社会資源を支援内容や方法と関連付けられる。</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護の必要性を理解するため少子高齢化、疾病構造の変化、医療費支出等の社会背景に関する事項。</li> <li>・慢性的な療養を要する疾病や障がい等の特徴。</li> <li>・家族の定義、世帯数・構造、役割・機能、発達課題。</li> <li>・介護保険や地域包括ケアシステム等の法制度・仕組み。</li> </ul> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回30分以上</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業内容をテキストや資料等を用いて振り返り、理解できていること/理解できていないことに整理する。</li> <li>・理解できていないことは、自己学習やグループ学習にて理解の強化を図り、小テストにて理解出来ることと共に知識の結晶化を図る。</li> </ul> <p>&lt;必要時間&gt; 毎回30分以上</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域療養を支える看護/在宅看護とは/在宅看護の歴史の変遷と社会背景</li> <li>2. 在宅看護の倫理と基本理念/在宅ケアにおける在宅看護/在宅ケアチームの中の看護職</li> <li>3. } 在宅療養者および家族の理解と支援</li> <li>4. }</li> <li>5. 小テスト①、1～4の振り返り・理解の再統合</li> <li>6. 訪問看護の実際</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>9. 在宅ケアに携わる関連機関・関係職種との連携</li> <li>10. 小テスト②、6～10の振り返り・理解の再統合</li> <li>11. }</li> <li>12. }</li> <li>13. }</li> <li>14. }</li> <li>15. 小テスト③、11～15の振り返り・理解の再統合、全体のまとめ試験</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
定期試験（60%）、小テスト（30%）：授業計画の特定のみとまり毎に実施する。 学習態度（10%）：毎回、授業終了後に質疑応答を含めた学習成果確認票を配付し、記載内容を確認する。							
使用教科書				参考図書			
櫻井尚子 他編者：ナーシンググラフィカ21 在宅看護論－地域療養を支えるケア 第5版、メディカ出版				必要に応じて紹介する			
備考							
授業中に質問の時間を取る他、質問紙による質問には次回の授業時に回答します。							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
統合科目		在宅看護活動論Ⅰ（基礎）			○小林 美奈子 堀 信宏 井奈波 秀 他	教授 教授（理学） 非常勤講師	
看護の統合と実践							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				2年次 後学期	2単位 (90時間)	講義・演習 (オムニバス)
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 在宅看護活動論Ⅰでは、施設内看護とは異なる在宅看護の特徴を理解しつつ、これまで基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ日常生活援助技術や回復促進援助技術を応用し、在宅看護場面における援助の方法や創意工夫について学習する。また、在宅におけるターミナルケアや施設内から在宅に療養の場を移行する際の支援方法についても学習する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 在宅で提供する看護の基本的な技術を身につける。 2. 在宅での終末期看護・看取りの技術を学ぶ。 3. 多職種との連携・協働の必要性と看護師の役割を理解する。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 基礎看護技術で学んだ援助技術の基礎知識の復習、授業開講前に説明する事前学習を行う。 &lt;必要時間&gt;各回30分、提示した課題に各自必要な時間</p>				<p>&lt;内容&gt; 毎回の学習内容をテキストや資料で振り返りまとめる。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>			
授 業 計 画							
1. 在宅看護技術の特徴 (小林) 2. 清潔ケアの工夫（家庭にあるものを活用した洗髪用具の作成） (小林) 3. 清潔ケアの工夫（作成した物品での洗髪） (小林) 4. 清潔ケアの工夫（作成した物品での洗髪） (小林) 5. 在宅における安全の確保 感染対策・医療事故防止 (小林) 6. 在宅リハビリテーションの特徴と住宅改修のポイント (堀) 7. 福祉用具の活用（事例をもとにグループワーク） (小林) 8. 福祉用具の活用（事例をもとにグループワーク） (小林) 9. 在宅医療技術 ①在宅酸素療法 (川地) 10. 在宅医療技術 ②在宅人工呼吸療法 (川地) 11. 在宅医療技術 ③胃瘻・経管栄養④中心静脈栄養 (中川) 12. 在宅医療技術 ⑤尿路カテーテル・尿路ストーマ (清水) 13. 多職種連携における看護職の役割 (小林) 14. 在宅ターミナル ①在宅の看取りのケアと疼痛コントロール (小林) 15. 在宅ターミナル ②在宅訪問看護における終末期ケア (外部講師) 16. 退院支援・退院調整 (井奈波) 17. 退院支援・退院調整の実際 (井奈波) 18. 療養者に適した福祉用具（施設見学） (小林) 19. 療養者に適した福祉用具（施設見学） (小林) 20. 在宅における服薬管理・継続看護の実際 (小林) 試験							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
定期試験（70%）、課題レポート・演習参加態度（20%）、小テスト（10%）							
使用教科書				参考図書			
櫻井尚子 他編者：ナーシンググラフィカ 在宅看護論 - 地域療養を支えるケア（第5版）、メディカ出版				その他は必要に応じて紹介する			
備 考							
講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名																					
統合科目 看護の統合と実践		在宅看護活動論Ⅱ（発展）			○小林 美奈子 篠田 晃子	教授 非常勤講師																					
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態																				
		理学	作業	視機能																							
必修	○				3年次 前学期	1単位 (45時間)	講義・演習 (オムニバス)																				
選択																											
授業概要・学修の到達目標																											
<p>&lt;概要&gt; 在宅看護活動論Ⅱでは、在宅看護の始まりが対象者に受け入れて頂くことであるため、現場で対応できるように在宅でのコミュニケーション・面接技術さらに、訪問時のマナーについて演習を通して学習する。また、在宅療養者の事例を通して在宅ならではの情報収集・アセスメントの視点を理解し看護過程の展開方法を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 1. 在宅でのコミュニケーション・面接技術や、訪問時のマナーについて学ぶ。 2. 在宅看護論実習における学生の動き方や、実習で学ぶ内容を理解する。 3. 在宅看護論実習における情報収集の視点や、在宅看護という特性を考えた看護過程展開を理解する。</p>																											
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。																						
事前学習				事後学習																							
<p>&lt;内容&gt; ・コミュニケーションに関する基礎知識を復習する。 ・看護過程展開の基礎知識を復習する。 ・授業前または授業中に提示する課題を行う。 &lt;必要時間&gt;各回30分、提示した課題に各自必要な時間</p>				<p>&lt;内容&gt; ・毎回の学習内容をテキストや資料で振り返りまとめる。 &lt;必要時間&gt;各回30分</p>																							
授業計画																											
<table border="0"> <tr> <td>1. 在宅ケアを支える制度と社会資源</td> <td>(篠田)</td> </tr> <tr> <td>2. 在宅におけるコミュニケーションと訪問マナー</td> <td>(篠田)</td> </tr> <tr> <td>3. 在宅における看護過程展開①</td> <td>(篠田)</td> </tr> <tr> <td>4. 在宅における訪問場面の体験①</td> <td>ロールプレイ演習 (篠田)</td> </tr> <tr> <td>5. 在宅における訪問場面の体験②</td> <td>ロールプレイ演習 (小林)</td> </tr> <tr> <td>6. 在宅における訪問場面の体験③</td> <td>ロールプレイ演習 (小林)</td> </tr> <tr> <td>7. 在宅における訪問場面の体験④</td> <td>ロールプレイ発表 (篠田)</td> </tr> <tr> <td>8. 在宅における看護過程展開②</td> <td>(小林)</td> </tr> <tr> <td>9. 在宅における看護過程展開③</td> <td>(篠田)</td> </tr> <tr> <td>10. 在宅における看護過程展開④</td> <td>(小林)</td> </tr> </table> <p>試験</p>								1. 在宅ケアを支える制度と社会資源	(篠田)	2. 在宅におけるコミュニケーションと訪問マナー	(篠田)	3. 在宅における看護過程展開①	(篠田)	4. 在宅における訪問場面の体験①	ロールプレイ演習 (篠田)	5. 在宅における訪問場面の体験②	ロールプレイ演習 (小林)	6. 在宅における訪問場面の体験③	ロールプレイ演習 (小林)	7. 在宅における訪問場面の体験④	ロールプレイ発表 (篠田)	8. 在宅における看護過程展開②	(小林)	9. 在宅における看護過程展開③	(篠田)	10. 在宅における看護過程展開④	(小林)
1. 在宅ケアを支える制度と社会資源	(篠田)																										
2. 在宅におけるコミュニケーションと訪問マナー	(篠田)																										
3. 在宅における看護過程展開①	(篠田)																										
4. 在宅における訪問場面の体験①	ロールプレイ演習 (篠田)																										
5. 在宅における訪問場面の体験②	ロールプレイ演習 (小林)																										
6. 在宅における訪問場面の体験③	ロールプレイ演習 (小林)																										
7. 在宅における訪問場面の体験④	ロールプレイ発表 (篠田)																										
8. 在宅における看護過程展開②	(小林)																										
9. 在宅における看護過程展開③	(篠田)																										
10. 在宅における看護過程展開④	(小林)																										
評価基準・評価方法																											
小テスト（10%）、課題レポート・定期試験（90%）																											
使用教科書				参考図書																							
櫻井尚子 他編者：ナーシンググラフィカ 在宅看護論－地域療養を支えるケア（第5版）、メディカ出版				その他は必要に応じて紹介する																							
備考																											
講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。																											

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
統合科目		在宅看護論実習			小林 美奈子 他	-	
看護の統合と実践							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 前学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 地域で療養する人々やその家族を理解し、その人らしい在宅生活の継続に向けたケアの実践を学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅で療養生活を送る療養者とその家族の特徴を理解する。</li> <li>2. 生活の場であることを理解し、対象者が望む生活を考慮した看護のあり方を学ぶ。</li> <li>3. 在宅療養に必要な社会資源の種類や活用方法を学ぶ。</li> <li>4. 在宅療養に関わる多職種との役割と連携・調整方法を学ぶ。</li> <li>5. 人々の在宅療養や地域での暮らしを包括的に支援するしくみを学ぶ。</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;（提示された課題を行う時間約10時間程度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度。</li> <li>・受け持ち療養者の疾患と看護。</li> <li>・関連職種との連携。</li> </ul> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養者を支援するしくみ。</li> <li>・病棟における看護師の退院準備支援のあり方や地域における看護職の役割について。</li> </ul> <p>&lt;必要時間&gt;各回180分</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設 いび訪問看護ステーション、まつなみ訪問看護ステーション、訪問看護ステーション北方、白百合訪問看護ステーション、岩砂訪問看護ステーション、訪問看護ステーションひかり、うずら訪問看護ステーション、医師会訪問看護ステーション、安江訪問看護ステーション、訪問看護ステーション和光、サンライズケアステーション、岩砂病院、山田病院、山内ホスピタル、在宅介護支援センター平野、岐阜市地域包括支援センター岐北、あそか苑デイサービス</p> <p>II. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生を12～14名ずつの6グループに分け1班とする。在宅看護論実習においては、実習施設での受け入れ人数が、1～3名であるため、1班はおよそ10施設に分かれて実習を行う。</li> <li>2. 実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習など）を受ける。</li> <li>3. 施設の概要や利用者の特徴について紹介を受け、看護過程展開に生かす。</li> <li>4. 2週間のうち1週間を訪問看護ステーション、1週間のうち2日間を通所施設または退院調整部門または在宅支援施設などの施設で実習を行い、学内日に学びを発表する。</li> <li>5. 訪問看護ステーションでは、対象者1名を受け持ち、生活の場を対象の望む生活を考慮した看護を考える。</li> <li>6. 受け持ち以外の対象者についても、1日1～2件程度同行訪問する。</li> <li>7. 実習中に、ケアマネージャー、ホームヘルパー、医師、理学療法士、作業療法士などとの多職種との連携場面を学習する。</li> <li>8. 在宅療養を支えたり、在宅生活に繋ぐ施設では、その役割や連携方法を学ぶ。</li> <li>9. 1週間に1回程度カンファレンスを実施する。</li> <li>10. 学内日に実習内容の検討、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や各施設での学びを共有する。</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
実習目標の到達度、実習態度、実習記録など実習全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
櫻井尚子 他編者：ナーシンググラフィカ 在宅看護論－地域療養を支えるケア（第5版）、メディカ出版				講義資料を参考にする その他は必要に応じて紹介する			
備 考							
履修前提条件：【看護の原理と基礎】全科目と在宅看護概論および在宅看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、在宅看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
統合科目		安全管理論			伊川 順子	非常勤講師	
看護の統合と実践							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				1年次 後学期	1単位 (30時間)	講義
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt; 安全はあらゆる分野においても最も肝要な事である。特に近年、医療安全は医療界の最優先課題となっている。ここでは、医療安全と医療事故の問題に焦点をあて学習を進めたい。まず安全管理とは何かを理解し、その上で具体的な方法論を学ぶ。講義内容は、安全プログラムの中から感染防止・制御、環境安全・衛生、ヒューマンエラー、事故発生時の対応を取り上げる。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; 安全性の確保に結びつけられる知識と、リスク感性の向上につなげる</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 医療に関するマスコミ報道（新聞・テレビ・ラジオ・ネット等の情報）に関心を持つ</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 振り返り学習（自分だったらどうするか？相手はどのように考えるか？）</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授 業 計 画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全の概要と動向</li> <li>2. 医療における安全管理とは</li> <li>3. 感染予防と安全管理</li> <li>4. 医療従事者と個人情報保護法令</li> <li>5. 看護実践と危険予防の必要性（KYT）</li> <li>6. 医療者に必要な基礎的法知識</li> <li>7. 医療安全管理とコミュニケーション</li> <li>8. 医療安全を高める組織的な取り組み</li> <li>9. 5S活動 SBAR（コミュニケーションスキル）</li> <li>10. 医療安全対策：接遇</li> <li>11. 事故発生時の体制づくり</li> <li>12. 医療安全確保の考え方・手法（RCAの基礎知識）</li> <li>13. 危機管理（クレイマー・クレーム対応）</li> <li>14. 医療安全総集（新聞報道・医療安全かるた）</li> <li>15. 課題検討（まとめ） 定期試験</li> </ol>							
評 価 基 準 ・ 評 価 方 法							
履修態度（20%）、筆記試験（80%）での総合評価							
使用教科書				参考図書			
特別使用しないが、必要時書籍紹介 毎回、パワーポイント使用				系統看護学講座 総合分野 医療安全（医学書院） RCAの基礎知識と活用事例、等その他適宜紹介 学研 e ナーシング 厚生労働省の医療安全研修資料			
備 考							
関連する教科と結びつけて学習し、単に知識にとどまらず実践的能力として身につけてほしい。よって、積極的に学び取る姿勢で臨んでほしい。グループワークなども取り入れ出来るだけ参加型授業形態をとり、共に楽しく学べる授業としたい。（大声での雑談等で、授業を乱す学生は状況により退室）							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
統合科目 看護の統合と実践		災害看護論			○松田 好美 瀬瀬 朋弥	非常勤講師	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	1単位 (30時間)	講義 (オムニバス)
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt;大規模地震・洪水等の自然災害や大型交通事故や大火災などの人的災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から中・長期に渡り必要となる看護活動について理解を深める。被災地という特殊な状況下で行われる緊急医療、感染症対策、避難施設の保健対策、精神的ケア等の事例から、災害時における保健活動の概要を理解し、被災者に必要とされる医療・看護の基本的知識・技術を学んでいく。また、私たちが生活している地域にも、いつ災害が降りかかるかわからない状況である。そのため、災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術や判断・応用方法も考察する。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害が人々の健康生活に及ぼす影響を述べることができる。</li> <li>2. 平常期から災害時期、災害復興期における看護活動について述べるができる。</li> <li>3. 災害急性期における活動に必要な知識、判断、技術、行動を理解し、関連して述べるができる。</li> <li>4. 災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術を理解し、判断・応用を説明できる。</li> </ol>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; 授業開始までに、消防署などで一般市民用心肺蘇生の講習を受けておく（3～4時間）。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回30分</p>				<p>&lt;内容&gt; 各回の講義内容を振り返る。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、災害概論④</li> <li>2. 災害の分類、災害への備え：貴方はどうしますか（レポート課題の提示）④</li> <li>3. 災害サイクル、災害が人々の健康生活に及ぼす影響①</li> <li>4. 災害時に必要な看護技術：CSCA、トリアージ③</li> <li>5. 病院における災害看護：TTT②③</li> <li>6. 災害時に必要な看護技術：二次トリアージ（トリアージの実施）③</li> <li>7. 災害時の倫理的問題・法律問題、国家試験問題について②</li> <li>8. 災害被災者へのメンタルケア、災害援助者のストレスと緩和②</li> <li>9. 避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護（瀬瀬）②</li> <li>10. 避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護（瀬瀬）②</li> <li>11. 災害時に必要な看護技術：成人への心肺蘇生③</li> <li>12. 災害時に必要な看護技術：成人のALS、小児・乳児の心肺蘇生③</li> <li>13. 災害時に必要な看護技術：演習（成人、乳児への心肺蘇生）3グループに分けて行う③</li> <li>14. 災害発災時のケア、DMAT活動（ドクターヘリ活動を含む）（特別講義）③</li> <li>15. 地域における災害被災者へのケア（特別講義）②</li> </ol> <p>定期試験 （演習、特別講義、授業の順序は変更する）</p>							
評価基準・評価方法							
最終試験70%、レポート30%							
使用教科書				参考図書			
日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修：改訂5版救急蘇生法の指針2015 市民用・解説編、へるす出版（平成28年3月）							
備考							
授業時に質問調査紙を配布し授業最後に回収する。資料にない内容であれば、次回の授業開始時に回答する。 松田 E メール：matuda-y@gifu-u.ac.jp							



科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
統合科目 看護の統合と実践		総合判断育成演習			○熊田 ますみ 他	-	
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	2単位 (60時間)	演習
選択							
授 業 概 要 ・ 学 修 の 到 達 目 標							
<p>&lt;概要&gt;看護の統合実習に先立ち、看護師として実践チームの中で機能するために、複数の看護の対象の日常生活援助、診断の補助行為等、実際の場면을想定して演習を行い、場面に応じた技術、判断力を学ぶ。また、医療・看護における安全管理や、看護における国際交流・国際協力のしくみ、異文化理解など国際看護の基本理念について学ぶ。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt;</p> <p>①医療チームの一員として、看護におけるマネジメントの視点が理解できる。</p> <p>②チーム医療に関する基本的な知識を学ぶ。</p> <p>③医療・看護における安全管理の基本について学ぶ。また、KYTを通して医療安全におけるリスク感性を高める。</p> <p>④看護における国際交流・国際協力のしくみ、異文化理解など国際看護の基本理念について学ぶ。</p> <p>⑤「看護師教育の技術項目の到達度」より抽出した到達レベルⅢの5項目が根拠に基づいて正確に実施できる。</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt;</p> <p>・看護管理、チーム医療、医療安全、国際看護、基礎看護技術の各項目ごとに事前に提示される内容を学習する。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt;</p> <p>・看護管理、チーム医療、医療安全、国際看護、基礎看護技術の各項目で学んだことを、看護の統合実習に向けて、実習目標と照らし合わせて振り返りとまとめを行う。</p> <p>&lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<p>担当教員による授業・演習を下記のように行う。</p> <p>1. ～7. 看護管理および演習 (眞田・近藤・森岡) ①</p> <p>8. ～14. チーム医療および演習 (熊田・白田・清水) ②</p> <p>15. ～21. 医療安全および演習 (古田・小林・三品・青木) ③</p> <p>22. ～24. 国際看護および演習 (吉崎・中村・林(真)) ④</p> <p>25. ～30. 基礎看護技術の到達度および演習 (長田・長屋・二村・馬淵・岩瀬・林(宗)) ⑤</p> <p>&lt;演習の進め方&gt;</p> <p>1. セミナー形式で小グループ制・学生主導型の授業方法で行う。</p> <p>2. 臨床の現場に近い状況を模擬的に設定し、既習の知識・技術を活用し臨地で応用できる方法で行う。</p> <p>3. 臨床看護技術演習として診療の補助技術と患者の日常生活援助について、患者の状況をどのように捉え、援助の必要性を含めた方法の選択・実践をする。</p>							
評価基準・評価方法							
筆記試験、演習やグループワークへの参加状況、課題レポート提出等に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
なし				必要時、参考文献等を紹介する。			
備 考							
グループワーク等については、主体的に参加すること。 演習での発表内容については講評し、フィードバックする。							

科目区分		授業科目名			担当教員	職名	
統合科目		看護の統合実習			○熊田 ますみ 他	-	
看護の統合と実践							
区分	看護学科	リハビリテーション学科			配当年次	単位数 (時間数)	開講形態
		理学	作業	視機能			
必修	○				3年次 後学期	2単位 (90時間)	実習
選択							
授業概要・学修の到達目標							
<p>&lt;概要&gt; 各領域で学んだ知識・技術をもとに、医療チームの一員であることを認識し、自己の立場での責任と役割を果たす看護師の役割について学ぶ。さらに看護の継続性が理解でき、患者の健康レベルに応じた援助のあり方をチームメンバーと共に考えることができる。</p> <p>&lt;学修の到達目標&gt; ①看護師長の役割、看護チームの業務を理解し、看護管理のあり方や他部門との調整等の見学を通して、看護管理の実際を学び、理解を深めることができる ②看護師とのペア実習をとおり、業務の流れ、業務の調整、多重課題への対処の仕方など、一勤務帯の看護活動を学ぶ ③早朝・夕方の実習体験を通して、早朝や夕方の患者の生活状況を知り、継続した看護のあり方を学ぶ ④看護の統合実習で学んだことを通して、自己の目標や課題を明確にできる</p>							
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と授業科目の関連					P.14のカリキュラムマップを参照してください。		
事前学習				事後学習			
<p>&lt;内容&gt; ・総合判断育成演習での学びを振り返る。（看護管理・チーム医療・医療安全） ・病棟の主な疾患、治療、検査、処置等の学習をする。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>				<p>&lt;内容&gt; ・将来、専門職である看護職として働く立場から、看護師の倫理綱領を再学習する。 &lt;必要時間&gt;各回60分</p>			
授業計画							
<p>I. 実習施設 平野総合病院 揖斐厚生病院 松波総合病院 各務原リハビリテーション病院 岩砂病院岩砂マタニティ</p> <p>II. 実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生は、1グループ4～6名で編成し、病院のいずれかの病棟で2週間実習を行う。</li> <li>2. 実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習等）を受ける。</li> <li>3. 看護師長、チームリーダー、チームメンバーと行動を共にし、見学を通して各々の役割と業務を知る。</li> <li>4. 学生は看護師とペアになり行動を共にして、複数の対象に行われている看護活動を学ぶ。</li> <li>5. 早朝または夕方の時間帯の実習を経験し、24時間の対象の状況及び看護師の動きを知る。</li> <li>6. 適宜カンファレンスを実施し、問題の解決や学習内容の共有をする。</li> <li>7. 実習終了後、実習目標に対する達成状況、自己の課題や看護観をレポートにまとめる。</li> <li>8. 実習終了後、学生全体で反省会を行い学びの共有をする。</li> </ol>							
評価基準・評価方法							
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。							
使用教科書				参考図書			
なし							
備考							
履修前提条件：【看護の原理と基礎】の全科目、成人看護学実習Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学・精神看護学実習、在宅看護論実習の単位を修得済みであること。総合判断育成演習を履修中であること。							



